資料　6

尼崎市障害者計画等の改定に係る

アンケート調査結果報告書

令和２年３月

尼　崎　市

目　次

Ⅰ　調査概要 1
1．調査の目的 1
2．調査の設計 1
3．回収結果 2
4．報告書の見方 2

Ⅱ　調査結果 3
1．回答者の属性 3
2．保健・医療について 13
3．福祉サービス、相談支援について 18
4．療育・教育について 30
5．雇用・就労について 38
6．生活環境、移動・交通について 50
7．スポーツ・文化、社会参加活動（生涯学習活動）について 63
8．安全・安心について 70
9．情報、啓発・差別の解消について 76
10．権利擁護、行政サービス等における配慮について 92
11．福祉施策について 94
12．介助者への質問 96
13．自由回答 104

Ⅰ　調査概要

１．調査の目的

令和３年度からの尼崎市障害者計画の改定のための基礎資料とするほか、今後の障害者施策を進めるにあたっての参考とするため、市内在住の障害のある方を対象に、普段の生活の様子や福祉サービスの利用状況等について、調査を実施した。

２．調査の設計

≪調査対象者≫

令和元年 12 月 31 日現在において、本市の身体障害者手帳所持者・難病患者・療育手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者のうち、手帳所持者※1については、幅広い年齢層からの回答を得るため、障害種別や年齢層ごとの人数割合を設定した上で、全対象者からの無作為抽出を行った。

また、難病患者については、関係団体に協力を依頼した。

①	身体障害のある人	18 歳以上の身体障害者手帳所持者	3,000 人
	難病の人	18 歳以上の難病患者	80 人
	知的障害のある人	18 歳以上の療育手帳所持者	1,350 人
②	精神障害のある人	18 歳以上の精神障害者保健福祉手帳所持者	1,900 人
③	障害のある児童	18 歳未満の障害者手帳所持者	1,170 人
		18 歳未満の障害児通所支援等のサービス利用者※2	
合　計			7,500 人

※1：身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の総称を「障害者手帳」と表記している。

※2：18 歳未満の障害児通所支援等のサービス利用者は、障害者手帳の未所持の方を対象としている。

≪調査期間≫

令和２年２月 13 日（木）～ 令和２年２月 28 日（金）

≪調査方法≫

調査票は、①18 歳以上の身体障害者手帳・療育手帳所持者用・難病患者用、②18 歳以上の精神障害者保健福祉手帳所持者用、③18 歳未満の障害者手帳所持者等用、の３種類とし、郵送による配布・回収を行った。（難病患者用調査については、関係団体を通じて配布し、郵送による回収を行った。）

なお、回答は本人（または、本人が記入できない場合は家族等）の自記入方式とした。

３．回収結果

≪回収数・回収率≫

調査対象者	調査数（配布数）	回収数	有効回収数※	有効回収率
障害のある人（18 歳以上）	6,330	2,477	2,473	39.1%
身体障害のある人	3,000	1,246	1,245	41.5%
難病の人	80	45	45	56.1%
知的障害のある人	1,350	506	506	37.5%
精神障害のある人	1,900	680	677	35.6%
障害のある児童（18 歳未満）	1,170	422	422	36.1%
合　計	7,500	2,899	2,895	38.6%

※：「有効回答数」とは、「回収数」から白票、無回答の回答票などの無効票４件を除いた集計母数対象件数。

≪抽出数※≫

抽出区分	18 歳未満	18 歳以上	合計
身体障害	68	1,342	1,410
難病	24	280	304
高次脳機能障害	4	65	69
知的障害	282	587	869
発達障害	294	338	632
精神障害	4	690	694
合計（延べ数）	676	3,302	3,978

※：「抽出数」とは、各調査票の回答を合算し、抽出区分別に集計をして得た数値。
なお、身体障害のある人は「身体障害」、難病の人は「難病」、高次脳機能障害と診断された人は「高次脳機能障害」、知的障害のある人は「知的障害」、発達障害と診断された人は「発達障害」、精神障害のある人は「精神障害」と表記している。

４．報告書の見方

○回答は各質問の回答者数（ｎ）を基数とした百分率（%）で示している。

○百分率は小数点以下第２位を四捨五入して算出した。このため、百分率の合計が 100%にならないことがある。

○１つの質問に２つ以上答えられる“複数回答可能”の場合は、回答比率の合計が 100%を超える場合がある。

○グラフ等の記載にあたっては，調査票の選択肢の文言を一部省略している場合がある。

○サンプル数が少ないものについては、コメントを割愛している。

○障害種別等のクロス集計表については、１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。なお、割合が同じ回答が複数ある場合は、３項目以上に網掛けをしている場合がある。

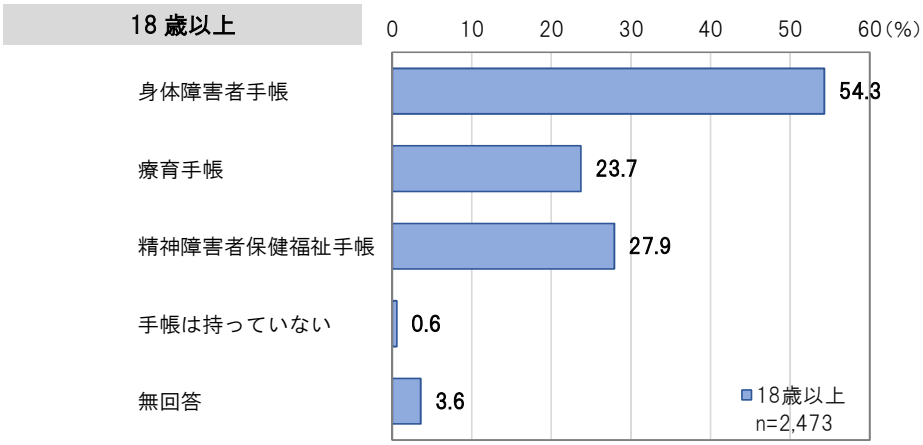
Ⅱ　調査結果

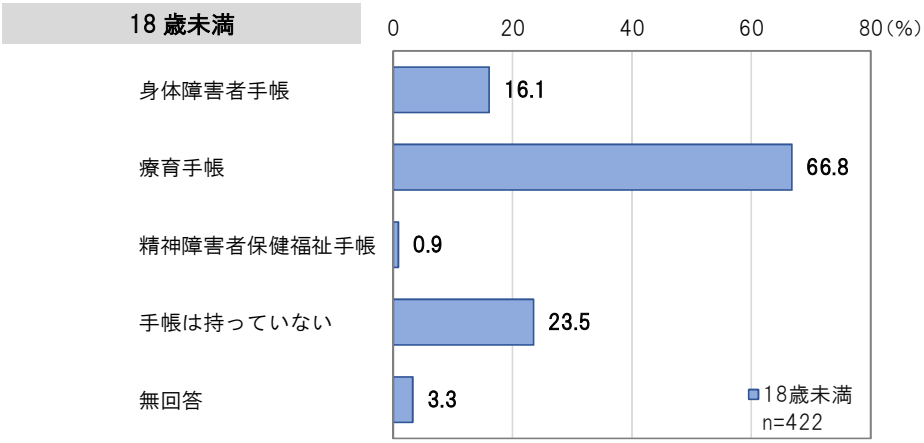
１．回答者の属性

（１）所持手帳の種類（複数回答）

・所持手帳の種類は、18 歳以上をみると「身体障害者手帳」が半数以上（54.3%）を占めて最も多く、次いで「精神障害者保健福祉手帳」（27.9%）、「療育手帳」（23.7%）となっている。

・18 歳未満をみると「療育手帳」が６割以上（66.8%）を占めて最も多く、次いで「身体障害者手帳」（16.1%）、「精神障害者保健福祉手帳」（0.9%）となっており、「手帳は持っていない」が２割以上（23.5%）となっている。

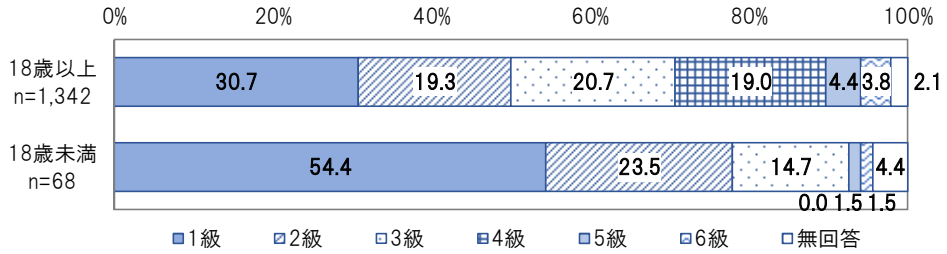




（１）①身体障害者手帳の等級

・身体障害者手帳の等級は、18 歳以上をみると「１級」が約３割（30.7%）と最も多く、次いで「３級」（20.7%）、「２級」（19.3%）、「４級」（19.0%）の順となっている。

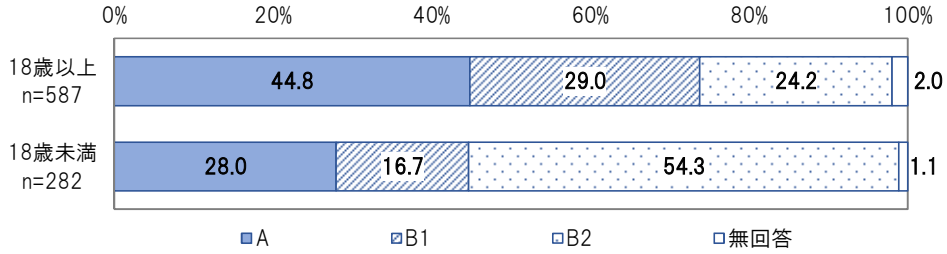
・18 歳未満をみると、「１級」が半数以上（54.4%）を占めて最も多く、次いで「２級」（23.5%）、「３級」（14.7%）の順となっている。



（１）②療育手帳の等級

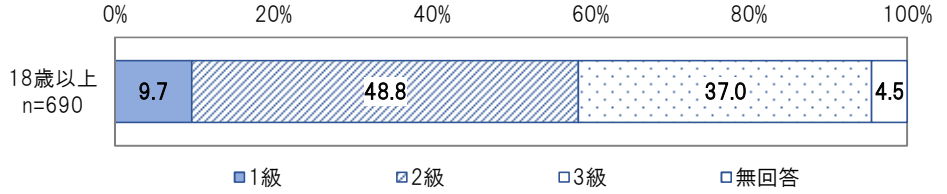
・療育手帳の等級は、18 歳以上をみると「Ａ」が４割以上（44.8%）と最も多く、次いで「Ｂ１」（29.0%）、「Ｂ２」（24.2%）の順となっている。

・18 歳未満をみると、「Ｂ２」が半数以上（54.3%）を占めて最も多く、次いで「Ａ」（28.0%）、「Ｂ１」（16.7%）の順となっている。



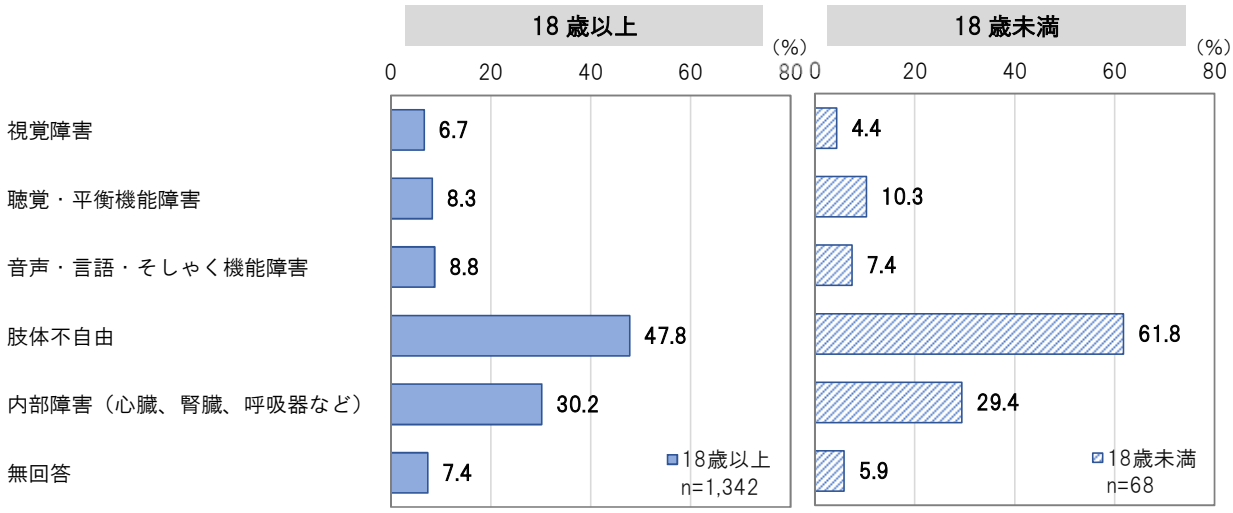
（１）③精神障害者保健福祉手帳の等級

・精神障害者保健福祉手帳の等級は、18 歳以上をみると「２級」が半数近く（48.8%）を占めて最も多く、次いで「３級」（37.0%）、「１級」（9.7%）の順となっている。



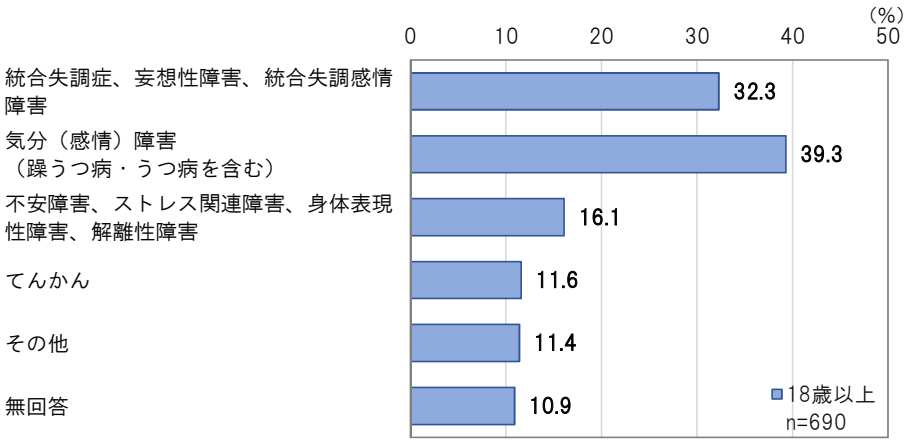
（１）④身体障害者手帳所持者の障害の種類・原因（複数回答）

・身体障害の種類・原因は、18 歳以上・18 歳未満ともに「肢体不自由」が最も多く、18 歳以上では半数近く（47.8%）、18 歳未満では６割以上（61.8%）を占めている。



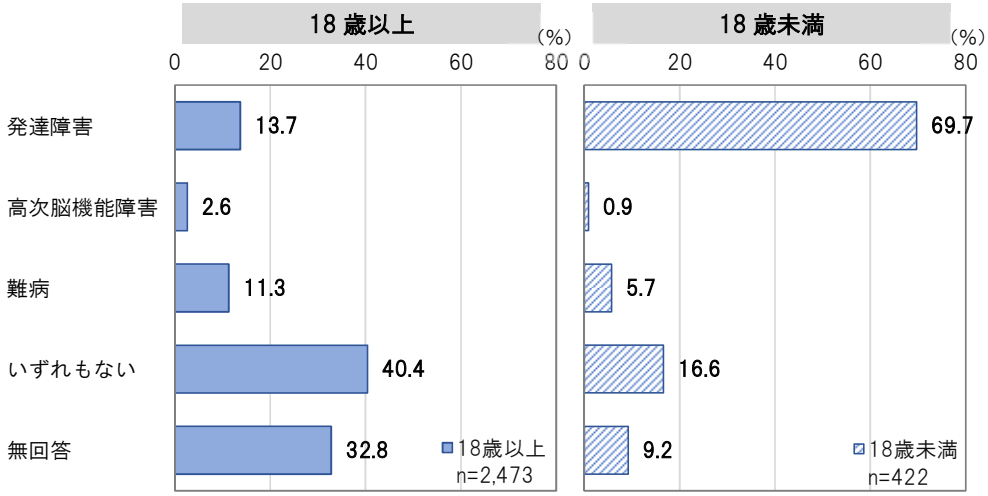
（１）⑤精神障害者保健福祉手帳所持者の障害の種類・原因（複数回答）

・精神障害の種類・原因は、18 歳以上で「気分（感情）障害（躁うつ病・うつ病を含む）」が約４割（39.3%）と最も多く、次いで「統合失調症、妄想性障害、統合失調感情障害」（32.3%）、「不安障害、ストレス関連障害、身体表現性障害、解離性障害」（16.1%）、「てんかん」（11.6%）の順となっている。



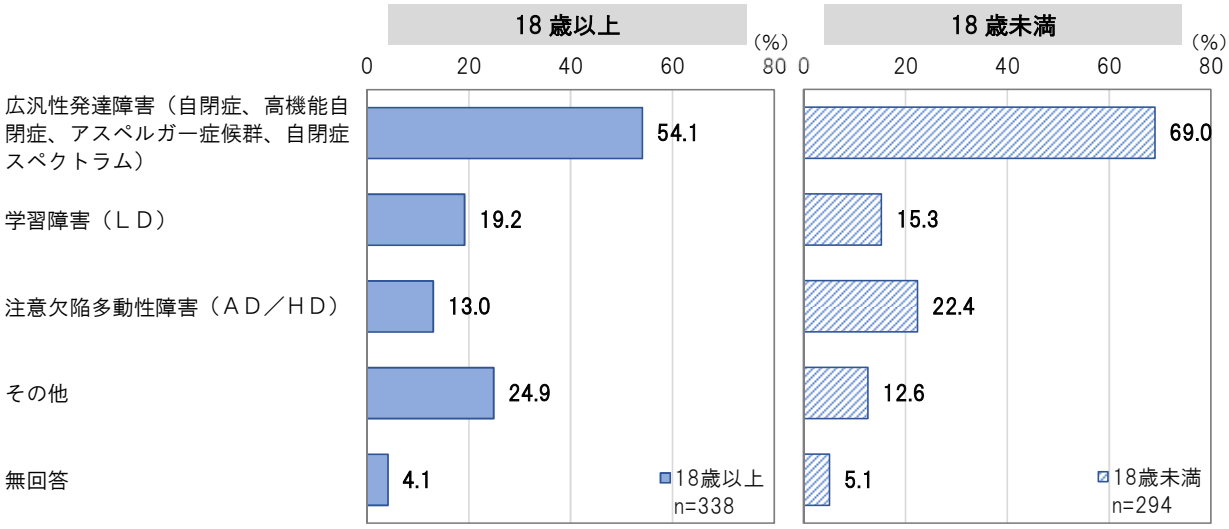
（２）診断されている障害の種類（複数回答）

- 診断されている障害の種類は、18 歳以上をみると「いずれもない」が約４割（40.4%）と最も多くなっているものの、「発達障害」（13.7%）や「難病」（11.3%）がともに１割以上となっている。
- 18 歳未満をみると、「発達障害」が約７割（69.7%）を占めて最も高くなっており、次いで「難病」（5.7%）となっている。



（２）①発達障害の種類（複数回答）

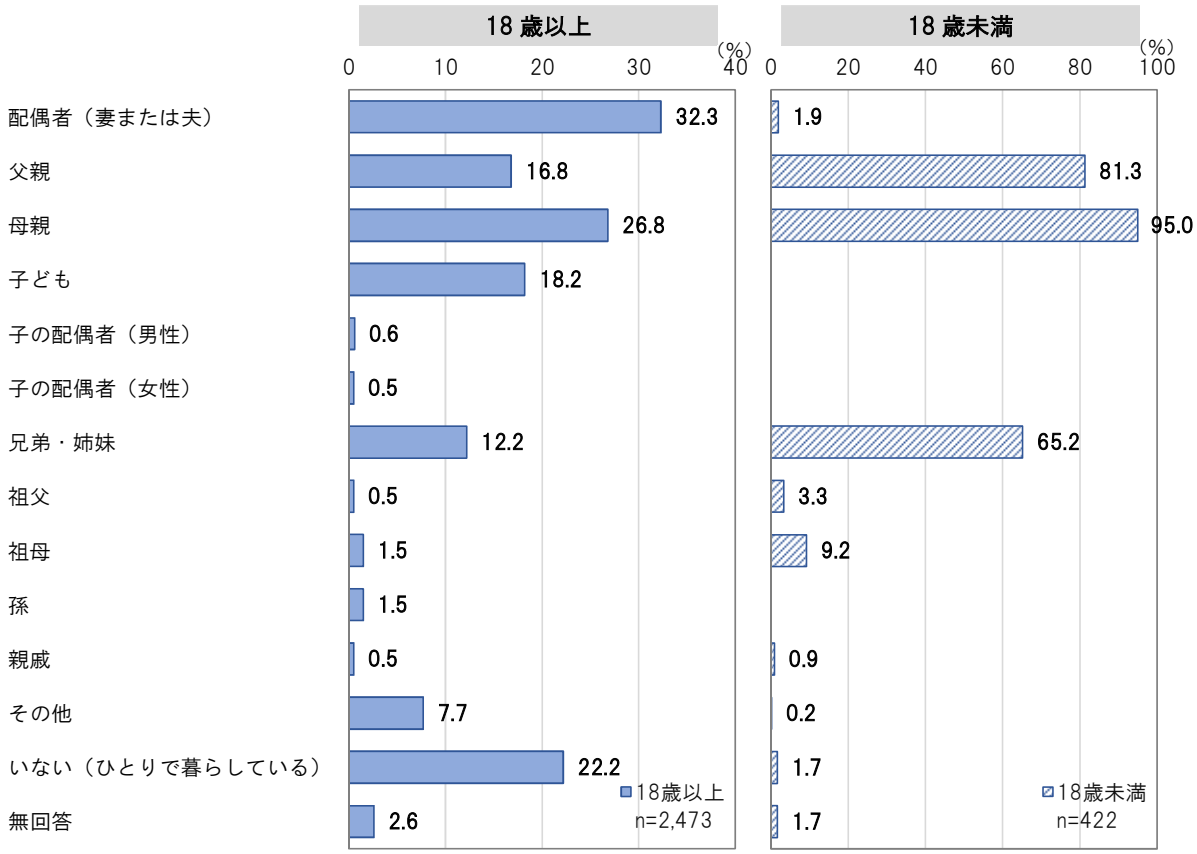
- 発達障害の種類は、18 歳以上・18 歳未満ともに「広汎性発達障害（自閉症、高機能自閉症、アスペルガー症候群、自閉症スペクトラム）」が最も多く、18 歳以上では半数以上（54.1%）、18 歳未満では約７割（69.0%）を占めている。
- 18 歳以上をみると、次いで「学習障害（ＬＤ）」（19.2%）、「注意欠陥多動性障害（ＡＤ／ＨＤ）」（13.0%）となっており、18 歳未満をみると、次いで「注意欠陥多動性障害（ＡＤ／ＨＤ）」（22.4%）、「学習障害（ＬＤ）」（15.3%）となっている。



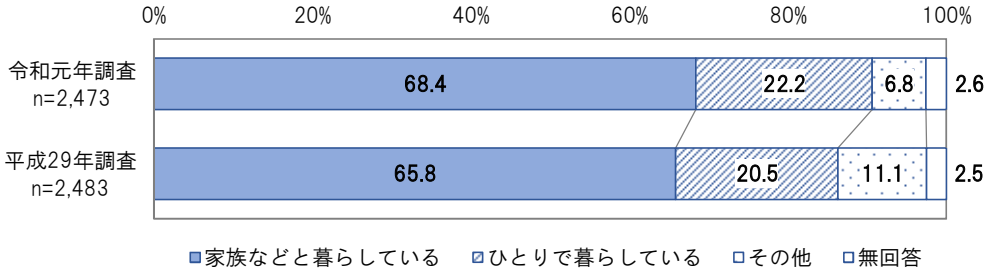
（３）普段一緒に暮らしている人（複数回答）

・普段一緒に暮らしている人は、18 歳以上をみると「配偶者（妻または夫）」が３割以上（32.3%）と最も多く、次いで「母親」（26.8%）となっている。また、「いない（ひとりで暮らしている）」が２割以上（22.2%）となっている。

・18 歳未満をみると、「母親」が 95.0%と最も多く、次いで「父親」（81.3%）、「兄弟・姉妹」（65.2%）の順となっている。



・18 歳以上の暮らしの状況について、平成 29 年調査と比較すると、「家族などと暮らしている」や「ひとりで暮らしている」と回答した人がともにやや増加している。



・障害種別にみると、18 歳以上では、身体障害・難病・高次脳機能障害では「配偶者」や「子ども」、知的障害・発達障害では「母親」や「父親」、精神障害では「いない（ひとりで暮らしている）」が最も多くなっている。
・18 歳未満では、いずれの障害においても「母親」、「父親」、「兄弟・姉妹」の回答が多くなっている。

		回答者（人）	配偶者（妻または夫）	父親	母親	子ども	子の配偶者（男性）	子の配偶者（女性）	兄弟・姉妹
18 歳以上	身体障害	1,342	**46.3**	9.3	16.8	25.0	1.0	0.4	6.7
	難病	280	**49.3**	12.1	22.1	25.0	0.4	0.7	8.2
	高次脳機能障害	65	**35.4**	9.2	16.9	20.0	1.5	－	9.2
	知的障害	587	3.2	43.8	**64.1**	2.7	－	0.2	31.2
	発達障害	338	8.3	43.5	**59.8**	5.3	－	－	30.8
	精神障害	690	25.7	14.5	23.3	16.1	0.7	1.0	9.3
18 歳未満	身体障害	68	2.9	88.2	**89.7**	－	－	－	70.6
	知的障害	282	2.1	80.1	**95.4**	－	－	－	68.4
	発達障害	294	2.0	79.9	**96.9**	－	－	－	66.7

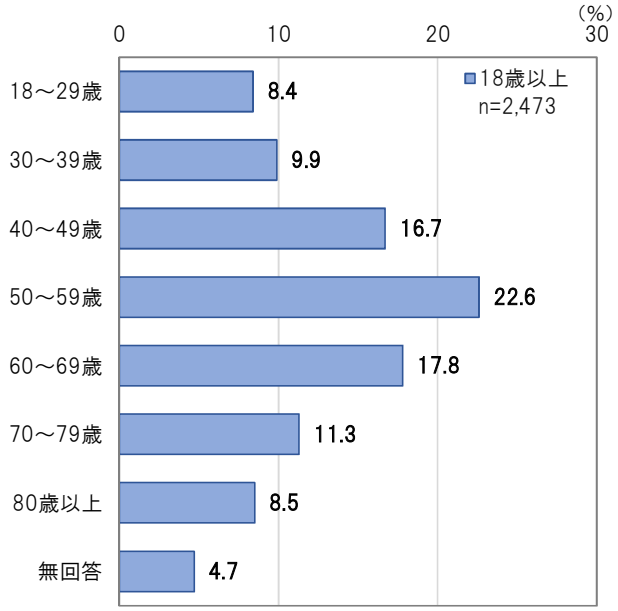
		回答者（人）	祖父	祖母	孫	親戚	その他	いない（ひとりで暮らしている）	無回答
18 歳以上	身体障害	1,342	0.2	0.7	1.9	0.4	5.1	22.9	0.8
	難病	280	0.7	1.1	1.4	0.4	6.1	17.9	0.7
	高次脳機能障害	65	－	－	－	－	16.9	18.5	1.5
	知的障害	587	1.9	4.6	0.3	0.7	16.4	7.7	1.2
	発達障害	338	2.4	5.9	0.3	－	10.4	13.0	0.6
	精神障害	690	0.1	0.9	1.0	0.7	7.8	**32.5**	1.3
18 歳未満	身体障害	68	5.9	11.8	－	2.9	－	1.5	1.5
	知的障害	282	3.9	10.3	－	0.4	－	0.7	0.7
	発達障害	294	3.7	9.9	－	0.7	－	－	－

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

（４）年齢

≪18 歳以上≫

・18 歳以上では、「50～59 歳」が２割以上（22.6%）と最も多く、次いで「60～69 歳」（17.8%）、「40～49 歳」（16.7%）の順となっている。



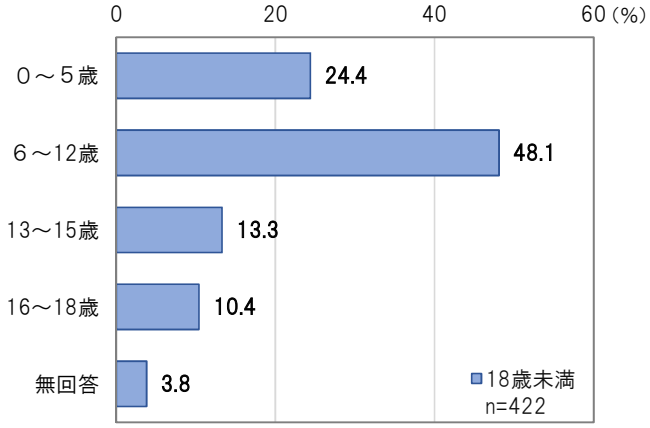
・障害種別にみると、知的障害・発達障害では「18～29 歳」が最も多く、「30～39 歳」、「40～49 歳」を合わせた『49 歳以下』が７割以上を占めている。一方で、身体障害では『70 歳以上』が３割近く（28.9%）と多くなっている。

		回答者（人）	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	無回答
18 歳以上	身体障害	1,342	3.7	5.1	11.7	**24.5**	23.2	15.8	13.1	2.8
	難病	280	6.1	5.0	18.6	**25.0**	22.9	12.9	7.1	2.5
	高次脳機能障害	65	1.5	6.2	16.9	**35.4**	15.4	13.8	9.2	1.5
	知的障害	587	**26.4**	21.6	25.6	13.6	5.6	2.4	1.2	3.6
	発達障害	338	**34.3**	23.4	23.1	11.5	1.8	2.1	2.4	1.5
	精神障害	690	4.9	11.9	22.6	**27.2**	16.4	10.1	4.2	2.6

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

≪18 歳未満≫

・18 歳未満では、「6～12 歳」が半数近く（48.1%）を占めて最も多く、次いで「0～5歳」（24.4%）、「13～15 歳」（13.3%）、「16～18 歳」（10.4%）の順となっている。



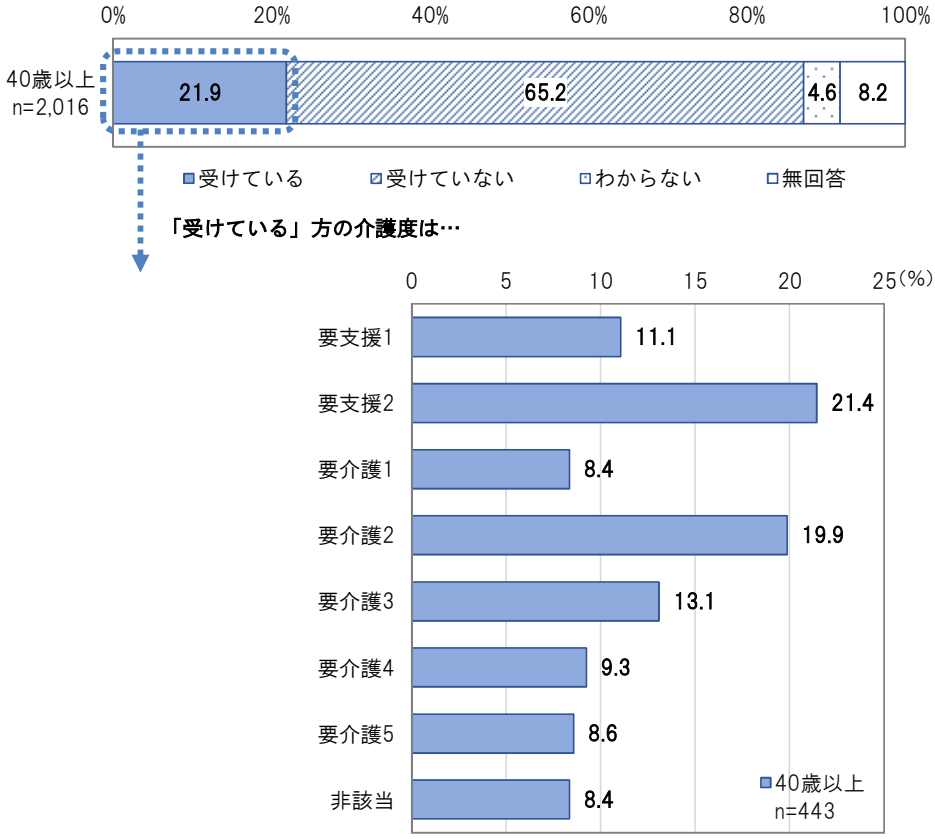
・障害種別にみると、いずれの障害においても「6～12 歳」が最も多くなっている。

		回答者（人）	0～5歳	6～12歳	13～15歳	16～18歳	無回答
18 歳未満	身体障害	68	30.9	**35.3**	11.8	19.1	2.9
	知的障害	282	18.1	**49.6**	18.1	12.1	2.1
	発達障害	294	20.1	**52.7**	15.3	8.8	3.1

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

（５）要介護認定の認定区分　※40 歳以上の方のみ

- 40 歳以上の方の要介護認定については、「受けていない」が６割以上（65.2%）を占めて最も多くなっている。
- 要介護認定を受けている方の認定区分については、「要支援２」が２割以上（21.4%）を占めて最も多く、次いで「要介護２」（19.9%）、「要介護３」（13.1%）、「要支援１」（11.1%）の順となっている。



・要介護認定を受けている方の認定区分の内訳を障害種別にみると、身体障害・難病では「要支援２」、高次脳機能障害・知的障害・精神障害では「要介護２」、発達障害では「要介護１」が最も多くなっている。
・また、精神障害では「非該当」が２割を超えており、その他の障害に比べてやや多くなっている。

		回答者（人）	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	非該当
18 歳以上	身体障害	394	11.1	**21.4**	8.4	19.9	13.1	9.3	8.6	8.4
	難病	326	11.3	**25.2**	5.5	21.5	12.6	8.6	8.0	7.4
	高次脳機能障害	80	7.5	21.3	5.0	**26.3**	15.0	12.5	8.8	3.8
	知的障害	34	2.9	14.7	8.8	**29.4**	17.6	8.8	17.6	－
	発達障害	26	7.7	7.7	**19.2**	15.4	11.5	15.4	3.8	19.2
	精神障害	21	－	19.0	14.3	**23.8**	14.3	4.8	－	**23.8**

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

（５-１）障害福祉サービスから介護保険サービスに移行して困ったこと

※（５）で「要支援１」から「非該当」までのいずれかに回答した方のみ

・障害福祉サービスから介護保険サービスに移行して困ったことについては、「費用負担が増えた」や「サービスが受けられない」などの回答が多くなっている。

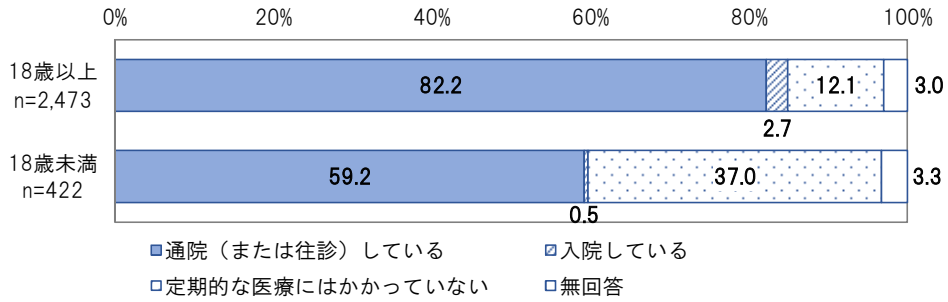
意見	件数
利用料が高くなった／費用負担が増えた	6
症状は変わらないのに、受けられるサービスが変わった（以前のサービスが受けられない）	5
リハビリが受けられなくなった／医療で対応してもらえない	2
介護認定の基準が高くて困る	1
サービス内容がどう変わったのかわからない	1
サービス事業所の選択肢が少なくなった	1
介護保険への移行までに時間がかかり、空白の期間ができてしまう	1
介護職員やヘルパーの障害への理解が少ない	1

2．保健・医療について

（1）継続した定期的な医療への受診の状況

・継続した定期的な医療への受診については、18 歳以上・18 歳未満ともに「通院（または往診）している」が最も多く、18 歳以上では８割以上（82.2%）、18 歳未満では約６割（59.2%）を占めている。

・一方で、「定期的な医療にはかかっていない」が、18 歳以上では１割以上（12.1%）、18 歳未満では４割近く（37.0%）となっている。



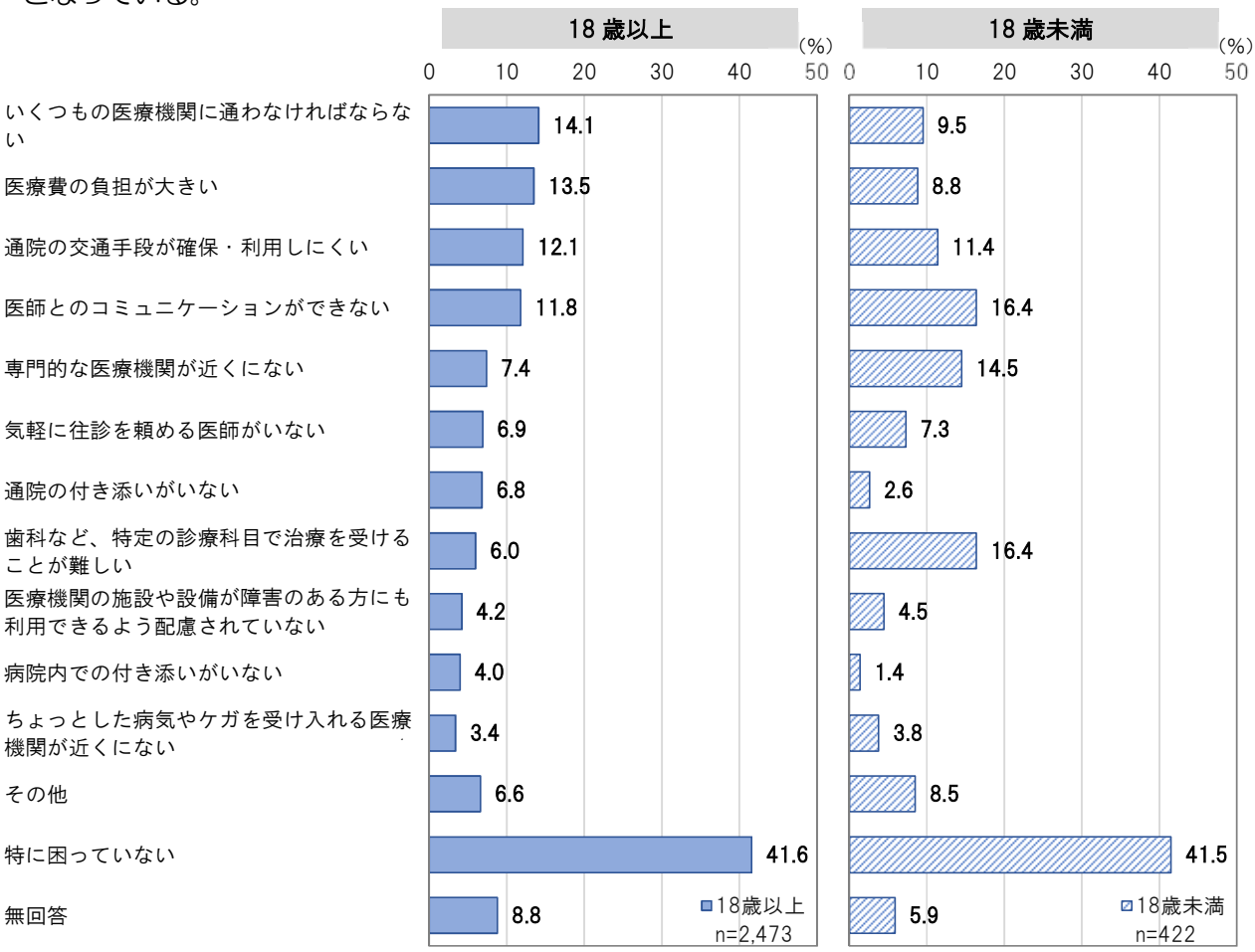
・障害種別にみると、18 歳以上・18 歳未満ともに、知的障害・発達障害では「定期的な医療にはかかっていない」が、その他の障害に比べて高くなっており、特に 18 歳未満では３割を超えている。

		回答者（人）	通院（または往診）している	入院している	定期的な医療にはかかっていない	無回答
18 歳以上	身体障害	1,342	**84.6**	2.3	10.7	2.3
	難病	280	**90.0**	4.3	3.9	1.8
	高次脳機能障害	65	**89.2**	4.6	3.1	3.1
	知的障害	587	**70.2**	1.9	22.7	5.3
	発達障害	338	**74.0**	1.2	21.6	3.3
	精神障害	690	**90.9**	5.1	2.8	1.3
18 歳未満	身体障害	68	**85.3**	2.9	7.4	4.4
	知的障害	282	**62.4**	0.7	34.0	2.8
	発達障害	294	**59.9**	－	38.4	1.7

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

（２）医療機関を受診するときに困っていること（複数回答）

- 医療機関を受診するときに困っていることについては、18 歳以上・18 歳未満ともに「特に困っていない」が４割以上と最も多くなっている。
- 具体的に困っていることでは、18 歳以上では「いくつもの医療機関に通わなければならない」が 14.1％と多く、次いで「医療費の負担が大きい」（13.5％）、「通院の交通手段が確保・利用しにくい」（12.1％）、「医師とのコミュニケーションができない」（11.8％）の順となっている。18 歳未満では「医師とのコミュニケーションができない」と「歯科など、特定の診療科目で治療を受けることが難しい」が 16.4％と多く、次いで「専門的な医療機関が近くにない」（14.5％）となっている。



・障害種別にみると、いずれの障害においても「特に困っていない」の回答が多くなっている。
・具体的に困っていることでは、18 歳以上の身体障害・難病・精神障害では「いくつもの医療機関に通わなければならない」、知的障害・発達障害では「医師とのコミュニケーションができない」、18 歳未満では「歯科など、特定の診療科目で治療を受けることが難しい」などの回答がやや多くなっている。

		回答者（人）	いくつもの医療機関に通わなければならない	医療費の負担が大きい	通院の交通手段が確保・利用しにくい	医師とのコミュニケーションができない	専門的な医療機関が近くにない	気軽に往診を頼める医師がいない	通院の付き添いがいない
18 歳以上	身体障害	1,342	13.5	12.4	12.4	7.2	5.8	4.9	6.6
	難病	280	19.3	16.1	15.0	6.4	7.9	7.5	10.0
	高次脳機能障害	65	15.4	18.5	13.8	21.5	6.2	6.2	7.7
	知的障害	587	9.4	9.9	8.3	24.9	10.1	8.2	7.8
	発達障害	338	13.0	13.3	10.4	27.2	12.4	10.7	7.7
	精神障害	690	21.6	17.5	14.5	12.9	9.6	10.0	7.8
18 歳未満	身体障害	68	23.5	8.8	23.5	17.6	16.2	14.7	5.9
	知的障害	282	12.4	11.3	13.1	19.1	15.2	8.9	3.5
	発達障害	294	8.5	10.9	12.2	18.0	16.0	7.5	2.4

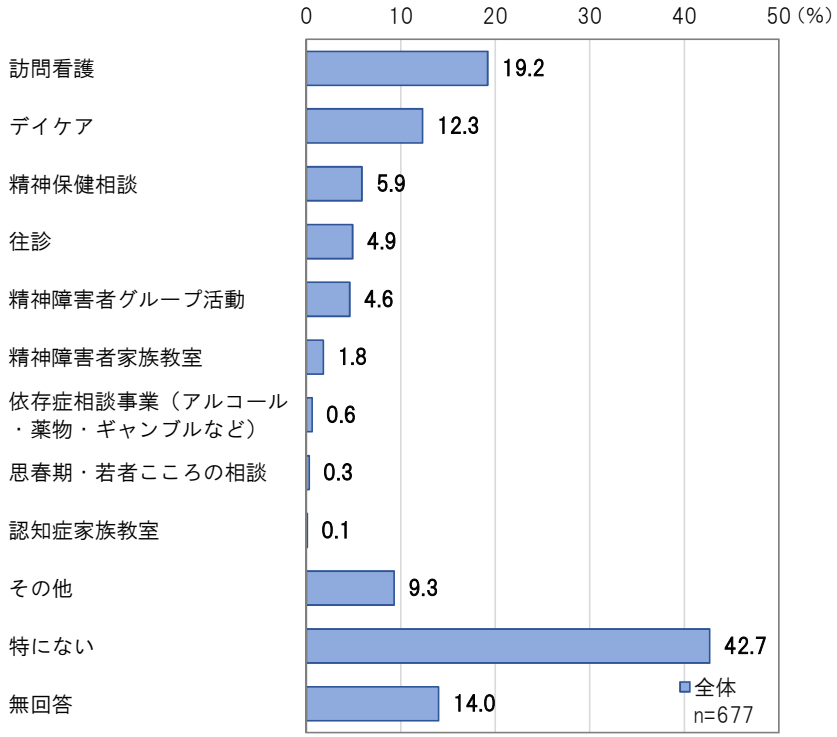
		回答者（人）	歯科など、特定の診療科目で治療を受けることが難しい	医療機関の施設や設備が障害のある方にも利用できるよう配慮されていない	病院内での付き添いがいない	ちょっとした病気やケガを受け入れる医療機関が近くにない	その他	特に困っていない	無回答
18 歳以上	身体障害	1,342	5.6	4.1	4.3	3.0	4.6	**45.8**	8.4
	難病	280	9.3	5.4	6.1	2.9	7.9	**37.5**	5.7
	高次脳機能障害	65	10.8	6.2	4.6	4.6	6.2	**26.2**	7.7
	知的障害	587	7.2	6.5	4.9	4.8	8.5	**39.2**	10.7
	発達障害	338	9.2	7.7	5.0	5.3	10.7	**34.0**	6.2
	精神障害	690	6.8	3.6	4.3	3.8	9.6	**32.8**	8.7
18 歳未満	身体障害	68	19.1	17.6	4.4	8.8	7.4	**26.5**	4.4
	知的障害	282	19.9	5.3	1.4	5.0	8.9	**36.2**	5.7
	発達障害	294	18.0	4.1	1.7	4.4	10.5	**41.5**	4.1

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

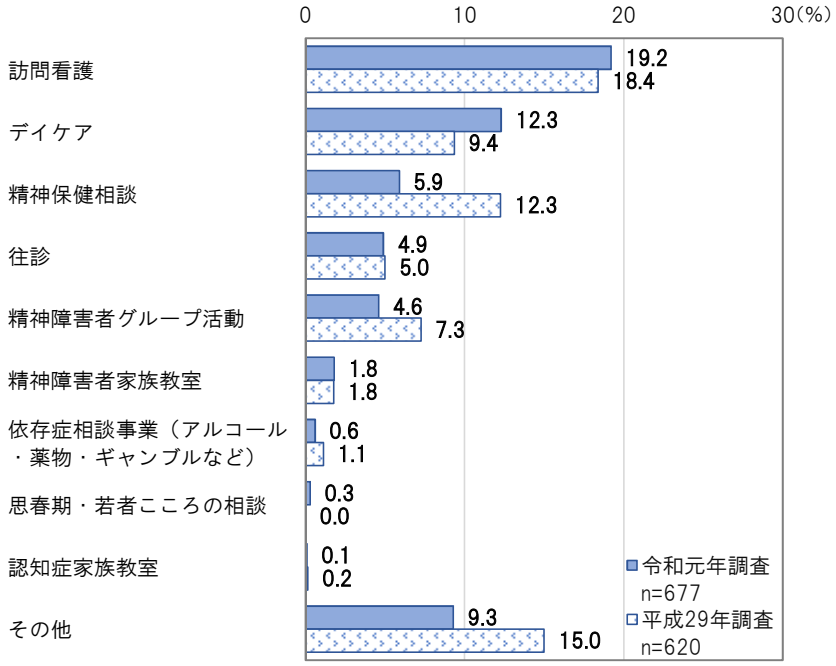
（３）現在、受けている支援（医療的な支援を含む）（複数回答）

※18 歳以上の障害者保健福祉手帳所持者のみ

- 現在受けている医療的な支援については、「特にない」が４割以上（42.7%）と最も多くなっている。
- 具体的に受けている医療的な支援では、「訪問看護」が約２割（19.2%）と多く、次いで「デイケア」（12.3%）となっている。



・平成 29 年調査と比較すると、「訪問看護」や「デイケア」で利用が増加しているのに対し、「精神保健相談」や「精神障害者グループ活動」の利用が減少している。



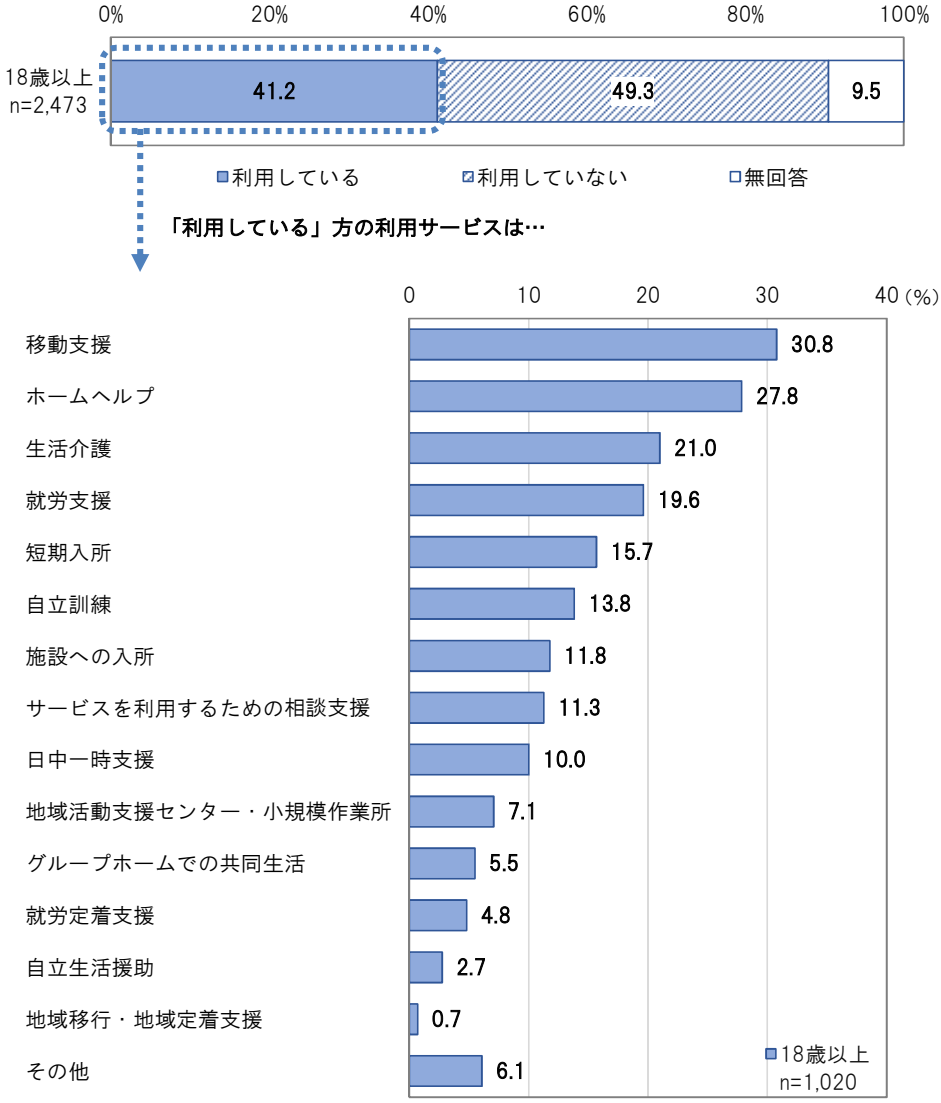
※平成 29 年調査との比較は、「特にない」と「無回答」を省略している。

３．福祉サービス、相談支援について

（１）現在利用している福祉サービス（複数回答）

≪18 歳以上≫

- 18 歳以上の現在利用している福祉サービスについては、「サービスは利用していない」が約半数（49.3%）を占めて最も多くなっている。
- サービス利用者の中では、「移動支援」の利用が約３割（30.8%）と最も高く、次いで、「ホームヘルプ」（27.8%）、「生活介護」（21.0%）、「就労支援」（19.6%）の順となっている。



・利用しているサービスの内訳を障害種別にみると、身体障害・難病・高次脳機能障害・精神障害では「ホームヘルプ」が３割以上と最も多く、知的障害・発達障害では「移動支援」が４割前後と最も多くなっている。

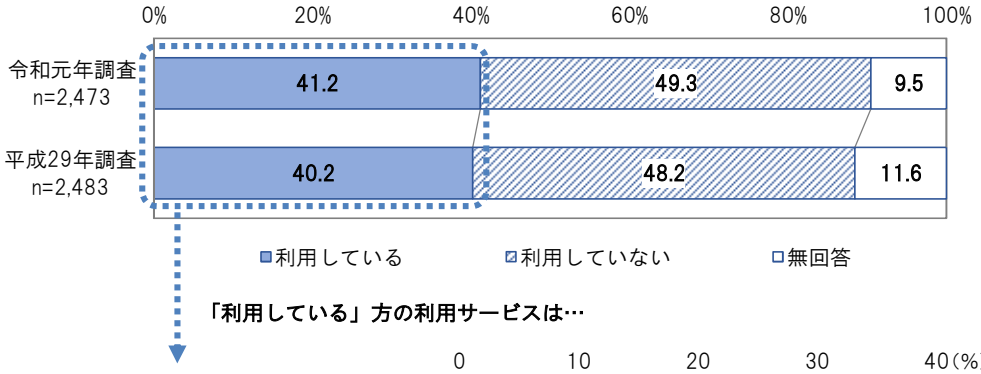
・また、知的障害では「生活介護」、知的障害・発達障害・精神障害では「就労支援」、知的障害・発達障害では「短期入所」、高次脳機能障害では「自立訓練」や「施設への入所」、精神障害では「日中一時支援」などの利用がその他の障害に比べてやや多くなっている。

		回答者（人）	移動支援	ホームヘルプ	生活介護	就労支援	短期入所	自立訓練	施設への入所	サービスを利用するための相談支援
18 歳以上	身体障害	440	33.2	**39.3**	24.5	8.4	14.3	19.3	12.0	11.8
	難病	112	27.7	**32.1**	20.5	7.1	10.7	20.5	9.8	17.9
	高次脳機能障害	46	17.4	**39.1**	15.2	8.7	6.5	21.7	21.7	15.2
	知的障害	392	**45.7**	12.8	34.7	25.8	31.9	8.4	17.1	13.5
	発達障害	220	**38.2**	11.4	21.8	31.8	26.8	10.9	9.5	10.5
	精神障害	314	19.4	**34.1**	10.5	26.1	6.7	10.8	5.7	9.9

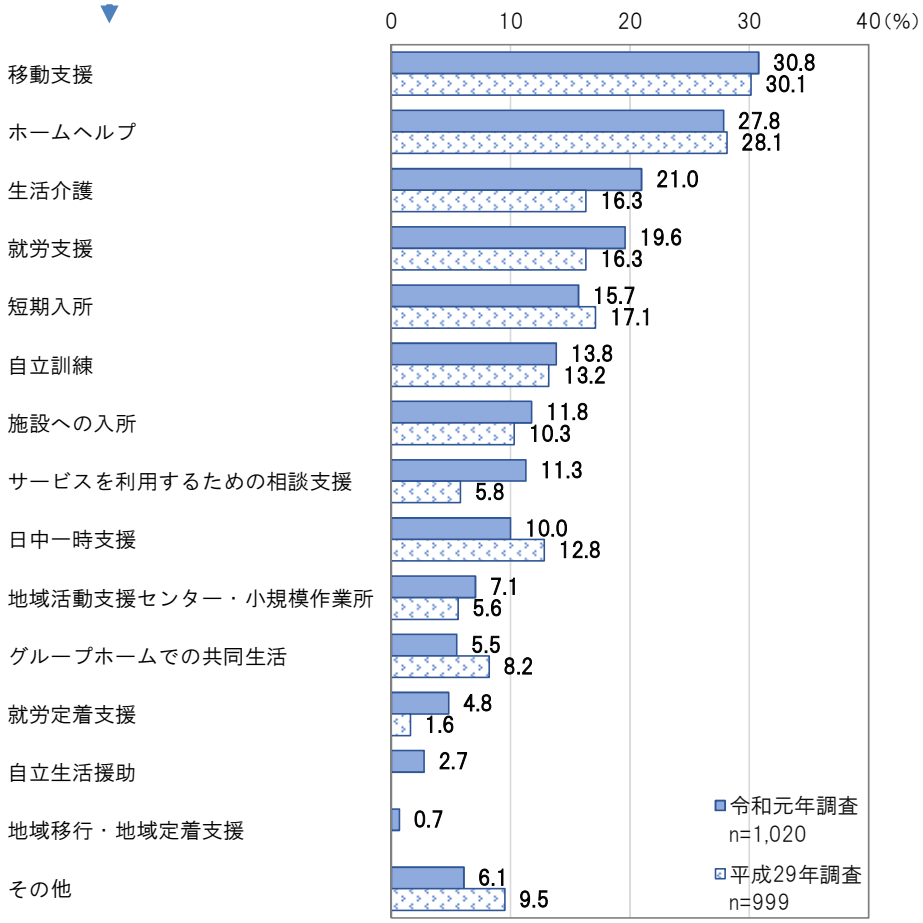
		回答者（人）	日中一時支援	地域活動支援センター・小規模作業所	グループホームでの共同生活	就労定着支援	自立生活援助	地域移行・地域定着支援	その他
18 歳以上	身体障害	440	4.1	2.5	2.0	1.6	0.5	7.3	4.1
	難病	112	4.5	2.7	5.4	2.7	－	17.0	4.5
	高次脳機能障害	46	4.3	2.2	8.7	2.2	－	4.3	4.3
	知的障害	392	5.6	9.2	6.1	0.8	0.3	4.1	5.6
	発達障害	220	7.3	8.6	7.7	0.9	0.5	6.8	7.3
	精神障害	314	10.8	4.8	6.1	5.1	1.0	6.1	10.8

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

・平成 29 年調査と比較すると、「利用している」はともに４割程度と、大きな差異はみられない。
・サービス利用者の中では、「生活介護」や「就労支援」、「サービスを利用するための相談支援」では、その他のサービスに比べて利用が大きく増加している。
・一方で、「短期入所」や「日中一時支援」、「グループホームでの共同生活」では、利用がやや減少している。

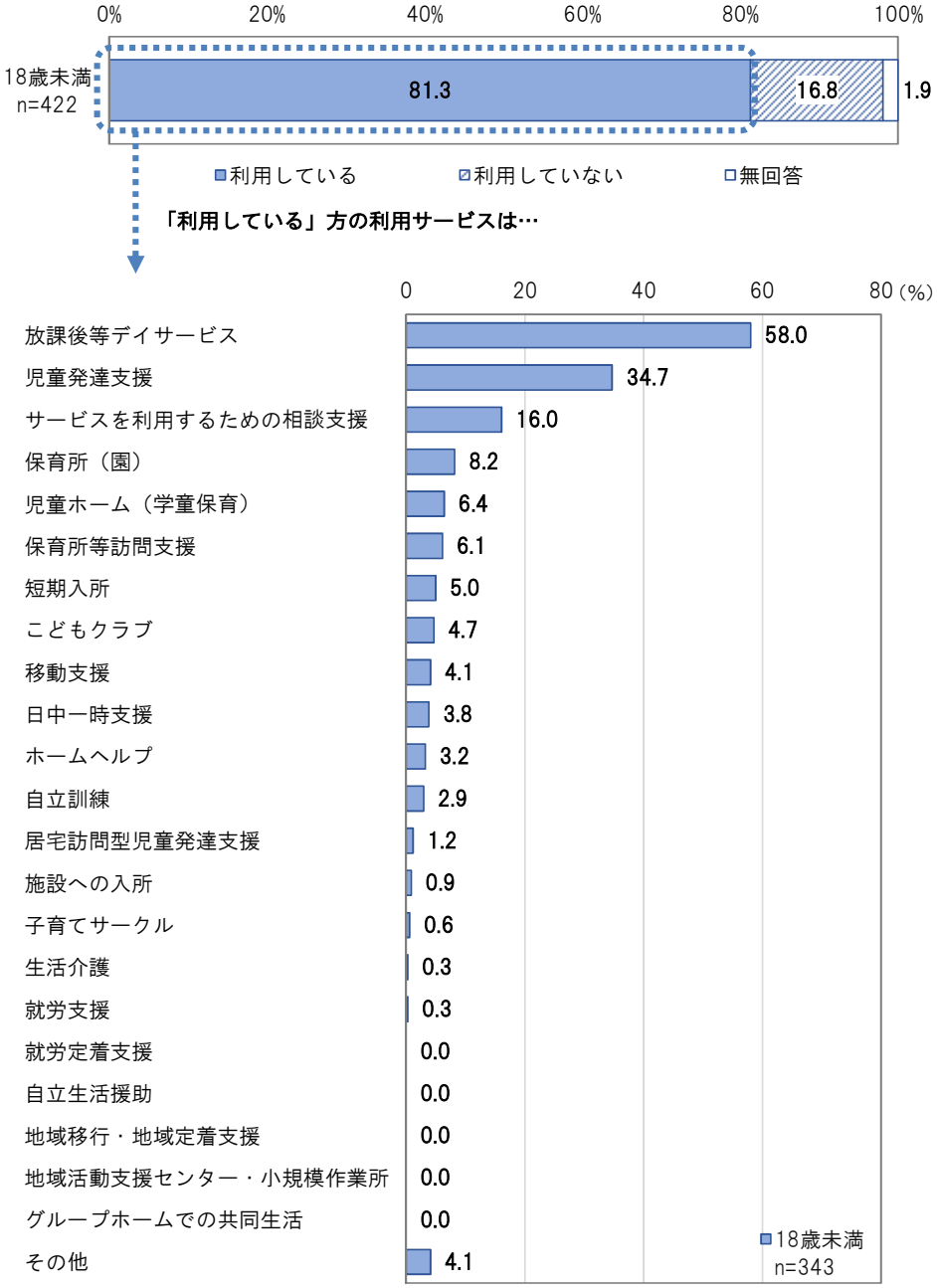


「利用している」方の利用サービスは…



≪18 歳未満≫

- 18 歳未満の福祉サービスの利用状況については、「利用している」が8割以上（81.3%）を占める結果となっている。
- サービス利用者の中では、「放課後等デイサービス」が6割近く（58.0%）を占めて最も多く、次いで「児童発達支援」（34.7%）、「サービスを利用するための相談支援」（16.0%）の順となっている。



・利用しているサービスの内訳を障害種別にみると、いずれの障害においても「放課後等デイサービス」の利用が最も多く、特に、知的障害・発達障害では、６割以上が利用している。
・また、身体障害では「サービスを利用するための相談支援」や「保育所等訪問支援」、「短期入所」、「移動支援」、「ホームヘルプ」、「自立訓練」などの利用がその他の障害に比べてやや多くなっている。

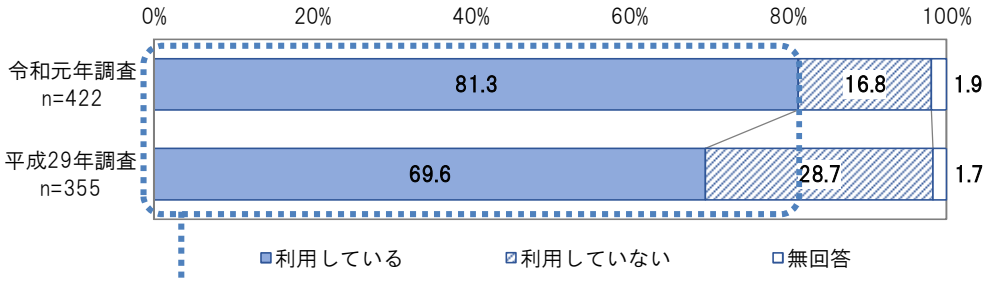
		回答者（人）	放課後等デイサービス	児童発達支援	サービスを利用するための相談支援	保育所（園）	児童ホーム（学童保育）	保育所等訪問支援	短期入所	こどもクラブ
18 歳未満	身体障害	52	42.3	34.6	30.8	11.5	3.8	13.5	15.4	－
	知的障害	230	66.5	27.8	20.0	5.7	7.4	5.2	7.0	3.5
	発達障害	246	65.9	31.3	15.4	7.7	6.5	6.5	2.8	5.3

		回答者（人）	移動支援	日中一時支援	ホームヘルプ	自立訓練	居宅訪問型児童発達支援	施設への入所	子育てサークル	生活介護
18 歳未満	身体障害	52	13.5	5.8	19.2	11.5	5.8	3.8	－	1.9
	知的障害	230	5.7	5.7	3.9	3.9	1.7	1.3	0.4	0.4
	発達障害	246	2.4	3.7	1.2	3.3	0.8	0.4	0.8	－

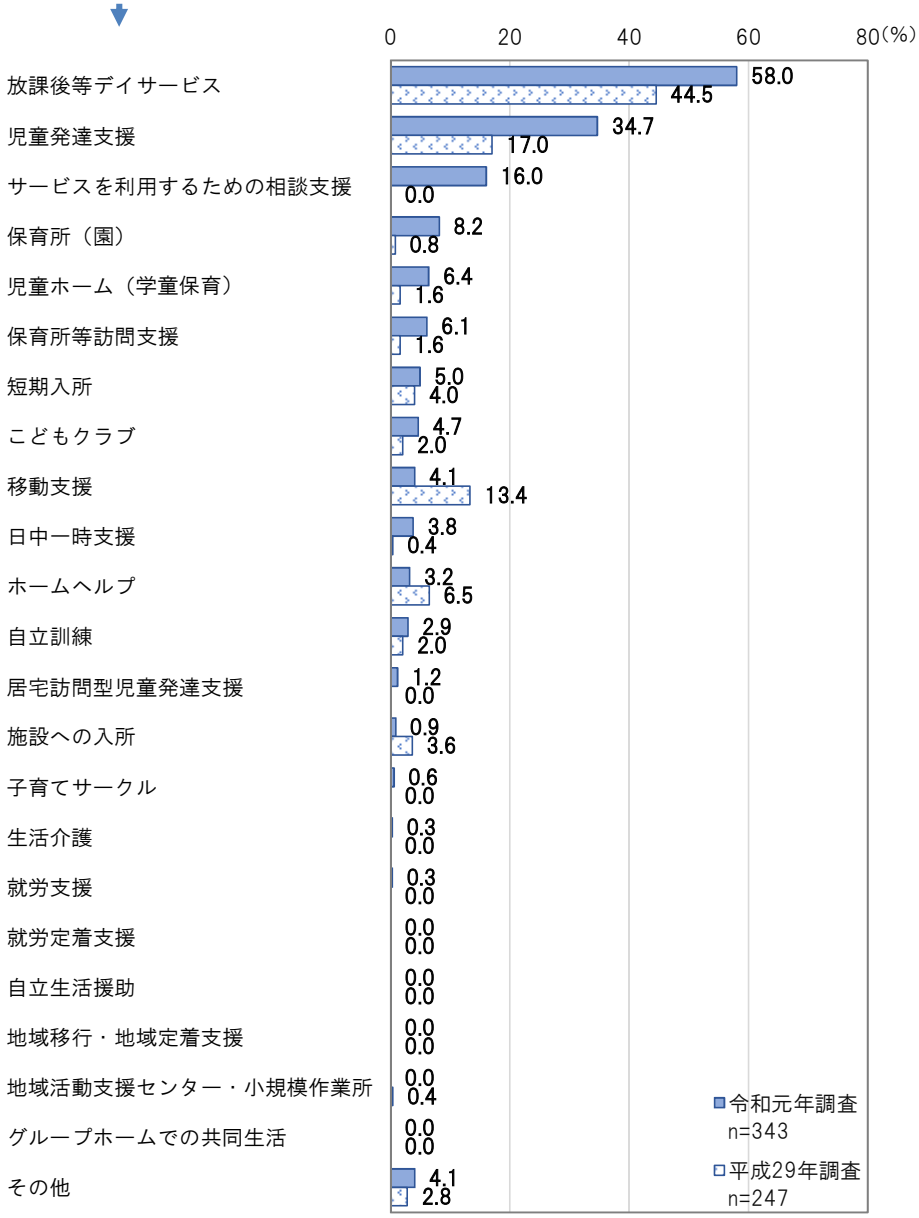
		回答者（人）	就労支援	就労定着支援	自立生活援助	地域移行・地域定着支援	地域活動支援センター・小規模作業所	グループホームでの共同生活	その他
18 歳未満	身体障害	52	－	－	－	－	－	－	9.6
	知的障害	230	0.4	－	－	－	－	－	9.7
	発達障害	246	0.4	－	－	－	－	－	3.0

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

・平成 29 年調査と比較すると、ほとんどの福祉サービスで利用率が増加しており、特に「放課後等デイサービス」や「児童発達支援」、「サービスを利用するための相談支援」では、その他のサービスに比べて大きく増加している。
・一方で、「移動支援」や「ホームヘルプ」、「施設への入所」では利用がやや減少している。



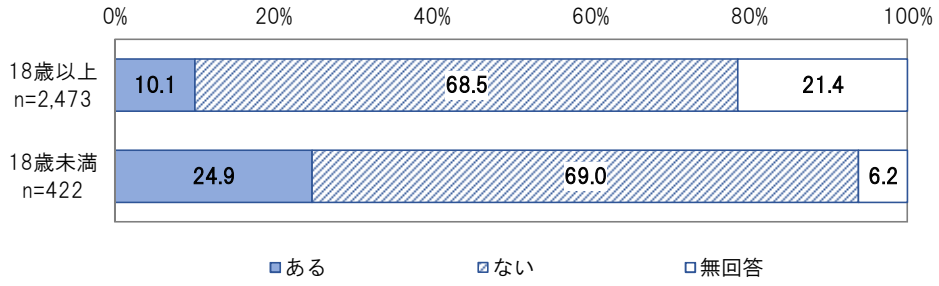
「利用している」方の利用サービスは…



（２）福祉サービスを利用したいのに、利用できなかったことの有無

・福祉サービスを利用したいのに、利用できなかったことについては、18 歳以上・18 歳未満ともに「ない」が７割近くを占めて多くなっている。

・一方で、「ある」が 18 歳以上では約１割、18 歳未満では２割以上となっている。



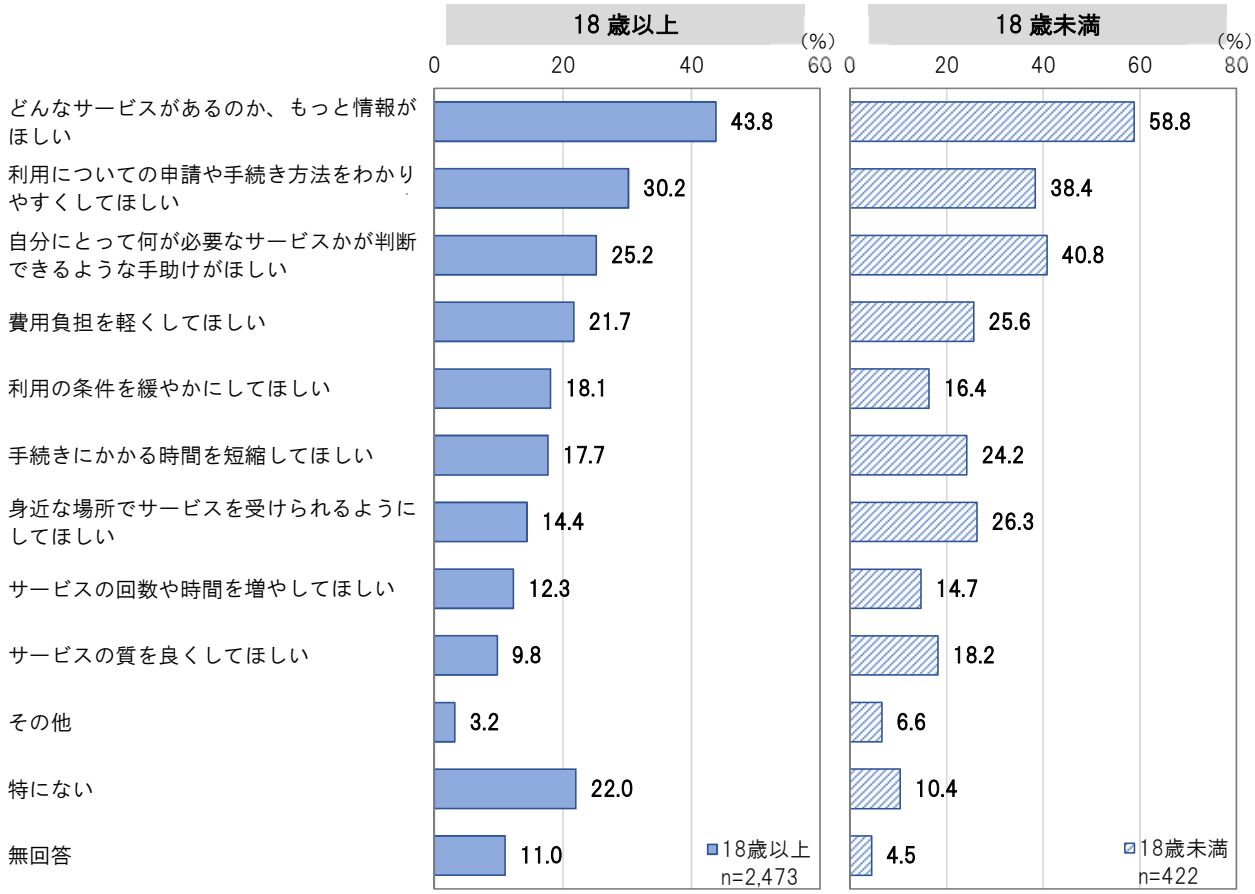
・障害種別にみると、18 歳以上では知的障害・発達障害で「ある」が２割近くと多くなっており、18 歳未満では身体障害で３割以上と多くなっている。

		回答者（人）	ある	ない	無回答
18 歳以上	身体障害	1,342	7.5	**69.4**	23.1
	難病	280	10.7	**71.4**	17.9
	高次脳機能障害	65	13.8	**70.8**	15.4
	知的障害	587	18.4	**60.1**	21.5
	発達障害	338	18.9	**63.0**	18.0
	精神障害	690	13.2	**70.1**	16.7
18 歳未満	身体障害	68	36.8	**57.4**	5.9
	知的障害	282	26.2	**66.3**	7.4
	発達障害	294	24.8	**70.1**	5.1

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」としている。

（３）福祉サービスを利用するために必要な支援（複数回答）

- 福祉サービスを利用するために必要な支援については、18 歳以上・18 歳未満ともに「どんなサービスがあるのか、もっと情報がほしい」が最も多く、次いで「利用についての申請や手続き方法をわかりやすくしてほしい」や「自分にとって何が必要なサービスかが判断できるような手助けがほしい」などの回答が多くなっている。
- また、ほとんどの項目で 18 歳以上に比べて 18 歳未満の割合が高くなっており、特に「どんなサービスがあるのか、もっと情報がほしい」や「自分にとって何が必要なサービスかが判断できるような手助けがほしい」、「身近な場所でサービスを受けられるようにしてほしい」では 10 ポイント以上上回っている。
- 一方で、18 歳以上では「利用の条件を緩やかにしてほしい」で 18 歳未満を上回る回答となっている。



・障害種別にみると、いずれの障害においても「どんなサービスがあるのか、もっと情報がほしい」の回答が多くなっている。
・また、18 歳以上の発達障害では「自分にとって何が必要なサービスかが判断できるような手助けがほしい」や「身近な場所でサービスを受けられるようにしてほしい」などの回答がやや多くなっている。

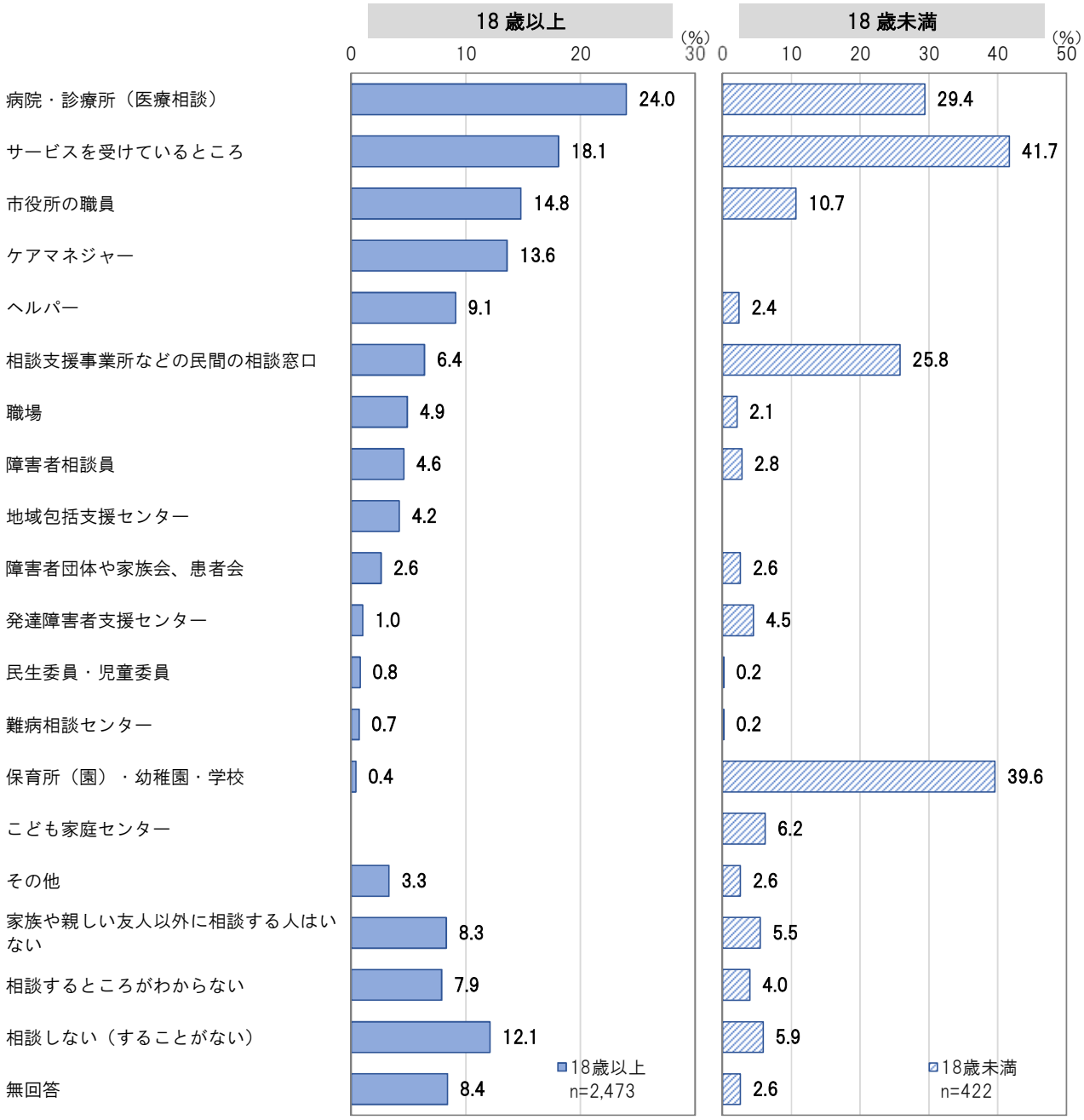
		回答者（人）	どんなサービスがあるのか、もっと情報がほしい	利用についての申請や手続き方法をわかりやすくしてほしい	自分にとって何が必要なサービスかが判断できるような手助けがほしい	費用負担を軽くしてほしい	利用の条件を緩やかにしてほしい	手続きにかかる時間を短縮してほしい
18 歳以上	身体障害	1,342	**43.6**	27.4	19.4	21.8	16.8	15.8
	難病	280	**51.1**	33.9	26.8	23.9	21.4	16.8
	高次脳機能障害	65	**50.8**	33.8	29.2	21.5	16.9	21.5
	知的障害	587	**34.6**	31.5	29.5	18.9	21.5	18.7
	発達障害	338	**45.9**	39.3	41.1	23.7	23.1	26.6
	精神障害	690	**50.9**	35.1	35.1	23.0	21.0	22.3
18 歳未満	身体障害	68	**58.8**	45.6	27.9	23.5	32.4	30.9
	知的障害	282	**58.2**	41.1	41.1	25.5	19.5	25.9
	発達障害	294	**60.5**	38.1	42.2	27.6	18.4	24.8

		回答者（人）	身近な場所でサービスを受けられるようにしてほしい	サービスの回数や時間を増やしてほしい	サービスの質を良くしてほしい	その他	特にない	無回答
18 歳以上	身体障害	1,342	12.0	11.9	9.1	2.8	23.8	11.8
	難病	280	12.5	13.2	8.6	3.9	19.3	6.4
	高次脳機能障害	65	13.8	18.5	10.8	4.6	10.8	10.8
	知的障害	587	16.7	16.4	12.1	3.6	21.8	11.2
	発達障害	338	23.1	17.5	13.6	5.0	17.8	6.5
	精神障害	690	18.0	11.4	11.2	5.5	17.0	8.4
18 歳未満	身体障害	68	27.9	22.1	11.8	11.8	4.4	5.9
	知的障害	282	28.4	17.4	17.4	6.7	10.3	4.6
	発達障害	294	28.2	15.6	21.1	7.5	9.9	3.7

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

（４）福祉サービスを利用する場合や支援を受ける場合の相談先（複数回答）

- 福祉サービスを利用する場合や支援を受ける場合の相談先については、18 歳以上では「病院・診療所（医療相談）」が２割以上（24.0%）と最も多く、次いで「サービスを受けているところ」（18.1%）、「市役所の職員」（14.8%）、「ケアマネジャー」（13.6%）の順となっている。
- 18 歳未満では、「サービスを受けているところ」が４割以上（41.7%）と最も多く、次いで「保育所（園）・幼稚園・学校」（39.6%）、「相談支援事業所などの民間の相談窓口」（25.8%）の順となっている。
- 一方で、18 歳以上では「家族や親しい友人以外に相談する人はいない」や「相談するところがわからない」がともに１割近くとなっている。



・障害種別にみると、知的障害・発達障害では、18 歳未満・18 歳以上ともに「サービスを受けているところ」、高次脳機能障害では「ケアマネジャー」、その他の障害では「病院・診療所（医療相談）」が最も多くなっている。
・また、18 歳以上の高次脳機能障害では「ケアマネジャー」や「ヘルパー」、18 歳未満では「相談支援事業所などの民間の相談窓口」や「保育所（園）・幼稚園・学校」がやや多くなっている。

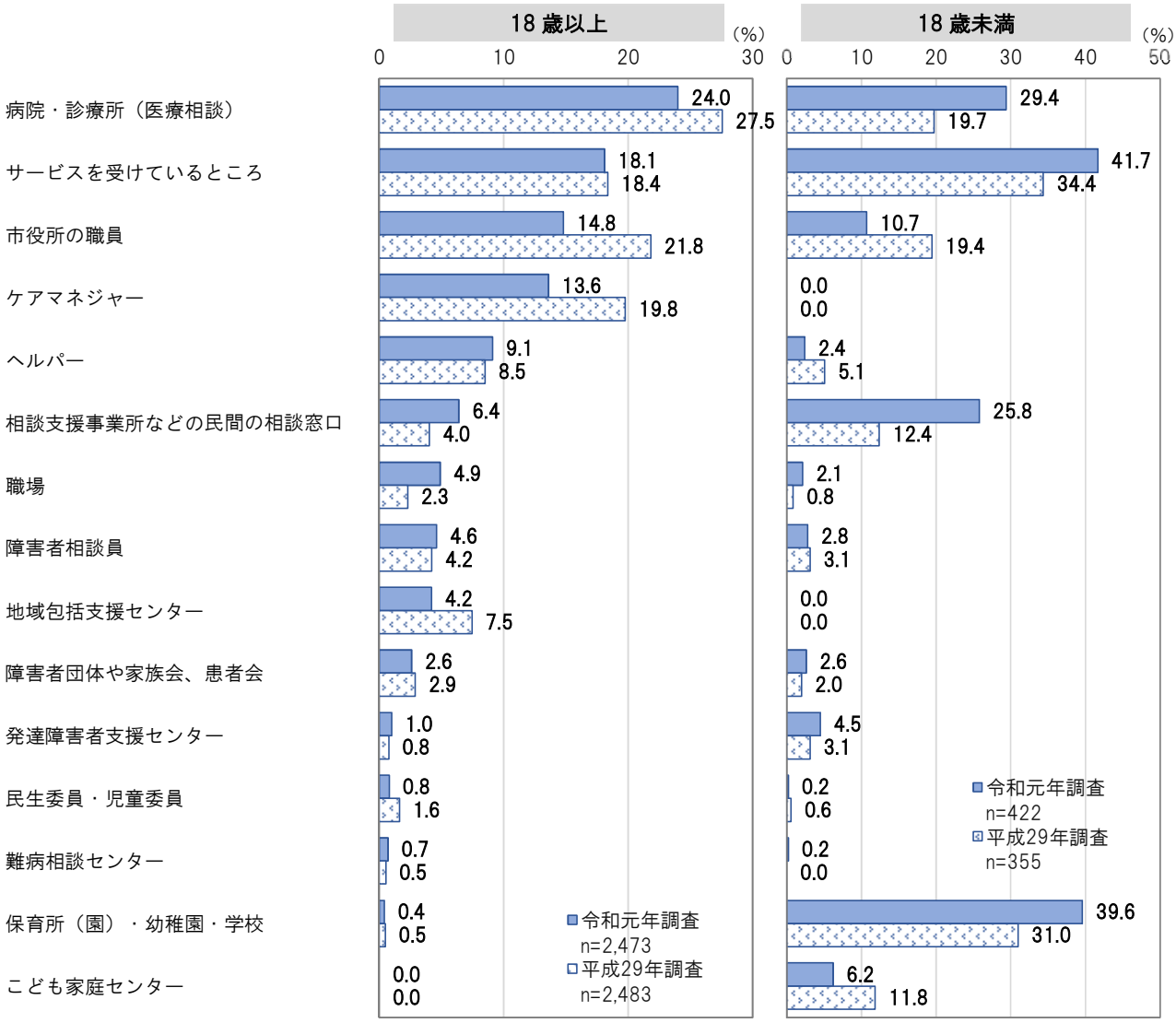
		回答者（人）	病院・診療所（医療相談）	サービスを受けているところ	市役所の職員	ケアマネジャー	ヘルパー	相談支援事業所などの民間の相談窓口	職場	障害者相談員	地域包括支援センター	障害者団体や家族会、患者会
18 歳以上	身体障害	1,342	**22.8**	11.5	15.1	18.0	8.7	4.5	5.1	4.3	5.1	2.0
	難病	280	**32.5**	12.5	18.6	19.3	11.4	5.7	2.9	3.6	4.3	3.2
	高次脳機能障害	65	30.8	29.2	9.2	**43.1**	20.0	10.8	7.7	－	6.2	4.6
	知的障害	587	13.1	**41.6**	11.8	3.6	10.6	13.8	6.5	6.6	2.2	5.5
	発達障害	338	22.2	**37.9**	14.2	4.7	10.1	11.5	6.5	7.4	1.2	6.2
	精神障害	690	**36.5**	18.8	18.1	13.6	11.2	7.0	2.8	4.5	3.8	2.3
18 歳未満	身体障害	68	**44.1**	35.3	17.6	－	11.8	32.4	2.9	2.9	－	8.8
	知的障害	282	26.6	**41.1**	9.2	－	2.8	30.1	2.8	2.1	－	2.8
	発達障害	294	30.3	**43.2**	8.2	－	1.4	27.6	3.1	3.4	－	2.0

		回答者（人）	発達障害者支援センター	民生委員・児童委員	難病相談センター	保育所（園）・幼稚園・学校	こども家庭センター	その他	家族や親しい友人以外に相談する人はいない	相談するところがわからない	相談しない（することがない）	無回答
18 歳以上	身体障害	1,342	0.1	0.8	1.0	0.2	－	2.2	8.8	7.7	15.1	9.4
	難病	280	0.4	0.4	5.7	－	－	4.3	8.9	5.7	11.1	4.3
	高次脳機能障害	65	－	－	－	－	－	6.2	3.1	6.2	1.5	7.7
	知的障害	587	2.7	0.5	－	1.0	－	4.1	7.3	5.6	8.5	8.2
	発達障害	338	5.3	0.6	－	1.5	－	6.5	8.0	5.6	7.4	4.1
	精神障害	690	1.3	1.0	0.6	0.3	－	5.1	7.5	8.3	7.7	5.8
18 歳未満	身体障害	68	5.9	1.5	1.5	29.4	2.9	5.9	4.4	5.9	2.9	4.4
	知的障害	282	5.0	0.4	0.4	36.9	7.8	2.5	5.7	5.0	6.4	3.5
	発達障害	294	5.4	0.3	0.3	42.2	7.5	2.4	6.5	3.4	5.4	1.7

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

・平成 29 年調査と比較すると、18 歳以上では、ほとんどの項目で減少しており、特に「市役所の職員」と「ケアマネジャー」が大幅に減少している。一方で、「相談支援事業所などの民間の相談窓口」や「職場」はやや増加している。

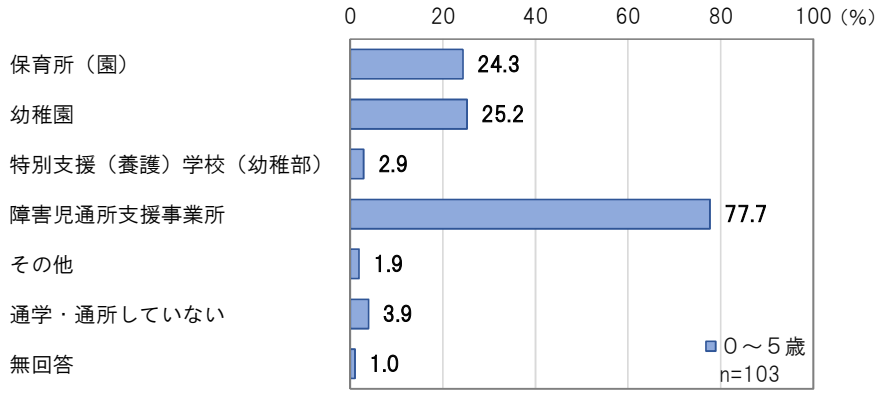
・18 歳未満では、ほとんどの項目で増加しており、特に「相談支援事業所などの民間の相談窓口」では 10 ポイント以上、「病院・診療所（医療相談）」や「サービスを受けているところ」、「保育所（園）・幼稚園・学校」では５ポイント以上の増加がみられる。一方で、「市役所の職員」では大幅な減少となっている。



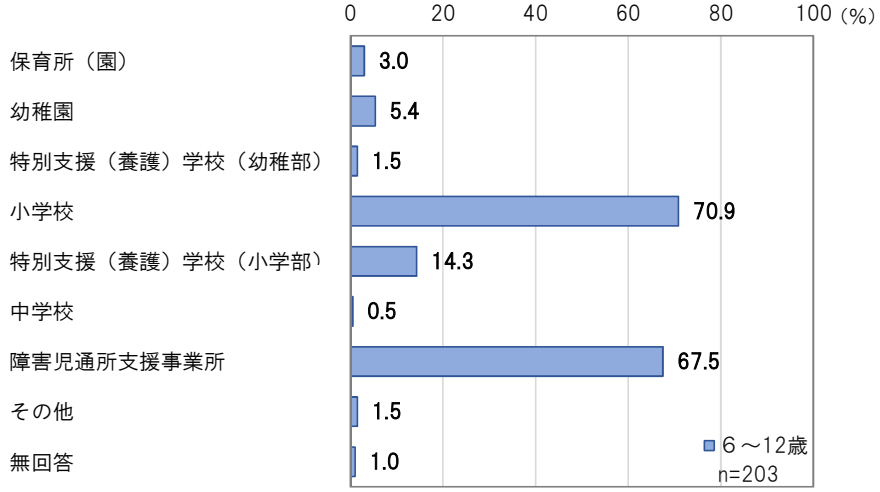
４．療育・教育について

（１）就学状況（複数回答）　※18 歳未満の方のみ

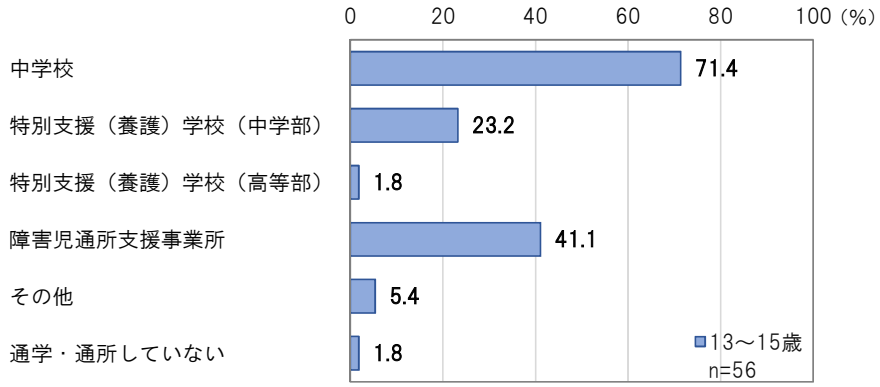
・０～５歳の就学状況は、「障害児通所支援事業所」が８割近く（77.7%）を占めて最も多く、次いで「幼稚園」（25.2%）、「保育所（園）」（24.3%）の順となっている。



・6～12 歳の就学状況は、「小学校」が約７割（70.9%）を占めて最も多く、次いで「障害児通所支援事業所」（67.5%）、「特別支援（養護）学校（小学部）」（14.3%）の順となっている。

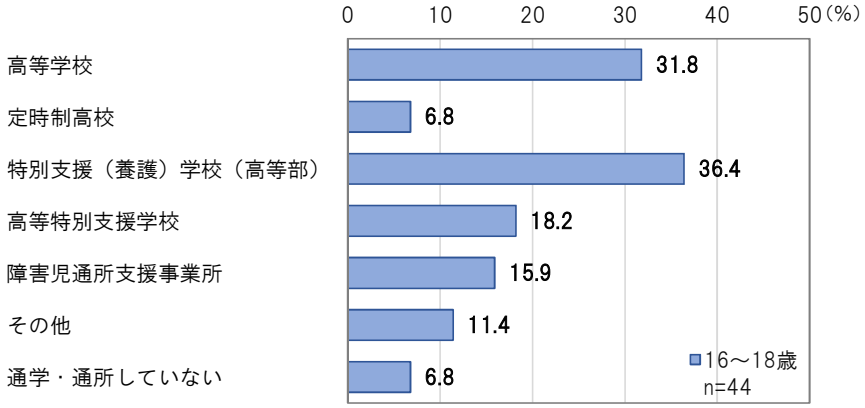


・13～15 歳の就学状況は、「中学校」が７割以上（71.4%）を占めて最も多く、次いで「障害児通所支援事業所」（41.1%）、「特別支援（養護）学校（中学部）」（23.2%）の順となっている。



・16～18 歳の就学状況は、「特別支援（養護）学校（高等部）」が３割以上（36.4%）と最も多く、次いで「高等学校」（31.8%）、「高等特別支援学校」（18.2%）、「障害児通所支援事業所」（15.9%）の順となっている。

・小学生・中学生の間は通常の小中学校に通学している児童・生徒が多いのに対し、高等学校では、通常の「高等学校」に比べて「特別支援（養護）学校（高等部）」や「高等特別支援学校」に通学する生徒が多くなっている。



・障害種別にみると、０～５歳では、いずれの障害においても「障害児通所支援事業所」が最も多くなっている。

・６～12 歳では、いずれの障害においても「小学校」が最も多く、次いで「障害児通所支援事業所」が多くなっている。また、身体障害では「特別支援（養護）学校（小学部）」が約３割と、その他の障害に比べてやや多くなっている。

		回答者（人）	保育所（園）	幼稚園	特別支援（養護）学校（幼稚部）	小学校	特別支援（養護）学校（小学部）	中学校	障害児通所支援事業所（児童発達支援、放課後等デイサービスなど）	その他	通学・通所していない	無回答
0～5 歳	身体障害	21	23.8	9.5	4.8	－	－	－	**71.4**	9.5	9.5	－
	知的障害	51	23.5	11.8	5.9	－	－	－	**86.3**	－	3.9	2.0
	発達障害	59	25.4	25.4	5.1	－	－	－	**83.1**	－	1.7	－
6～12 歳	身体障害	24	4.2	－	－	**50.0**	29.2	－	41.7	－	－	4.2
	知的障害	140	0.7	3.6	2.1	**70.7**	17.9	0.7	70.0	1.4	－	1.4
	発達障害	155	3.2	3.2	1.3	**74.8**	13.5	0.6	72.3	1.3	－	0.6

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

・13～15 歳では、いずれの障害においても「中学校」が最も多く、次いで「障害児通所支援事業所」が多くなっている。また、身体障害では「特別支援（養護）学校（中学部）」が約半数を占めて、その他の障害に比べてやや多くなっている。

・16～18 歳では、いずれの障害においても「特別支援（養護）学校（高等部）」が最も多く、次いで「高等学校」や「高等特別支援学校」が多くなっている。また、「通学・通所していない」が１割近くとなっており、その他の年代に比べてやや多くなっている。

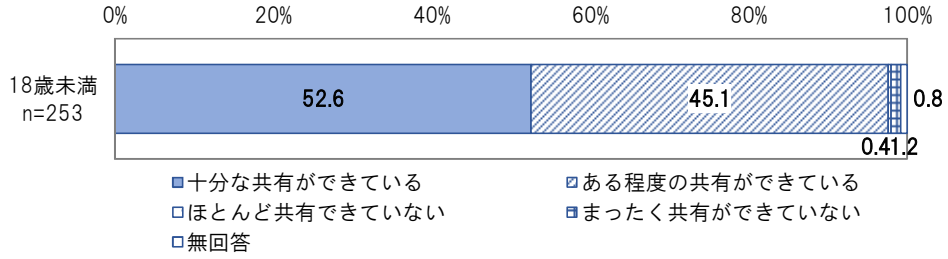
		回答者（人）	中学校	特別支援（養護）学校（中学部）	高等学校	定時制高校	特別支援（養護）学校（高等部）	高等特別支援学校	障害児通所支援事業所（児童発達支援、放課後等デイサービスなど）	その他	通学・通所していない	無回答
13～15 歳	身体障害	8	**50.0**	**50.0**	－	－	－	－	**50.0**	12.5	－	－
	知的障害	51	**68.6**	25.5	－	－	2.0	－	41.2	5.9	2.0	－
	発達障害	45	**71.1**	22.2	－	－	2.2	－	40.0	4.4	2.2	－
16～18 歳	身体障害	13	－	－	**38.5**	－	**38.5**	15.4	15.4	7.7	7.7	－
	知的障害	34	－	－	23.5	5.9	**38.2**	23.5	14.7	11.8	8.8	－
	発達障害	26	－	－	26.9	7.7	**34.6**	23.1	15.4	11.5	7.7	－

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

（２）受けている療育内容や支援時の様子の情報共有の状況

※（１）で「障害児通所支援事業所」と回答した方のみ

・障害児通所支援事業所を利用している方の、療育内容や支援時の様子の情報共有の状況については、「十分な共有ができている」が半数以上（52.6%）を占めて最も多く、「ある程度の共有ができている」（45.1%）と合わせると、ほとんどの方が『共有ができている』と回答している。



・障害種別にみると、共有の状況については大きな差異はみられない。

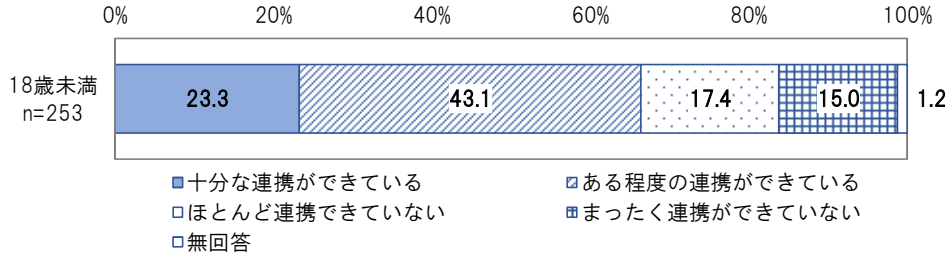
		回答者（人）	十分な共有ができている	ある程度の共有ができている	ほとんど共有できていない	まったく共有ができていない	無回答
18 歳未満	身体障害	32	**50.0**	**50.0**	－	－	－
	知的障害	172	**48.8**	47.7	0.6	1.7	1.2
	発達障害	188	**51.1**	46.3	0.5	1.6	0.5

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

（３）通所している事業所と通学先、支援機関との間での情報の連携状況

※（１）で「障害児通所支援事業所」と回答した方のみ

- 障害児通所支援事業所を利用している方の、通所している事業所と通学先、支援機関との間での情報の連携状況については、「ある程度の連携ができている」が４割以上（43.1％）と最も多く、「十分な連携ができている」（23.3％）と合わせると、６割以上の方が『連携ができている』と回答している。
- 一方で、「ほとんど連携ができていない」（17.4％）と「まったく連携ができていない」（15.0％）を合わせると、『連携ができていない』と回答した方が３割以上となっている。



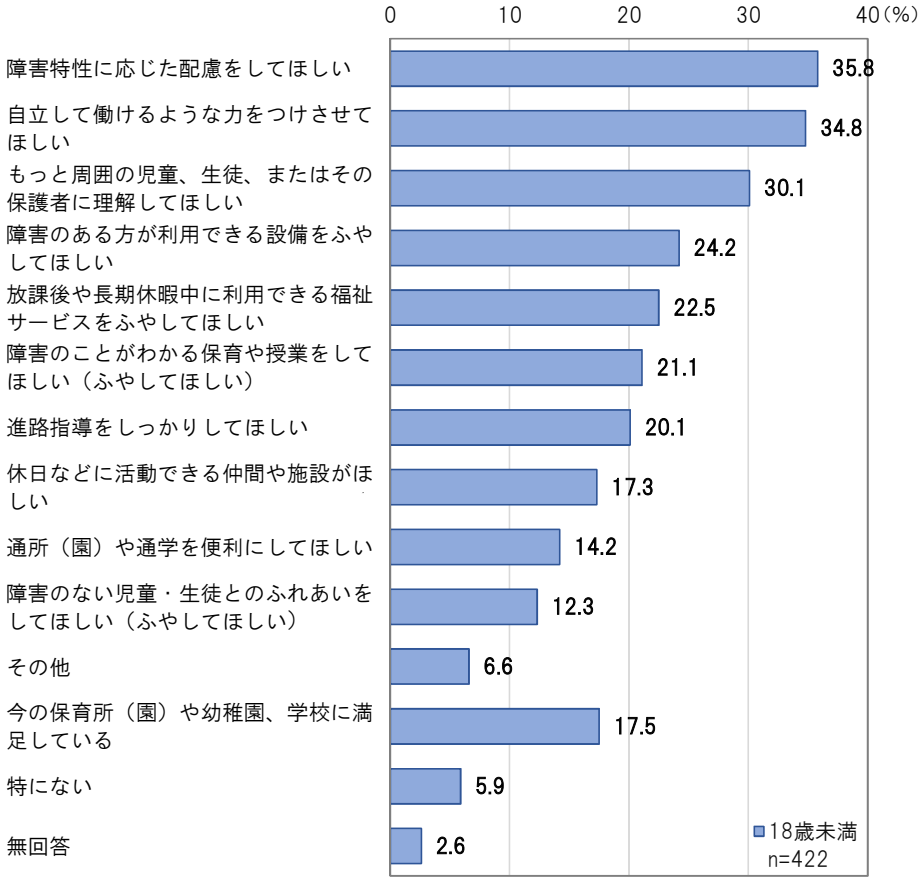
- 障害種別にみると、『連携ができていない』の回答割合は、発達障害で３割以上（33.5％）、知的障害で３割近く（28.5％）と、やや多くなっている。

		回答者（人）	十分な連携ができている	ある程度の連携ができている	ほとんど連携できていない	まったく連携ができていない	無回答
18 歳未満	身体障害	32	25.0	**50.0**	12.5	12.5	－
	知的障害	172	26.2	**44.8**	15.1	13.4	0.6
	発達障害	188	21.3	**44.1**	18.1	15.4	1.1

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

（４）保育や療育について今後必要だと思うこと（複数回答）　※18 歳未満の方のみ

・保育や療育について今後必要だと思うことについては、「障害特性に応じた配慮をしてほしい」（35.8%）や「自立して働けるような力をつけさせてほしい」（34.8%）、「もっと周囲の児童、生徒、またはその保護者に理解してほしい」（30.1%）がともに３割を超えて多く、次いで「障害のある方が利用できる設備をふやしてほしい」（24.2%）の順となっている。



・障害種別にみると、身体障害では、「放課後や長期休暇中に利用できる福祉サービスをふやしてほしい」が最も多く、次いで「障害のある方が利用できる設備をふやしてほしい」となっているのに対し、知的障害・発達障害で「障害特性に応じた配慮をしてほしい」が最も多く、次いで「自立して働けるような力をつけさせてほしい」となっている。

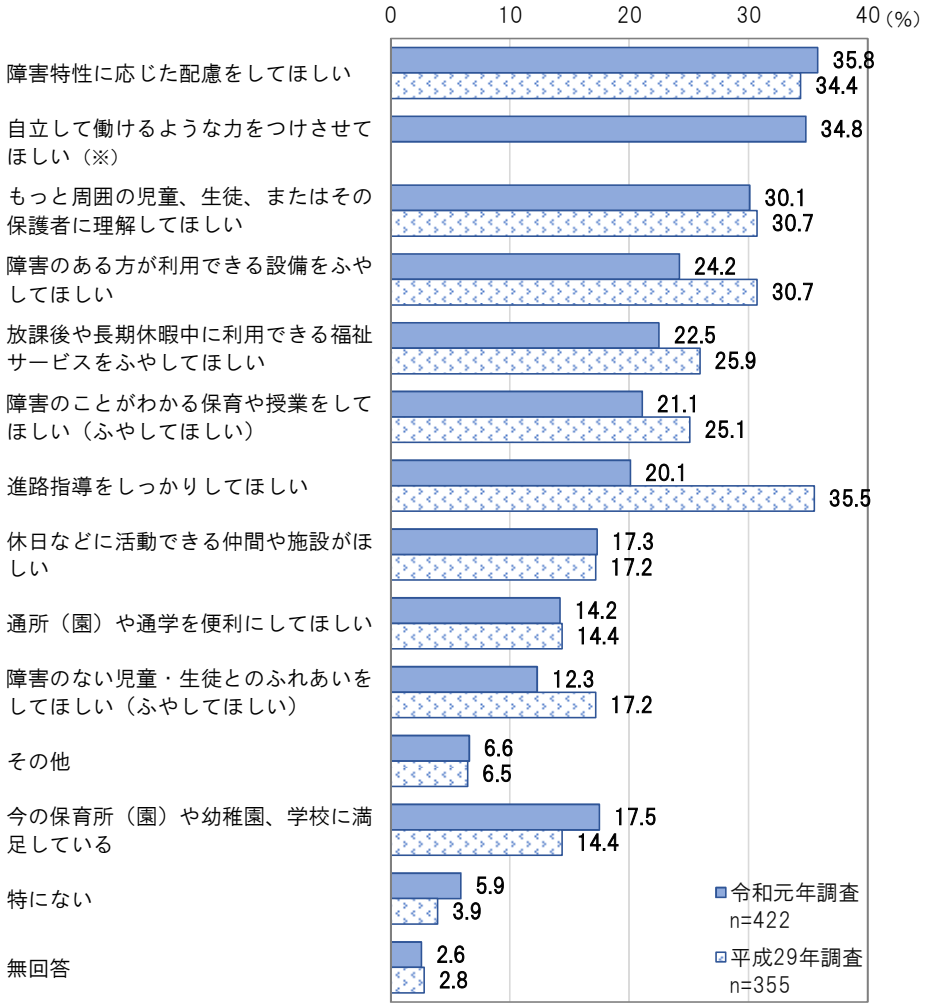
・また、身体障害では「通所（園）や通学を便利にしてほしい」や「障害のない児童・生徒とのふれあいをしてほしい（ふやしてほしい）」、知的障害・発達障害では「障害のことがわかる保育や授業をしてほしい（ふやしてほしい）」や「進路指導をしっかりしてほしい」などの回答も多くなっている。

		回答者（人）	障害特性に応じた配慮をしてほしい	自立して働けるような力をつけさせてほしい	もっと周囲の児童、生徒、またはその保護者に理解してほしい	障害のある方が利用できる設備をふやしてほしい	放課後や長期休暇中に利用できる福祉サービスをふやしてほしい	障害のことがわかる保育や授業をしてほしい（ふやしてほしい）	進路指導をしっかりしてほしい
18歳未満	身体障害	68	29.4	13.2	30.9	33.8	**38.2**	14.7	11.8
	知的障害	282	**37.2**	36.9	31.6	28.4	25.2	21.6	21.3
	発達障害	294	**40.1**	39.1	31.6	25.5	21.4	23.8	23.1

		回答者（人）	休日などに活動できる仲間や施設がほしい	通所（園）や通学を便利にしてほしい	障害のない児童・生徒とのふれあいをしてほしい（ふやしてほしい）	その他	今の保育所（園）や幼稚園、学校に満足している	特にない	無回答
18歳未満	身体障害	68	17.6	22.1	19.1	7.4	19.1	7.4	2.9
	知的障害	282	20.9	15.2	16.0	6.7	12.8	5.3	2.1
	発達障害	294	18.7	12.9	12.6	6.8	15.6	5.8	1.7

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

・平成 29 年調査と比較すると、「今の保育所（園）や幼稚園、学校に満足している」がやや増加しており、今後の要望としての項目ではほとんどの項目で割合が減少している。
・「進路指導をしっかりしてほしい」が大幅に減少している一方で、「自立して働けるような力をつけさせてほしい」が３割を超えて多くなっており、子どもの就労・自立への支援を望む人が多いことが伺える。

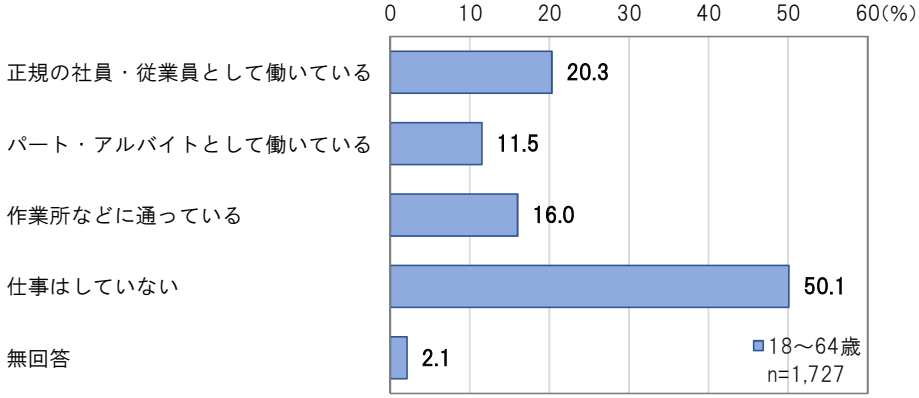


※「自立して働けるような力をつけさせてほしい」は、令和元年調査のみの項目。

5．雇用・就労について

（1）就労状況　※18～64 歳の方のみ

・18～64 歳の方の現在の就労状況については、「仕事はしていない」が約半数（50.1%）を占めて最も多く、「正規の社員・従業員として働いている」（20.3%）と「作業所などに通っている」（16.0%）、「パート・アルバイトとして働いている」（11.5%）を合わせた『就労している』人は半数未満となっている。



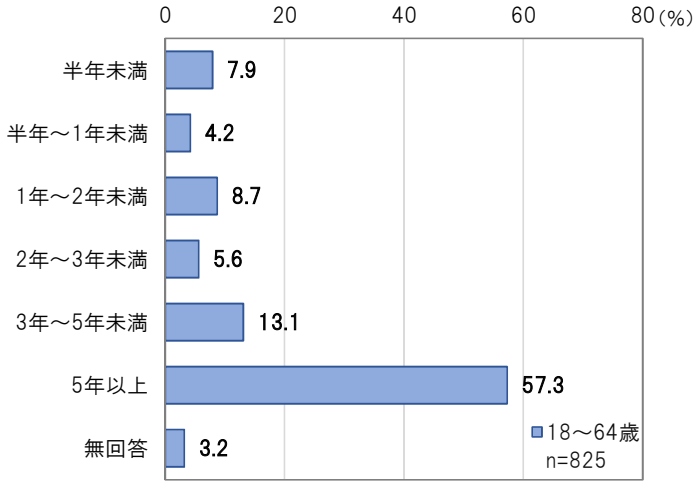
・障害種別にみると、「正規の社員・従業員として働いている」では身体障害が３割以上、難病が２割以上となっている。また、知的障害・発達障害では、「パート・アルバイトとして働いている」では１割以上、「作業所などに通っている」では３割程度となっており、それぞれ多くなっている。

		回答者（人）	正規の社員・従業員として働いている	パート・アルバイトとして働いている	作業所などに通っている	仕事はしていない	無回答
18～64 歳	身体障害	836	31.3	11.1	8.1	**48.1**	1.3
	難病	202	24.3	11.4	7.9	**55.4**	1.0
	高次脳機能障害	46	6.5	4.3	23.9	**63.0**	2.2
	知的障害	527	9.7	12.1	30.4	**45.4**	2.5
	発達障害	316	10.4	12.7	27.5	**47.5**	1.9
	精神障害	521	6.9	9.4	17.7	**63.1**	2.9

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

（２）現在の職場での就労期間　※（１）で『就労している』と回答した方のみ

・就労している方の現在の職場での就労期間については、「５年以上」が６割近く（57.3%）を占めて最も多く、次いで「３年～５年未満」（13.1%）、「１年～２年未満」（8.7%）、「半年未満」（7.9%）の順となっており、『１年未満』の方が１割以上となっている。



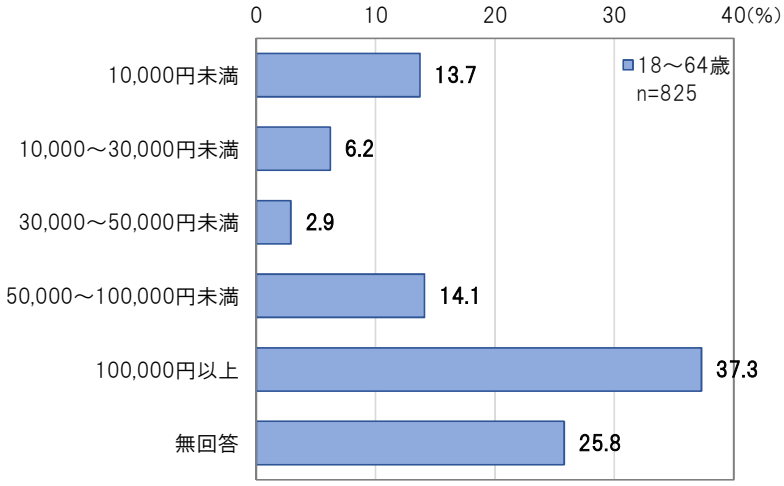
・障害種別にみると、いずれも「５年以上」が最も多く、特に身体障害では 66.4%となっている。
・一方で、高次脳機能障害・精神障害では「５年以上」が低く、「半年未満」と「半年～１年未満」を合わせた『１年未満』の就労期間である人がともに２割程度となっており、特に精神障害では「半年未満」が２割近く（17.5%）と多くなっている。
・また、就労形態別にみると、正規の社員・従業員やパート・アルバイトで就労している一般就労、作業所などの福祉就労ともに、「５年以上」が最も多く、次いで「３年～５年以内」となっているものの、福祉就労の方がやや就労期間が短い結果となっている。

		回答者（人）	半年未満	半年～1年未満	1年～2年未満	2年～3年未満	3年～5年未満	5年以上	無回答
障害種別	身体障害	423	5.4	3.8	5.9	3.3	11.6	**66.4**	3.5
	難病	88	8.0	2.3	5.7	3.4	17.0	**60.2**	3.4
	高次脳機能障害	16	12.5	6.3	18.8	6.3	12.5	**25.0**	18.8
	知的障害	275	5.1	4.7	7.3	5.5	16.4	**56.7**	4.4
	発達障害	160	11.3	6.3	10.0	7.5	20.0	**42.5**	2.5
	精神障害	177	17.5	3.4	16.9	10.7	15.8	**33.9**	1.7
就労形態	一般就労	549	7.1	3.8	6.7	5.1	11.8	**62.7**	2.7
	福祉就労	276	9.4	5.1	12.7	6.5	15.6	**46.7**	4.0

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

（３）現在の職場での平均月収　※（１）で『就労している』と回答した方のみ

・就労している方の現在の職場での平均月収については、「100,000 円以上」が４割近く（37.3%）と最も多く、次いで「50,000～100,000 円未満」（14.1%）、「10,000 円未満」（13.7%）の順となっている。



・障害種別にみると、身体障害・難病では「100,000 円以上」がともに４割以上と多くなっているのに対し、高次脳機能障害・知的障害では「10,000 円未満」が最も多く、発達障害・精神障害においても２割以上となっており、身体障害・難病に比べて平均月収が少ない結果となっている。

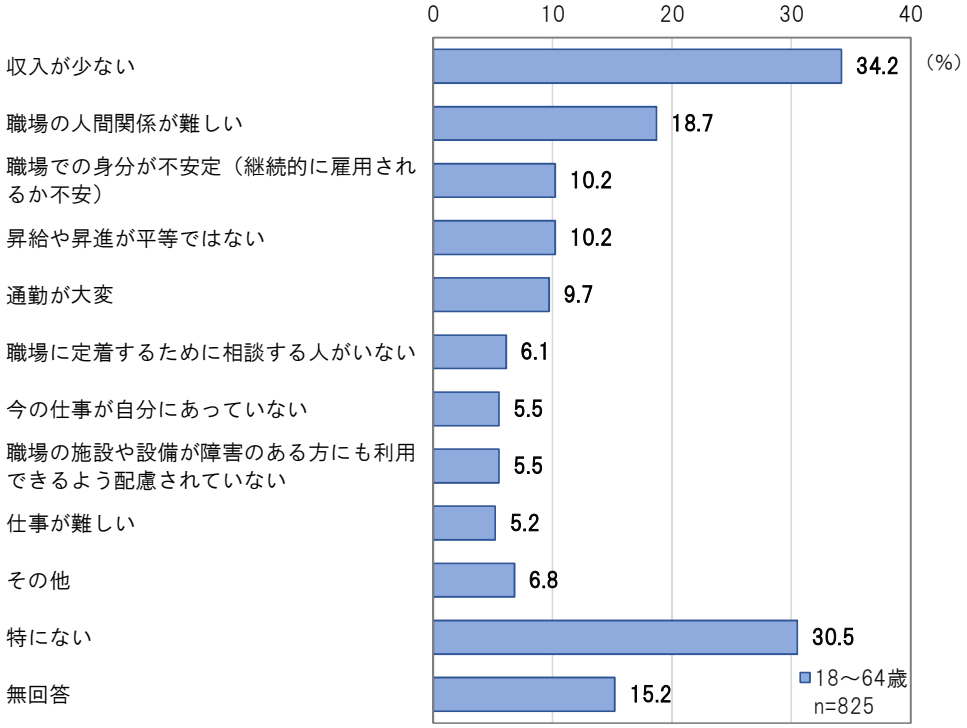
・また、就労形態別にみると、一般就労では「100,000 円以上」が半数以上（55.2%）を占めて最も多くなっているのに対し、福祉就労では「10,000 円未満」が約４割（39.9%）と最も多くなっている。

		回答者（人）	10,000円未満	10,000～30,000円未満	30,000～50,000円未満	50,000～100,000円未満	100,000円以上	無回答
障害種別	身体障害	423	7.3	2.8	1.9	9.5	**47.3**	31.2
	難病	88	6.8	4.5	3.4	12.5	**44.3**	28.4
	高次脳機能障害	16	**31.3**	－	－	25.0	18.8	25.0
	知的障害	275	**25.1**	12.7	3.6	13.8	23.3	21.5
	発達障害	160	20.6	10.0	6.3	18.1	**27.5**	17.5
	精神障害	177	23.7	5.6	4.0	22.6	**26.6**	17.5
就労形態	一般就労	549	0.5	0.9	3.5	12.9	**55.2**	27.0
	福祉就労	276	**39.9**	16.7	1.8	16.3	1.8	23.6

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

（４）仕事をしている上で困っていること（複数回答）　※（１）で『就労している』と回答した方のみ

・就労している方の仕事をしている上で困っていることについては、「収入が少ない」が３割以上（34.2%）と最も多く、次いで「職場の人間関係が難しい」（18.7%）、「職場での身分が不安定（継続的に雇用されるか不安）」と「昇給や昇進が平等ではない」（10.2%）の順となっている。



・障害種別にみると、「特にない」の回答を除いて、いずれも「収入が少ない」が最も多く、特に精神障害で約半数（50.8%）と最も高くなっている。
・また、発達障害では「職場の人間関係が難しい」、発達障害・精神障害では「職場での身分が不安定（継続的に雇用されるか不安）」、高次脳機能障害では「通勤が大変」や「仕事が難しい」などの回答がそれぞれやや多くなっている。

		回答者（人）	収入が少ない	職場の人間関係が難しい	職場での身分が不安定（継続的に雇用されるか不安）	昇給や昇進が平等ではない	通勤が大変	職場に定着するために相談する人がいない
障害種別	身体障害	423	27.9	12.5	7.6	11.6	8.5	4.7
	難病	88	**31.8**	18.2	9.1	12.5	15.9	6.8
	高次脳機能障害	16	**37.5**	25.0	6.3	6.3	25.0	12.5
	知的障害	275	33.5	21.5	7.6	7.3	6.5	6.2
	発達障害	160	**47.5**	29.4	16.9	9.4	7.5	11.3
	精神障害	177	**50.8**	26.0	16.4	11.3	16.4	8.5

		回答者（人）	今の仕事が自分にあっていない	職場の施設や設備が障害のある方にも利用できるよう配慮されていない	仕事が難しい	その他	特にない	無回答
障害種別	身体障害	423	4.3	6.4	2.4	5.0	**33.3**	19.9
	難病	88	5.7	5.7	2.3	5.7	27.3	17.0
	高次脳機能障害	16	6.3	－	18.8	6.3	12.5	18.8
	知的障害	275	5.1	3.6	5.8	6.2	**35.3**	11.6
	発達障害	160	8.8	7.5	10.0	11.3	21.3	10.6
	精神障害	177	9.0	5.1	9.0	13.0	19.2	9.6

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

・就労形態別にみると、「特にない」の回答を除いて、いずれも「収入が少ない」が多く、特に福祉就労では４割以上（42.0%）となっている。
・また、一般就労では「職場での身分が不安定（継続的に雇用されるか不安）」や「昇給や昇進が平等ではない」、「通勤が大変」などの回答がやや多くなっている。

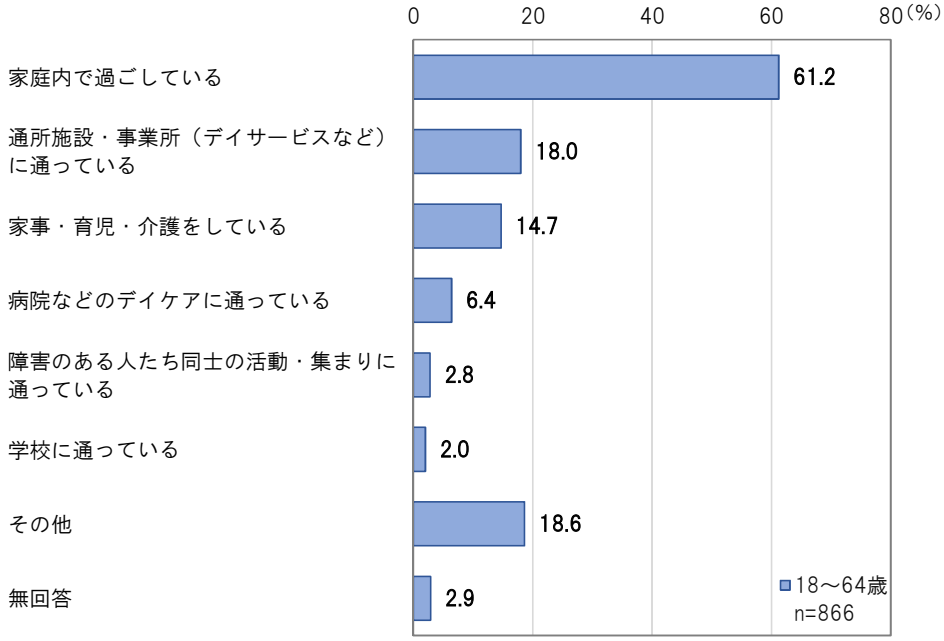
		回答者（人）	収入が少ない	職場の人間関係が難しい	職場での身分が不安定（継続的に雇用されるか不安）	昇給や昇進が平等ではない	通勤が大変	職場に定着するために相談する人がいない
就労形態	一般就労	549	30.2	18.2	12.2	12.4	10.6	6.4
	福祉就労	276	**42.0**	19.6	6.2	5.8	8.0	5.4

		回答者（人）	今の仕事が自分にあっていない	職場の施設や設備が障害のある方にも利用できるよう配慮されていない	仕事が難しい	その他	特にない	無回答
就労形態	一般就労	549	5.6	7.1	4.6	6.2	**33.0**	15.5
	福祉就労	276	5.1	2.2	6.5	8.0	25.7	14.5

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

（５）日中の過ごし方（複数回答）　※（１）で「仕事はしていない」と回答した方のみ

・就労していない方の日中の過ごし方については、「家庭内で過ごしている」が６割以上（61.2%）を占めて最も多く、次いで「通所施設・事業所（デイサービスなど）に通っている」（18.0%）、「家事・育児・介護をしている」（14.7%）の順となっている。



・障害種別にみると、知的障害と発達障害では「通所施設・事業所（デイサービスなど）に通っている」が最も多く、その他の障害では「家庭内で過ごしている」が最も多くなっている。

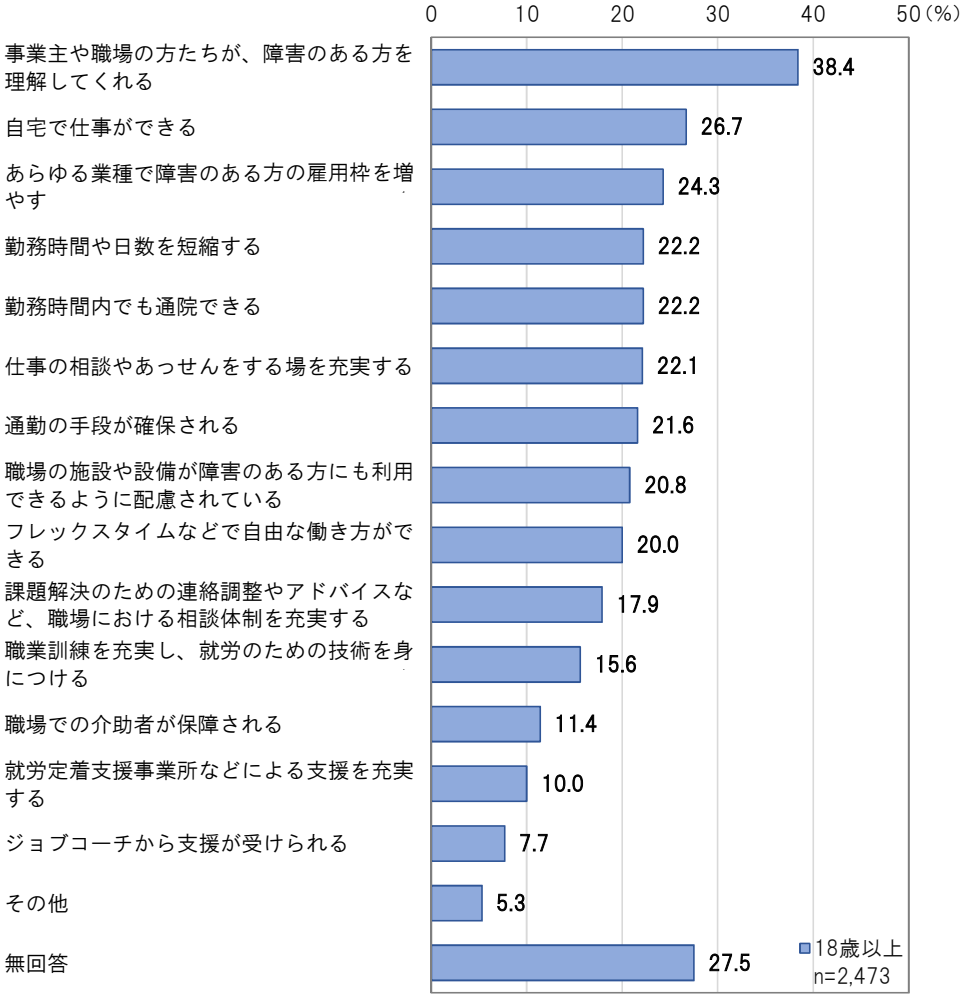
・また、難病では「病院などのデイケアに通っている」、精神障害では「家事・育児・介護をしている」がやや多くなっている。

		回答者（人）	家庭内で過ごしている	通所施設・事業所（デイサービスなど）に通っている	家事・育児・介護をしている	病院などのデイケアに通っている	障害のある人たち同士の活動・集まりに通っている	学校に通っている	その他	無回答
障害種別	身体障害	402	**65.4**	15.7	16.2	7.0	2.2	1.2	20.4	3.0
	難病	112	**74.1**	14.3	17.0	10.7	4.5	1.8	15.2	0.9
	高次脳機能障害	29	**72.4**	20.7	3.4	6.9	3.4	－	27.6	3.4
	知的障害	239	31.0	**45.2**	4.6	3.8	2.1	5.0	20.1	4.6
	発達障害	150	39.3	**42.0**	10.0	8.0	3.3	6.0	13.3	2.7
	精神障害	329	**71.7**	8.2	17.9	7.9	3.6	0.3	17.0	1.5

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

（６）障害のある方が働きやすくなるために必要な条件や環境整備（複数回答）　※18 歳以上の方のみ

・障害のある方が働きやすくなるために必要な条件や環境整備については、「事業主や職場の方たちが、障害のある方を理解してくれる」が４割近く（38.4%）と最も多く、次いで「自宅で仕事ができる」（26.7%）、「あらゆる業種で障害のある方の雇用枠を増やす」（24.3%）の順となっている。



・障害種別にみると、知的障害・発達障害では「課題解決のための連絡調整やアドバイスなど、職場における相談体制を充実する」、難病では「通勤の手段が確保される」や「フレックスタイムなどで自由な働き方ができる」などがやや多くなっている。

		回答者（人）	事業主や職場の方たちが、障害のある方を理解してくれる	自宅で仕事ができる	あらゆる業種で障害のある方の雇用枠を増やす	勤務時間内でも通院できる	勤務時間や日数を短縮する	仕事の相談やあっせんをする場を充実する	通勤の手段が確保される	職場の施設や設備が障害のある方にも利用できるように配慮されている
障害種別	身体障害	1,342	**35.9**	28.6	23.8	20.9	23.7	19.5	23.7	22.7
	難病	280	**40.7**	38.6	25.4	28.2	28.6	22.9	28.2	29.6
	高次脳機能障害	65	**38.5**	29.2	23.1	16.9	24.6	23.1	18.5	33.8
	知的障害	587	**39.7**	11.6	21.3	15.5	14.1	19.4	20.8	21.0
	発達障害	338	**49.7**	23.1	30.8	24.3	21.0	26.6	23.1	25.4
	精神障害	690	**43.8**	32.9	27.4	29.1	25.4	28.0	20.3	18.7

		回答者（人）	フレックスタイムなどで自由な働き方ができる	課題解決のための連絡調整やアドバイスなど、職場における相談体制を充実する	職業訓練を充実し、就労のための技術を身につける	職場での介助者が保障される	就労定着支援事業所などによる支援を充実する	ジョブコーチから支援が受けられる	その他	無回答
障害種別	身体障害	1,342	21.2	13.6	12.7	9.8	7.1	4.7	4.5	28.9
	難病	280	32.1	17.1	15.7	12.5	9.3	7.5	5.4	24.3
	高次脳機能障害	65	15.4	23.1	16.9	20.0	9.2	15.4	4.6	24.6
	知的障害	587	10.7	24.4	16.5	19.4	13.1	11.8	5.5	29.0
	発達障害	338	17.8	31.7	27.2	20.7	16.9	16.3	6.8	17.8
	精神障害	690	25.1	22.5	20.6	9.9	11.7	11.4	8.1	24.1

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

・就労形態別にみると、いずれも「事業主や職場の方たちが、障害のある方を理解してくれる」が最も多くなっているものの、次いで、一般就労・福祉就労では「あらゆる業種で障害のある方の雇用枠を増やす」、未就労では「自宅で仕事ができる」が多くなっている。
・また、一般就労では「仕事の相談やあっせんをする場を充実する」、福祉就労では「職業訓練を充実し、就労のための技術を身につける」や「職場での介助者が保障される」、「就労定着支援事業所などによる支援を充実する」などでやや多くなっている。

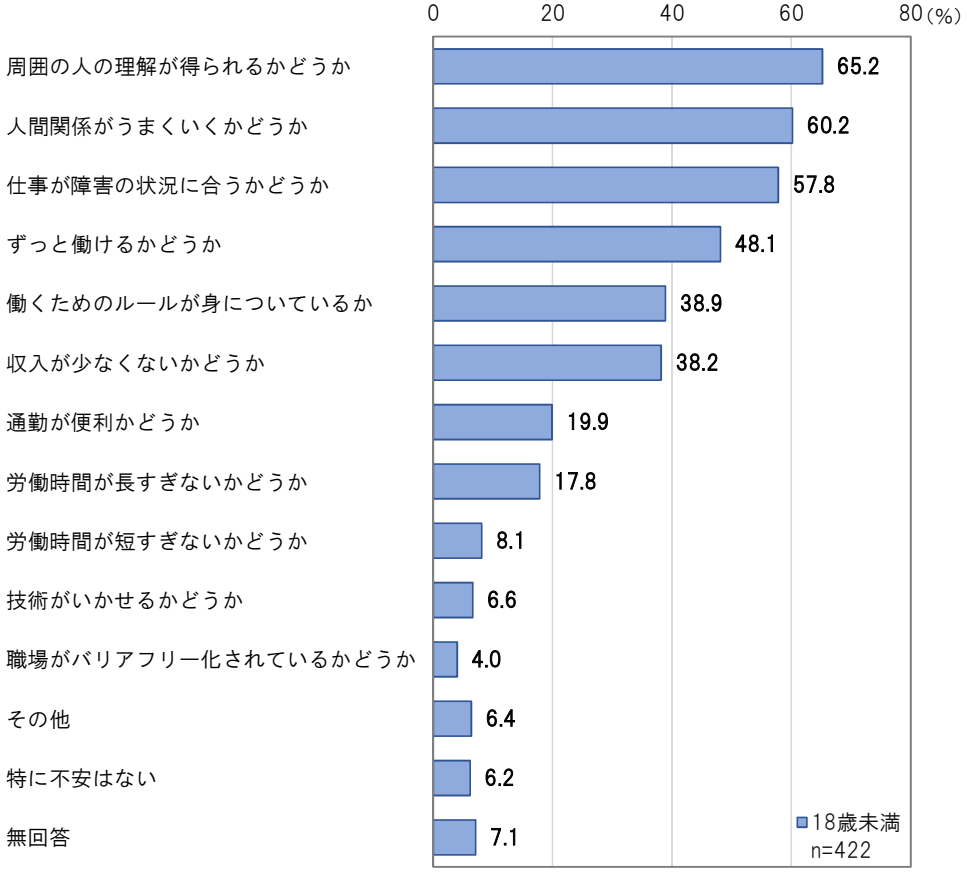
		回答者（人）	事業主や職場の方たちが、障害のある方を理解してくれる	自宅で仕事ができる	あらゆる業種で障害のある方の雇用枠を増やす	勤務時間内でも通院できる	勤務時間や日数を短縮する	仕事の相談やあっせんをする場を充実する	通勤の手段が確保される	職場の施設や設備が障害のある方にも利用できるように配慮されている
障害種別	一般就労	549	**52.1**	29.7	32.8	27.7	28.4	32.6	25.7	27.0
	福祉就労	276	**41.7**	13.4	29.3	16.7	28.6	24.3	21.7	25.4
	未就労	866	**44.1**	36.3	28.8	29.3	25.1	22.9	27.5	23.9

		回答者（人）	フレックスタイムなどで自由な働き方ができる	課題解決のための連絡調整やアドバイスなど、職場における相談体制を充実する	職業訓練を充実し、就労のための技術を身につける	職場での介助者が保障される	就労定着支援事業所などによる支援を充実する	ジョブコーチから支援が受けられる	その他	無回答
障害種別	一般就労	549	29.5	23.9	18.2	7.7	11.7	9.8	3.6	8.9
	福祉就労	276	17.0	27.9	26.4	20.7	19.9	12.3	4.3	18.5
	未就労	866	23.4	19.9	17.9	15.5	10.9	9.4	6.5	21.2

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

（７）将来仕事をするとき、仕事をしているなかで不安なこと（複数回答）　※18 歳未満の方のみ

・18 歳未満の、将来仕事をするとき、仕事をしているなかで不安なことについては、「周囲の人の理解が得られるかどうか」が６割以上（65.2%）を占めて最も多く、次いで「人間関係がうまくいくかどうか」（60.2%）、「仕事が障害の状況に合うかどうか」（57.8%）、「ずっと働けるかどうか」（48.1%）の順となっている。



・障害種別にみると、いずれの障害においても、「周囲の人の理解が得られるかどうか」が最も多く特に知的障害・発達障害では約７割を占めて多くなっている。
・また、身体障害では「通勤が便利かどうか」や「職場がバリアフリー化されているかどうか」、知的障害・発達障害では「人間関係がうまくいくかどうか」や「ずっと働けるかどうか」、「働くためのルールが身についているか」、「収入が少なくないかどうか」などの回答も多くなっている。

		回答者（人）	周囲の人の理解が得られるかどうか	人間関係がうまくいくかどうか	仕事が障害の状況に合うかどうか	ずっと働けるかどうか	働くためのルールが身についているか	収入が少なくないかどうか	通勤が便利かどうか
18 歳未満	身体障害	68	**57.4**	36.8	**57.4**	45.6	20.6	33.8	27.9
	知的障害	282	**69.5**	61.3	63.5	54.6	43.3	42.9	24.1
	発達障害	294	**70.1**	67.3	61.2	53.1	43.9	40.1	20.1

		回答者（人）	労働時間が長すぎないかどうか	労働時間が短すぎないかどうか	技術がいかせるかどうか	職場がバリアフリー化されているかどうか	その他	特に不安はない	無回答
18 歳未満	身体障害	68	17.6	10.3	2.9	19.1	8.8	2.9	11.8
	知的障害	282	20.2	9.9	7.4	3.9	6.7	4.3	6.0
	発達障害	294	18.4	9.9	8.2	3.4	6.8	5.1	4.1

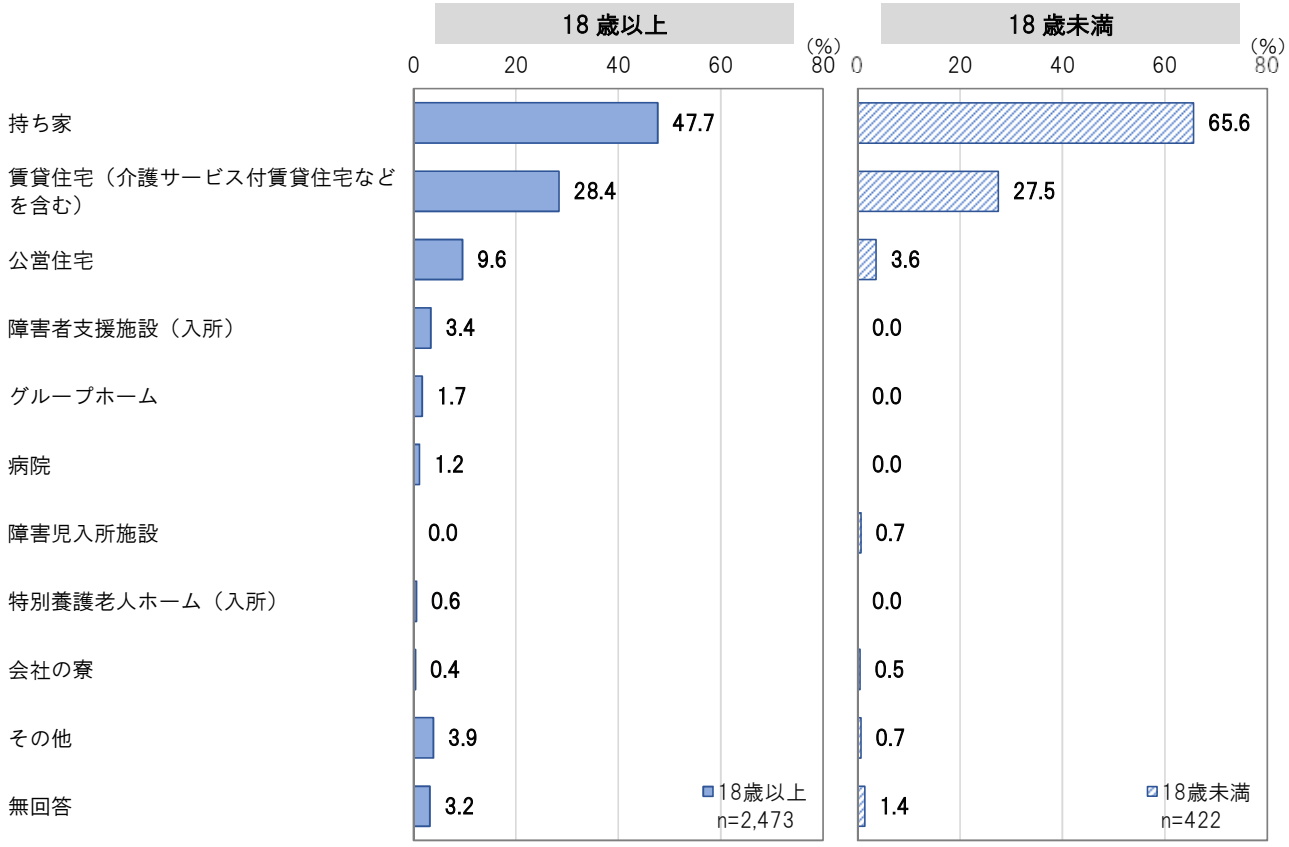
※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

6．生活環境、移動・交通について

（1）普段の住まい・暮らしている場所

・普段の住まい・暮らしている場所については、18 歳以上・18 歳未満ともに「持ち家」が最も多く、次いで「賃貸住宅（介護サービス付賃貸住宅などを含む）」の順となっている。

・また、「グループホーム」や入所施設の利用は 18 歳以上では 5.7%、18 歳未満では 0.7%となっている。



・障害種別にみると、18 歳以上の知的障害では「グループホーム」や「障害者支援施設（入所）」の利用がその他の障害に比べてやや多くなっている。

		回答者（人）	持ち家	賃貸住宅（介護サービス付賃貸住宅などを含む）	公営住宅	障害者支援施設（入所）	グループホーム	病院
18 歳以上	身体障害	1,342	**54.5**	26.2	9.7	2.0	0.6	0.8
	難病	280	**57.5**	26.8	6.4	1.8	0.4	1.4
	高次脳機能障害	65	**36.9**	27.7	6.2	1.5	－	1.5
	知的障害	587	**44.8**	19.6	9.7	10.9	4.9	0.7
	発達障害	338	**43.8**	28.1	9.8	5.6	3.6	0.3
	精神障害	690	34.3	**40.6**	10.1	1.4	1.6	2.3
18 歳未満	身体障害	68	**75.0**	17.6	1.5	－	－	－
	知的障害	282	**65.6**	25.9	4.6	－	－	－
	発達障害	294	**65.3**	27.2	4.8	－	－	－

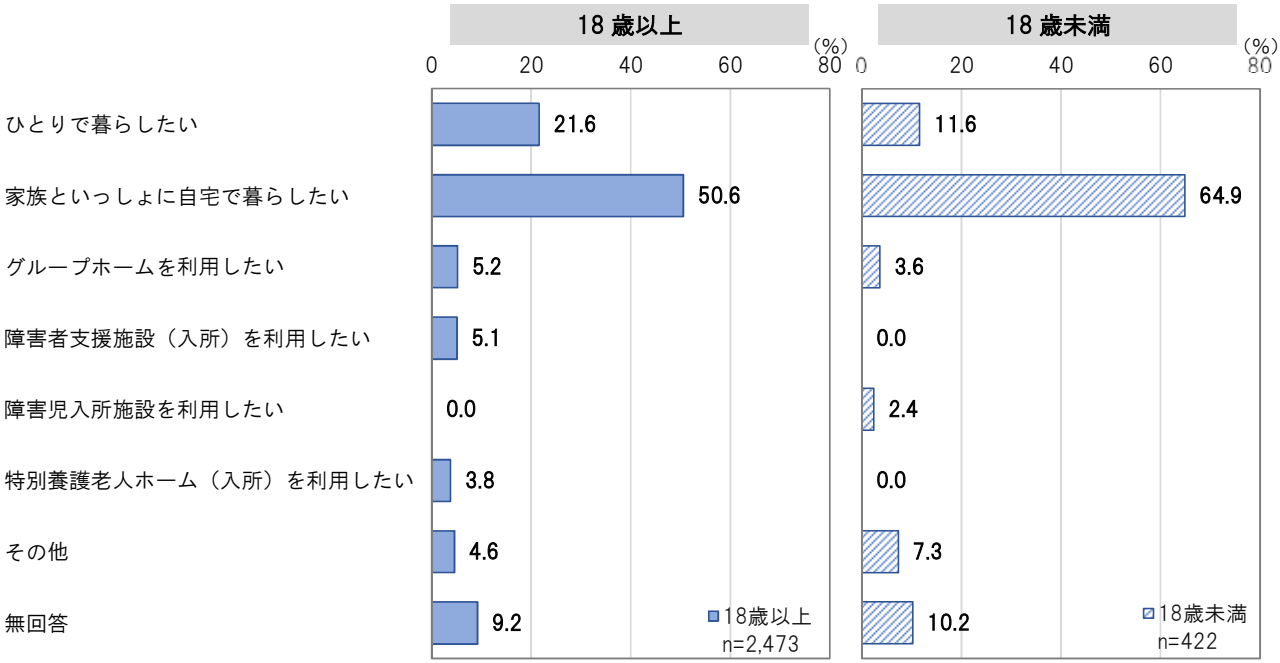
		回答者（人）	障害児入所施設	特別養護老人ホーム（入所）	会社の寮	その他	無回答
18 歳以上	身体障害	1,342	－	0.7	0.7	3.0	1.8
	難病	280	－	0.7	0.7	2.9	1.4
	高次脳機能障害	65	－	4.6	1.5	7.7	12.3
	知的障害	587	－	0.3	－	4.6	4.4
	発達障害	338	－	－	－	5.3	3.6
	精神障害	690	－	0.6	－	5.2	3.8
18 歳未満	身体障害	68	2.9	－	1.5	－	1.5
	知的障害	282	1.1	－	－	1.1	1.8
	発達障害	294	0.3	－	0.3	1.0	1.0

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

（2）今後の暮らしの希望

・今後の暮らしの希望については、18 歳以上・18 歳未満ともに「家族といっしょに自宅で暮らしたい」が最も多く、次いで「ひとりで暮らしたい」の順となっている。

・また、「グループホーム」や入所施設の利用希望は 18 歳以上では 14.1%、18 歳未満では 6.0%となっている。

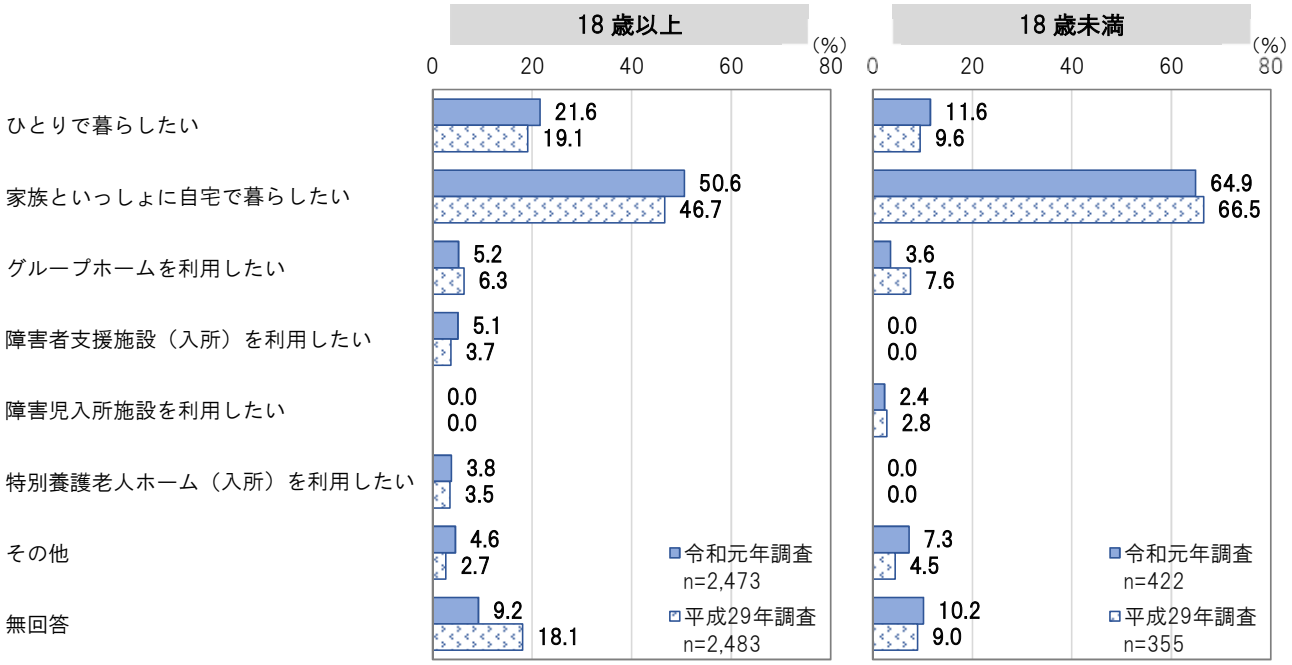


・障害種別にみると、18 歳以上の知的障害・発達障害では「グループホーム」や入所施設の利用希望がその他の障害に比べてやや多くなっている。

		回答者（人）	ひとりで暮らしたい	家族といっしょに自宅で暮らしたい	グループホームを利用したい	障害者支援施設（入所）を利用したい	障害児入所施設を利用したい	特別養護老人ホーム（入所）を利用したい	その他	無回答
18 歳以上	身体障害	1,342	18.6	**58.0**	2.8	4.0	－	4.3	3.9	8.3
	難病	280	16.4	**62.5**	0.4	5.0	－	4.3	6.4	5.0
	高次脳機能障害	65	21.5	**52.3**	－	1.5	－	7.7	4.6	12.3
	知的障害	587	13.8	**39.4**	15.3	14.3	－	1.5	4.4	11.2
	発達障害	338	20.1	**41.7**	12.4	8.9	－	1.5	5.9	9.5
	精神障害	690	32.2	**41.4**	3.2	3.0	－	4.3	6.2	9.6
18 歳未満	身体障害	68	11.8	**69.1**	5.9	－	4.4	－	4.4	4.4
	知的障害	282	11.0	**64.9**	5.0	－	3.5	－	7.1	8.5
	発達障害	294	13.6	**63.9**	3.4	－	2.7	－	7.5	8.8

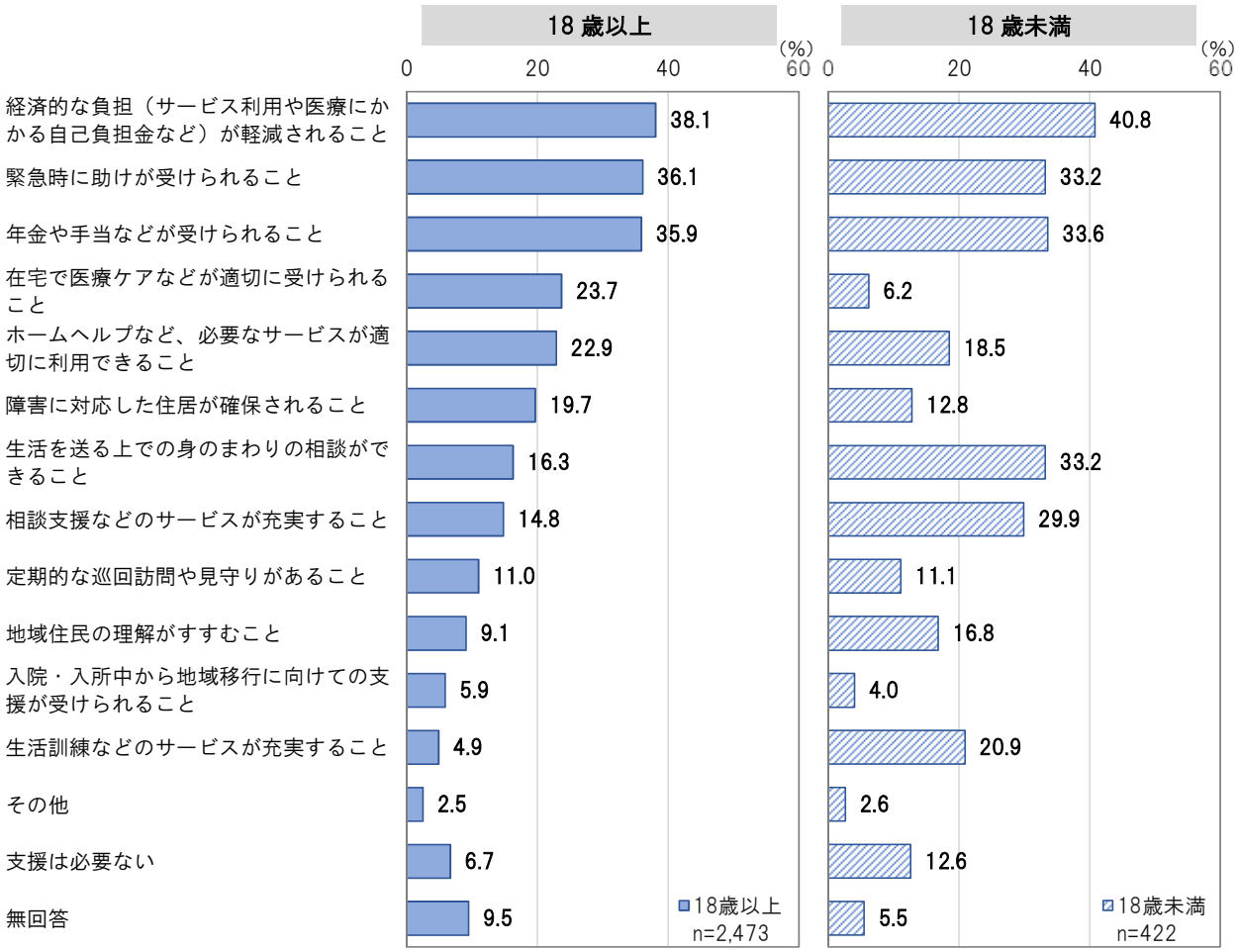
※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

・平成 29 年調査と比較すると、18 歳以上・18 歳未満ともに、「ひとりで暮らしたい」がやや増加し、「グループホームを利用したい」がやや減少している。
・また、18 歳以上では「家族といっしょに自宅で暮らしたい」が大きく増加している。



（3）在宅で生活するために必要な支援（複数回答：3つまで）

- 在宅で生活するために必要な支援については、18 歳以上・18 歳未満ともに「経済的な負担（サービス利用や医療にかかる自己負担金など）が軽減されること」が最も多く、次いで「緊急時に助けが受けられること」や「年金や手当などが受けられること」の回答が多くなっている。
- また、18 歳以上では「在宅で医療ケアなどが適切に受けられること」や「障害に対応した住居が確保されること」などで 18 歳未満と比べて高い割合となっており、18 歳未満では「生活を送る上での身のまわりの相談ができること」や「相談支援などのサービスが充実すること」、「地域住民の理解がすすむこと」、「生活訓練などのサービスが充実すること」などで 18 歳以上に比べて高い割合となっている。



・障害種別にみると、18 歳未満の知的障害では「ホームヘルプなど、必要なサービスが適切に利用できること」や「障害に対応した住居が確保されること」がやや多くなっている。

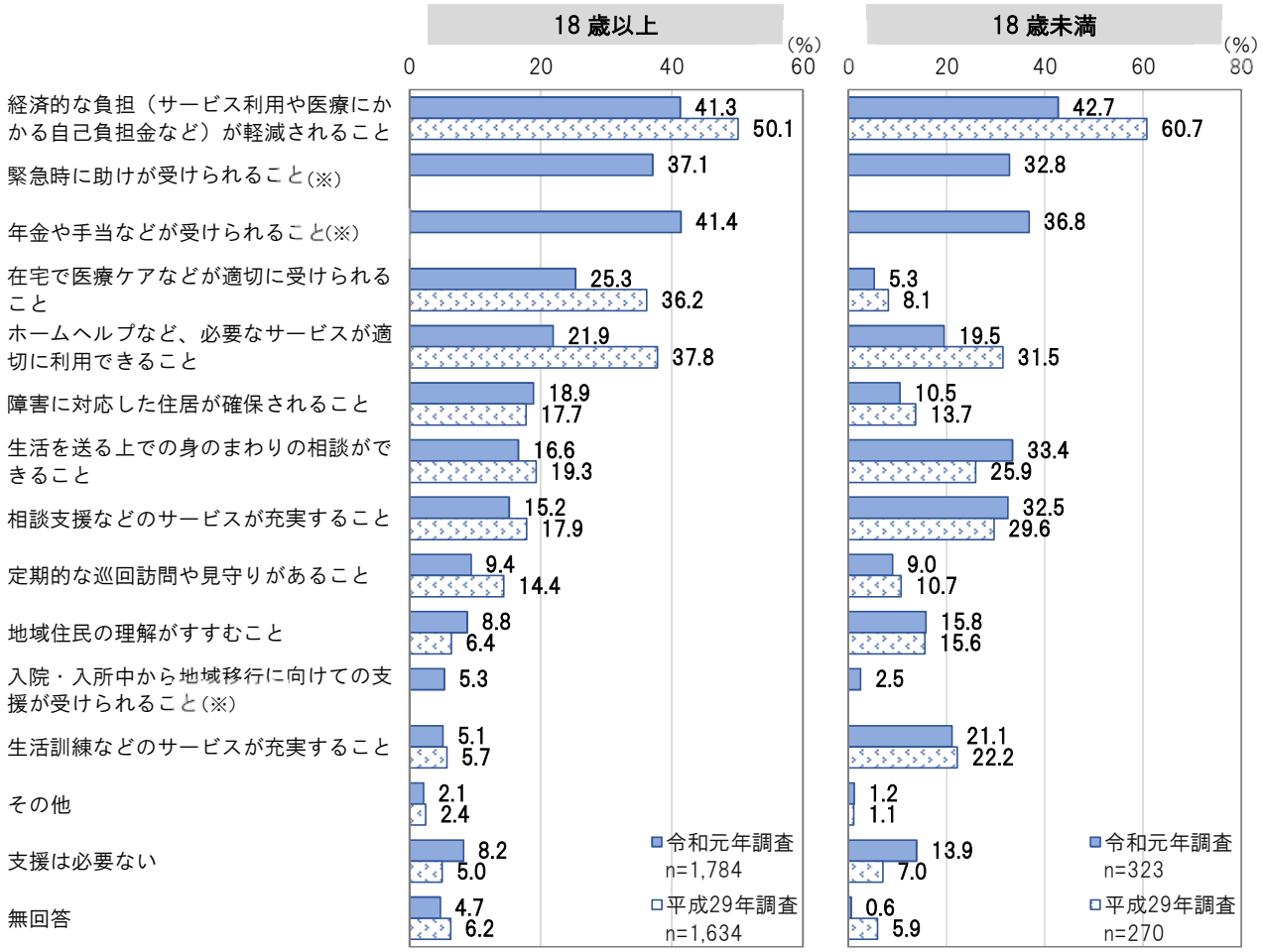
		回答者（人）	経済的な負担（サービス利用や医療にかかる自己負担金など）が軽減されること	緊急時に助けが受けられること	年金や手当などが受けられること	在宅で医療ケアなどが適切に受けられること	ホームヘルプなど、必要なサービスが適切に利用できること	障害に対応した住居が確保されること	生活を送る上での身のまわりの相談ができること	相談支援などのサービスが充実すること
18 歳以上	身体障害	1,342	**39.3**	36.4	34.3	28.4	23.4	23.0	11.0	11.4
	難病	280	**45.7**	37.9	39.6	31.8	23.9	23.2	10.7	12.5
	高次脳機能障害	65	**41.5**	38.5	**41.5**	29.2	33.8	30.8	15.4	13.8
	知的障害	587	31.3	**35.4**	29.5	15.3	26.9	20.8	22.0	17.7
	発達障害	338	40.8	36.7	**41.1**	15.4	30.2	22.5	27.2	18.9
	精神障害	690	41.3	36.7	**42.6**	21.9	21.0	14.8	22.6	20.4
18 歳未満	身体障害	68	**40.8**	33.2	33.6	6.2	18.5	12.8	33.2	29.9
	知的障害	282	48.5	**50.0**	39.7	20.6	41.2	35.3	26.5	23.5
	発達障害	294	**44.7**	36.5	40.4	7.8	23.0	14.9	34.8	28.0

		回答者（人）	定期的な巡回訪問や見守りがあること	地域住民の理解がすすむこと	入院・入所中から地域移行に向けての支援が受けられること	生活訓練などのサービスが充実すること	その他	支援は必要ない	無回答
18 歳以上	身体障害	1,342	11.0	5.7	6.2	3.6	1.7	8.0	8.0
	難病	280	8.2	5.7	6.1	3.6	3.6	5.0	7.5
	高次脳機能障害	65	9.2	12.3	4.6	3.1	1.5	－	7.7
	知的障害	587	14.7	16.2	6.0	8.3	3.1	4.4	14.8
	発達障害	338	11.5	17.8	4.4	8.0	2.7	3.6	6.2
	精神障害	690	9.4	9.9	5.4	5.5	3.9	4.8	9.1
18 歳未満	身体障害	68	11.1	16.8	4.0	20.9	2.6	12.6	5.5
	知的障害	282	10.3	17.6	7.4	17.6	2.9	2.9	2.9
	発達障害	294	13.5	18.1	5.0	23.0	2.8	9.6	4.3

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

※（２）で「ひとりで暮らしたい」や「家族といっしょに自宅で暮らしたい」と回答した方のみ

- 平成 29 年調査と比較すると、18 歳以上・18 歳未満ともに「経済的な負担（サービス利用や医療にかかる自己負担金など）が軽減されること」や「ホームヘルプなど、必要なサービスが適切に利用できること」などが減少し、新たに追加した選択肢である「緊急時に助けが受けられること」や「年金や手当などが受けられること」が高い項目となっている。
- また、18 歳未満では「生活を送る上での身のまわりの相談ができること」が大きく増加している。

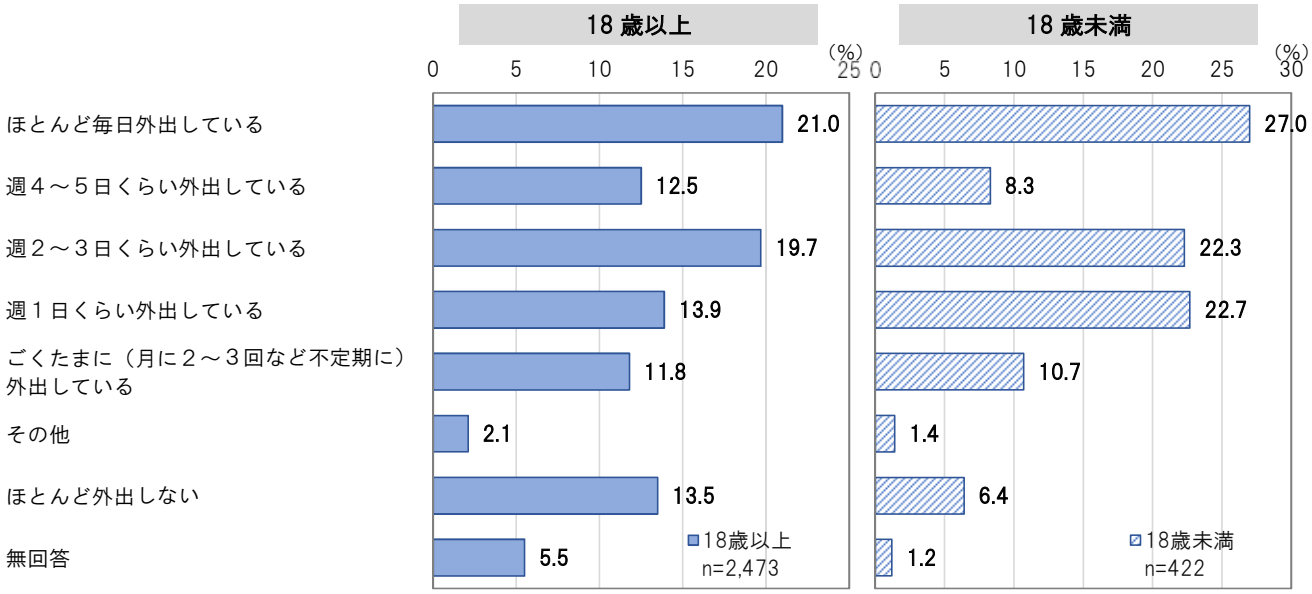


※「緊急時に助けが受けられること」、「年金や手当などが受けられること」、「入院・入所中から地域移行に向けての支援が受けられること」は、令和元年調査のみの項目。

（４）外出の頻度

・通勤や通学、通院、事業所などへの通所以外の外出頻度については、18 歳以上・18 歳未満ともに「ほとんど毎日外出している」が最も多く、定期的に外出している人が多い結果となっている。

・一方で、「ごくたまに（月に２～３回など不定期に）外出している」と「ほとんど外出しない」を合わせると、18 歳以上では２割以上、18 歳未満では外出頻度が少ない人が２割近くとなっている。



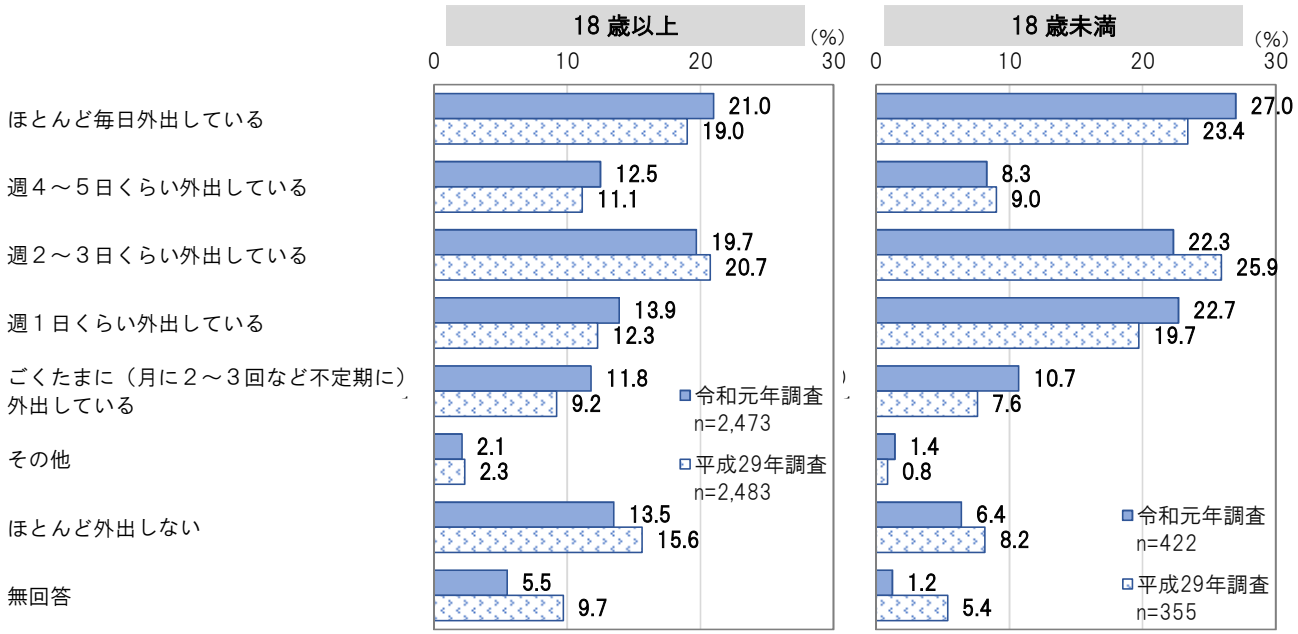
・障害種別にみると、18 歳以上の難病・高次脳機能障害では「ほとんど外出しない」が２割以上となっており、その他の障害に比べてやや多くなっている。

・また、18 歳以上・18 歳未満ともに、身体障害の外出頻度は多い結果となっている。

		回答者（人）	ほとんど毎日外出している	週４～５日くらい外出している	週２～３日くらい外出している	週１日くらい外出している	ごくたまに（月に２～３回など不定期に）外出している	その他	ほとんど外出しない	無回答
18 歳以上	身体障害	1,342	**23.3**	14.5	19.5	13.1	9.5	1.6	13.0	5.4
	難病	280	15.7	12.1	**23.2**	11.8	9.3	2.9	20.4	4.6
	高次脳機能障害	65	23.1	15.4	9.2	9.2	9.2	4.6	**24.6**	4.6
	知的障害	587	17.4	9.0	17.5	17.5	**18.1**	3.1	12.1	5.3
	発達障害	338	17.8	9.2	**22.8**	18.0	13.3	2.4	11.8	4.7
	精神障害	690	18.1	11.2	**20.0**	12.0	12.3	2.9	17.7	5.8
18 歳未満	身体障害	68	**22.1**	13.2	17.6	16.2	16.2	2.9	11.8	－
	知的障害	282	24.1	6.4	22.0	**25.2**	12.1	1.4	8.2	0.7
	発達障害	294	**26.9**	7.8	22.1	24.5	10.9	2.0	5.1	0.7

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

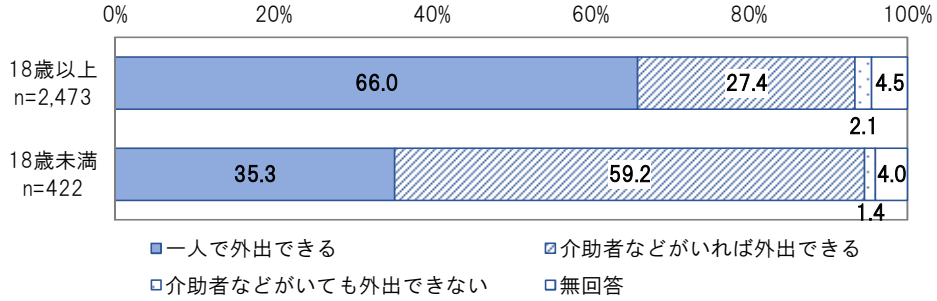
・平成 29 年調査と比較すると、18 歳以上・18 歳未満ともに「ほとんど毎日外出している」がやや増加し、「ほとんど外出しない」がやや減少しており、外出頻度の増加がみられる。



（５）一人での外出

・一人での外出の可否については、18 歳以上では「一人で外出できる」が７割近く（66.0%）を占めて最も多く、「介助者などがいれば外出できる」が３割程度（27.4%）となっている。

・18 歳未満では、「介助者などがいれば外出できる」が約６割（59.2%）を占めて最も多く、「一人で外出できる」が３割以上（35.3%）となっている。



・障害種別にみると、18 歳未満では、いずれの障害においても「介助者などがいれば外出できる」が多くを占めているのに対し、18 歳以上では、高次脳機能障害で「介助者などがいれば外出できる」が「一人で外出できる」を上回っている。

		回答者（人）	一人で外出できる	介助者などがいれば外出できる	介助者などがいても外出できない	無回答
18 歳以上	身体障害	1,342	**66.8**	26.2	2.3	4.7
	難病	280	**55.7**	36.1	2.5	5.7
	高次脳機能障害	65	43.1	**47.7**	4.6	4.6
	知的障害	587	**47.7**	44.8	1.9	5.6
	発達障害	338	**60.9**	33.4	2.1	3.6
	精神障害	690	**69.9**	22.3	2.6	5.2
18 歳未満	身体障害	68	29.4	**66.2**	4.4	－
	知的障害	282	33.7	**61.7**	2.1	2.5
	発達障害	294	36.7	**58.8**	1.0	3.4

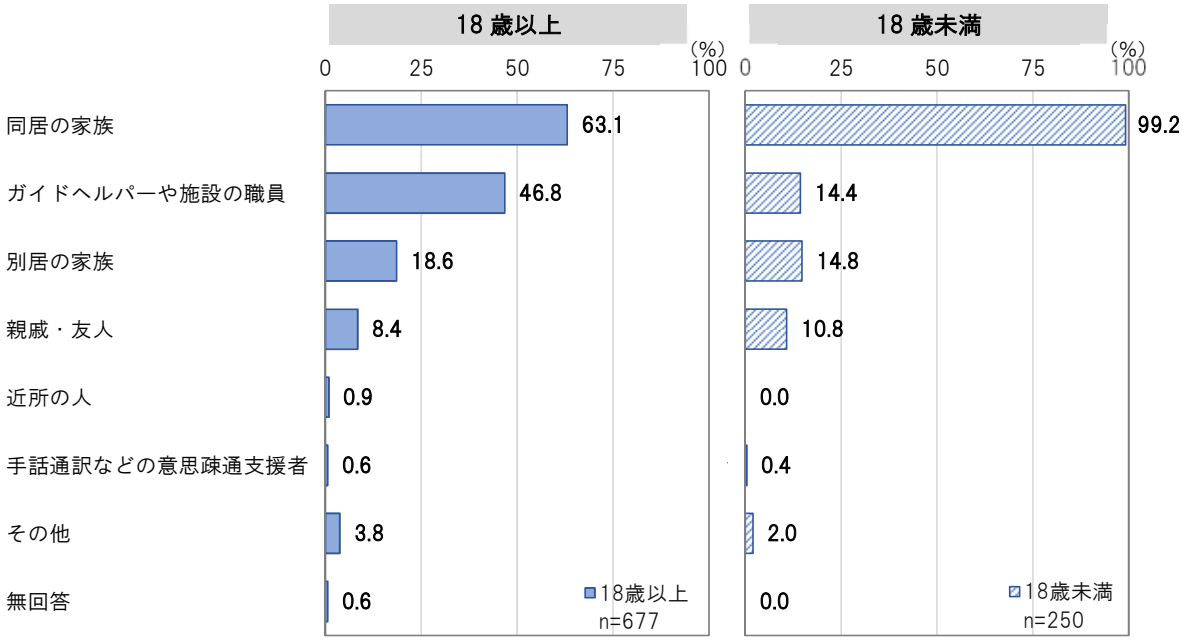
※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

（６）外出する際の主な同伴者や必要な支援者（複数回答：３つまで）

※（５）で「介助者などがいれば外出できる」と回答した方のみ

・外出する際の主な同伴者や必要な支援者については、18 歳以上・18 歳未満ともに「同居の家族」が最も多く、特に 18 歳未満ではほぼ全員となっている。

・次いで、18 歳以上・18 歳未満ともに「ガイドヘルパーや施設の職員」、「別居の家族」、「親戚・友人」などの回答が多くなっている。



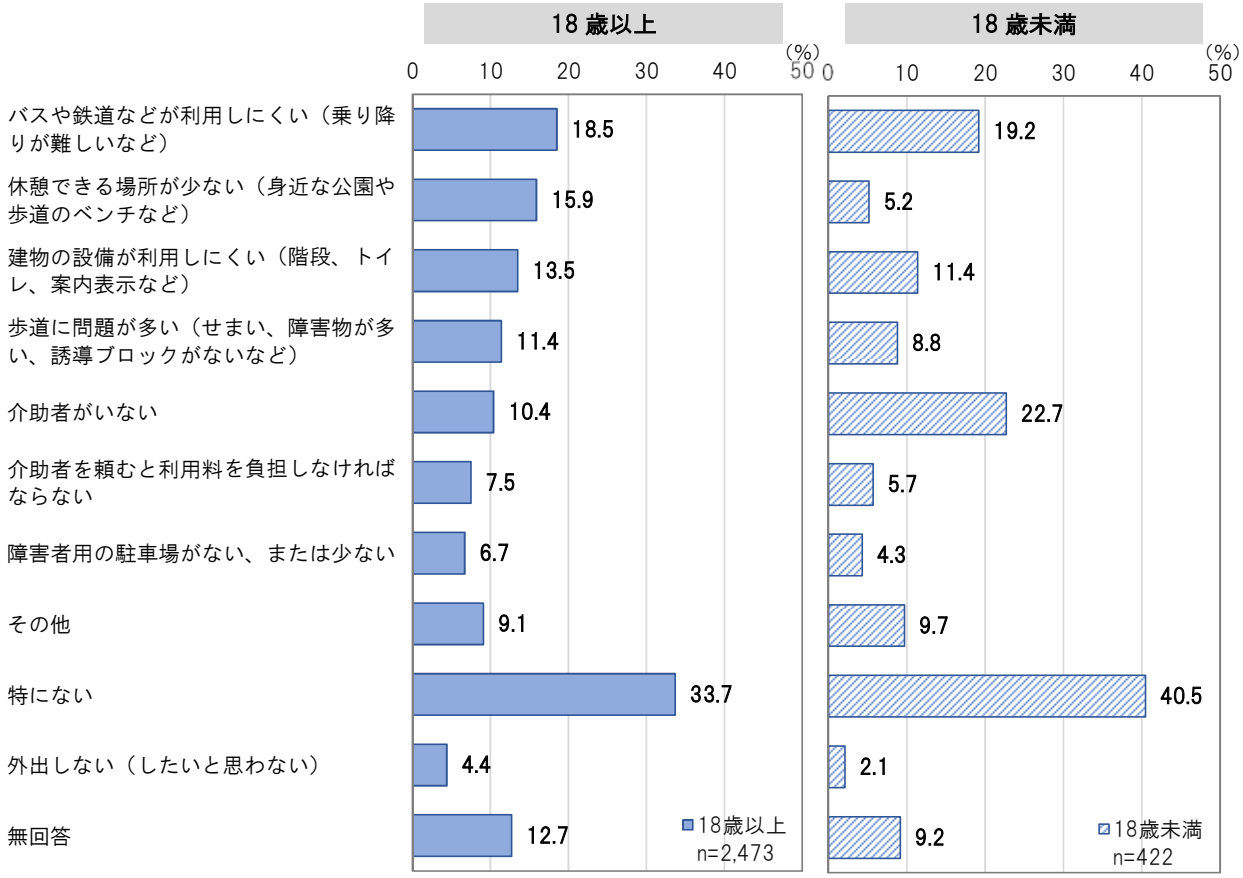
・障害種別にみると、18 歳以上の知的障害では「ガイドヘルパーや施設の職員」が最も多くなっている。

		回答者（人）	同居の家族	ガイドヘルパーや施設の職員	別居の家族	親戚・友人	近所の人	手話通訳などの意思疎通支援者	その他	無回答
18 歳以上	身体障害	351	**61.8**	40.2	21.1	6.3	0.9	0.6	4.3	1.1
	難病	101	**70.3**	32.7	20.8	5.0	1.0	－	4.0	－
	高次脳機能障害	31	**54.8**	41.9	22.6	16.1	－	－	6.5	－
	知的障害	263	64.6	**71.5**	14.8	8.4	0.4	0.8	2.3	－
	発達障害	113	**75.2**	67.3	10.6	13.3	0.9	0.9	2.7	－
	精神障害	154	**66.2**	33.8	20.1	10.4	1.3	－	3.2	0.6
18 歳未満	身体障害	45	**95.6**	26.7	15.6	11.1	－	2.2	2.2	45
	知的障害	174	**99.4**	17.8	16.1	10.3	－	－	1.7	174
	発達障害	173	**99.4**	13.9	16.2	10.4	－	－	2.3	173

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

（７）外出のときに困ることや、外出をとりやめるときの内容（複数回答）

- 外出のときに困ることや、外出をとりやめるときの内容については、18 歳以上・18 歳未満ともに「特にない」が最も多くなっている。
- 具体的に困ることでは、18 歳以上では「バスや鉄道などが利用しにくい（乗り降りが難しいなど）」が２割近く（18.5%）と多く、次いで「休憩できる場所が少ない（身近な公園や歩道のベンチなど）」（15.9%）、「建物の設備が利用しにくい（階段、トイレ、案内表示など）」（13.5%）の順となっている。
- 18 歳未満では「介助者がいない」が２割以上（22.7%）と多く、次いで「バスや鉄道などが利用しにくい（乗り降りが難しいなど）」（19.2%）、「建物の設備が利用しにくい（階段、トイレ、案内表示など）」（11.4%）の順となっている。



・障害種別にみると、ほとんどの障害で「特にない」最も多くなっているものの、18 歳以上の高次脳機能障害、18 歳未満の身体障害では「バスや鉄道などが利用しにくい（乗り降りが難しいなど）」や「建物の設備が利用しにくい（階段、トイレ、案内表示など）」の回答が多くなっている。

		回答者（人）	バスや鉄道などが利用しにくい（乗り降りが難しいなど）	休憩できる場所が少ない（身近な公園や歩道のベンチなど）	建物の設備が利用しにくい（階段、トイレ、案内表示など）	歩道に問題が多い（せまい、障害物が多い、誘導ブロックがないなど）	介助者がいない	介助者を頼むと利用料を負担しなければならない
18 歳以上	身体障害	1,342	19.8	18.3	19.6	16.6	9.4	7.7
	難病	280	24.6	19.6	22.5	19.3	10.7	8.9
	高次脳機能障害	65	**27.7**	18.5	**27.7**	24.6	18.5	9.2
	知的障害	587	16.0	10.6	9.0	6.1	19.8	10.2
	発達障害	338	18.3	15.4	9.2	7.1	17.2	8.9
	精神障害	690	20.1	16.5	9.7	6.5	8.3	5.9
18 歳未満	身体障害	68	39.7	13.2	**42.6**	25.0	32.4	11.8
	知的障害	282	22.0	5.3	13.1	11.0	29.1	8.2
	発達障害	294	20.7	4.1	8.2	7.8	24.5	5.4

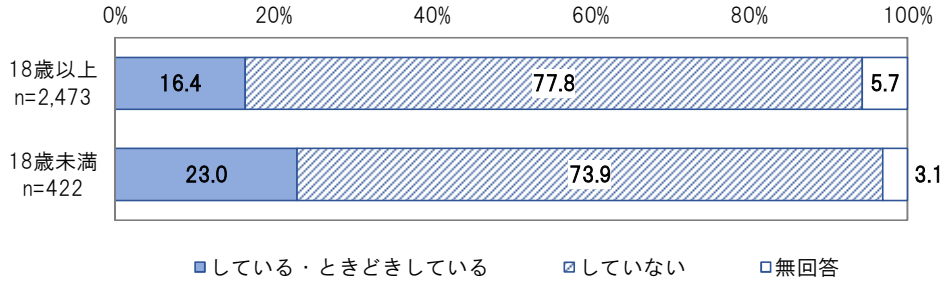
		回答者（人）	障害者用の駐車場がない、または少ない	その他	特にない	外出しない（したいと思わない）	無回答
18 歳以上	身体障害	1,342	10.1	7.7	**33.0**	2.5	11.3
	難病	280	10.7	12.5	**25.4**	4.3	7.5
	高次脳機能障害	65	12.3	9.2	23.1	4.6	16.9
	知的障害	587	4.6	6.6	**32.9**	4.6	15.7
	発達障害	338	4.4	10.7	**33.4**	3.8	11.8
	精神障害	690	2.2	14.2	**30.3**	8.3	13.6
18 歳未満	身体障害	68	17.6	13.2	20.6	1.5	4.4
	知的障害	282	6.0	11.7	**34.4**	2.5	7.8
	発達障害	294	2.7	11.6	**40.5**	1.7	8.5

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

７．スポーツ・文化、社会参加活動（生涯学習活動）について

（１）生涯学習活動の実施状況

・生涯学習活動の実施状況については、18 歳以上・18 歳未満ともに「していない」が７割以上を占めて多くなっている。一方で、「している・ときどきしている」が 18 歳以上では２割未満（16.4%）、18 歳未満では２割程度（23.0%）となっている。



・障害種別にみると、いずれの障害においても「していない」が大半を占めている。

・また、「している・ときどきしている」と回答した人をみると、18 歳以上・18 歳未満ともに、発達障害でやや高い割合となっている。

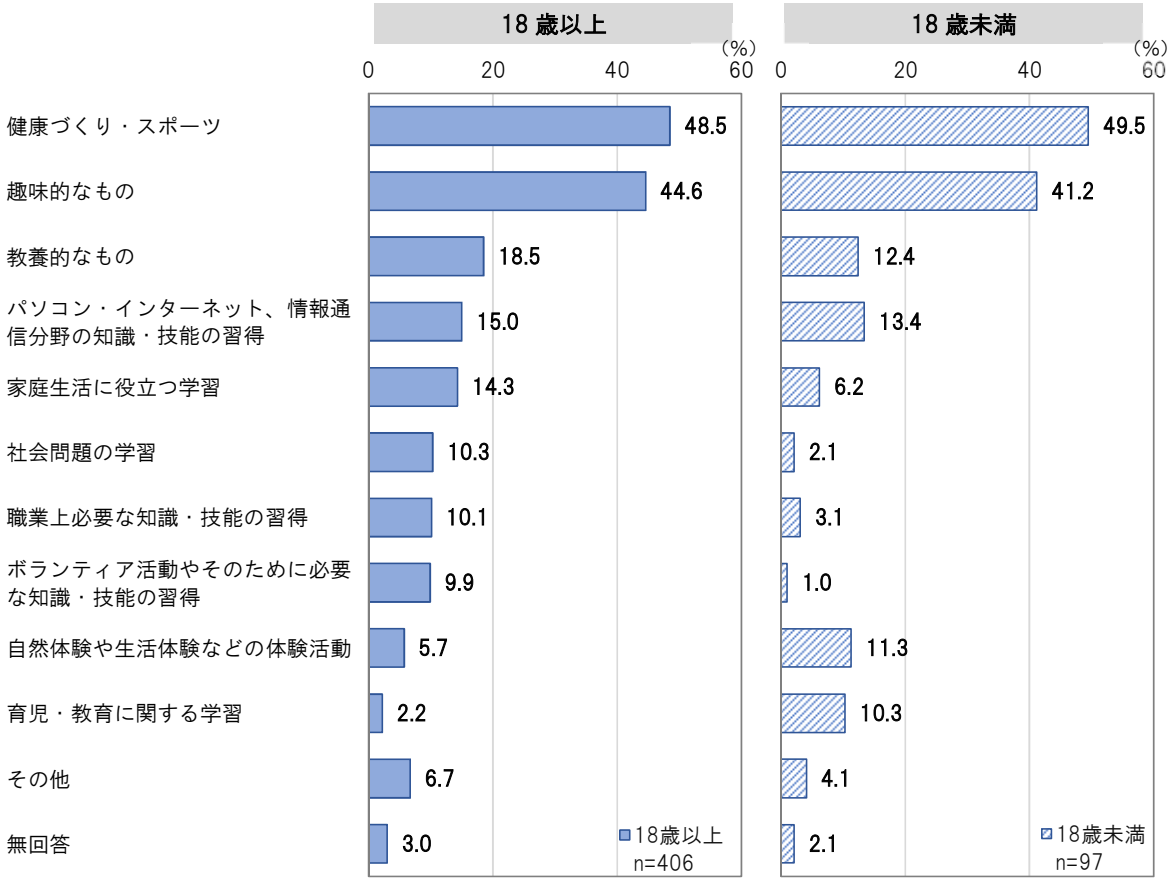
		回答者（人）	している・ときどきしている	していない	無回答
18 歳以上	身体障害	1,342	17.1	**77.6**	5.3
	難病	280	15.7	**79.6**	4.6
	高次脳機能障害	65	20.0	**76.9**	3.1
	知的障害	587	18.4	**75.0**	6.6
	発達障害	338	20.1	**76.6**	3.3
	精神障害	690	14.2	**79.7**	6.1
18 歳未満	身体障害	68	19.1	**80.9**	－
	知的障害	282	20.2	**78.4**	1.4
	発達障害	294	24.1	**74.1**	1.7

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」としている。

（２）実施している生涯学習活動の内容（複数回答）

※（１）で「している・ときどきしている」と回答した方のみ

- 実施している生涯学習活動の内容については、18 歳以上・18 歳未満ともに「健康づくり・スポーツ」が半数近く、「趣味的なもの」が４割以上と多くなっている。
- 次いで、18 歳以上では「教養的なもの」（18.5%）、「パソコン・インターネット、情報通信分野の知識・技能の習得」（15.0%）、「家庭生活に役立つ学習」（14.3%）の順となっており、18 歳未満では「パソコン・インターネット、情報通信分野の知識・技能の習得」（13.4%）、「教養的なもの」（12.4%）、「自然体験や生活体験などの体験活動」（11.3%）の順となっている。
- 「その他」の内容として、18 歳以上では入所施設での日中活動や脳トレなど、18 歳未満ではボーイスカウト活動などの回答があった。



・障害種別にみると、18 歳以上の精神障害、18 歳未満の身体障害では「趣味的なもの」が最も多く、その他の障害では「健康づくり・スポーツ」が最も多くなっている。また、18 歳以上・18 歳未満ともに、知的障害・発達障害で「自然体験や生活体験などの体験活動」がやや多くなっている。

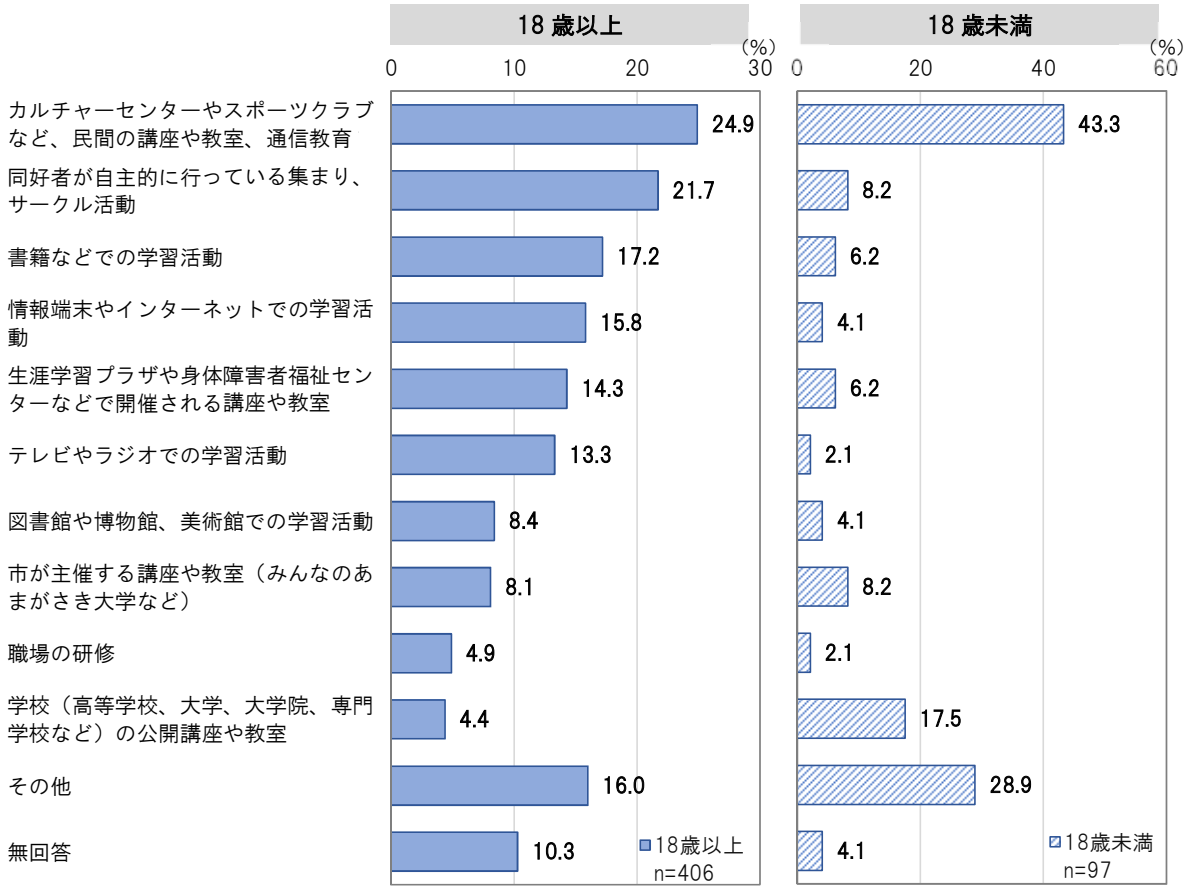
		回答者（人）	健康づくり・スポーツ	趣味的なもの	教養的なもの	パソコン・インターネット、情報通信分野の知識・技能の習得	家庭生活に役立つ学習	社会問題の学習
18 歳以上	身体障害	230	**50.4**	43.9	20.0	15.7	11.3	10.0
	難病	44	**61.4**	52.3	22.7	20.5	9.1	11.4
	高次脳機能障害	13	**69.2**	46.2	30.8	7.7	15.4	15.4
	知的障害	108	**51.9**	38.0	6.5	5.6	12.0	5.6
	発達障害	68	**51.5**	41.2	10.3	13.2	8.8	14.7
	精神障害	98	37.8	**48.0**	30.6	21.4	20.4	17.3
18 歳未満	身体障害	13	30.8	**53.8**	23.1	15.4	7.7	7.7
	知的障害	57	**50.9**	38.6	8.8	15.8	8.8	1.8
	発達障害	71	**54.9**	42.3	11.3	16.9	5.6	1.4

		回答者（人）	職業上必要な知識・技能の習得	ボランティア活動やそのために必要な知識・技能の習得	自然体験や生活体験などの体験活動	育児・教育に関する学習	その他	無回答
18 歳以上	身体障害	230	13.0	11.7	3.9	1.7	4.8	2.6
	難病	44	11.4	11.4	－	－	9.1	－
	高次脳機能障害	13	－	7.7	－	－	15.4	－
	知的障害	108	1.9	5.6	11.1	0.9	10.2	4.6
	発達障害	68	5.9	8.8	13.2	－	13.2	2.9
	精神障害	98	9.2	12.2	4.1	4.1	8.2	3.1
18 歳未満	身体障害	13	7.7	7.7	7.7	15.4	－	7.7
	知的障害	57	5.3	1.8	12.3	10.5	7.0	1.8
	発達障害	71	4.2	1.4	12.7	9.9	5.6	－

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

（３）生涯学習の活動場所（複数回答）　※（１）で「している・ときどきしている」と回答した方のみ

- 生涯学習の活動場所については、18 歳以上・18 歳未満ともに「カルチャーセンターやスポーツクラブなど、民間の講座や教室、通信教育」が最も多くなっている。
- 次いで、18 歳以上では「同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動」（21.7%）、「書籍などでの学習活動」（17.2%）の順となっている。
- 18 歳未満では「学校（高等学校、大学、大学院、専門学校など）の公開講座や教室」（17.5%）、「同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動」と「市が主催する講座や教室（みんなのあまがさき大学など）」（8.2%）の順となっている。
- 「その他」の場所として、18 歳以上では入所施設や自宅、市外の施設など、18 歳未満では学習塾やボーイスカウトなどの回答があった。



・障害種別にみると、18 歳以上の精神障害では「書籍などでの学習活動」や「情報端末やインターネットでの学習活動」が、その他の障害に比べて多くなっている。
・また「市が主催する講座や教室（みんなのあまがさき大学など）」では、18 歳未満の身体障害で２割以上（23.1%）と多くなっている。

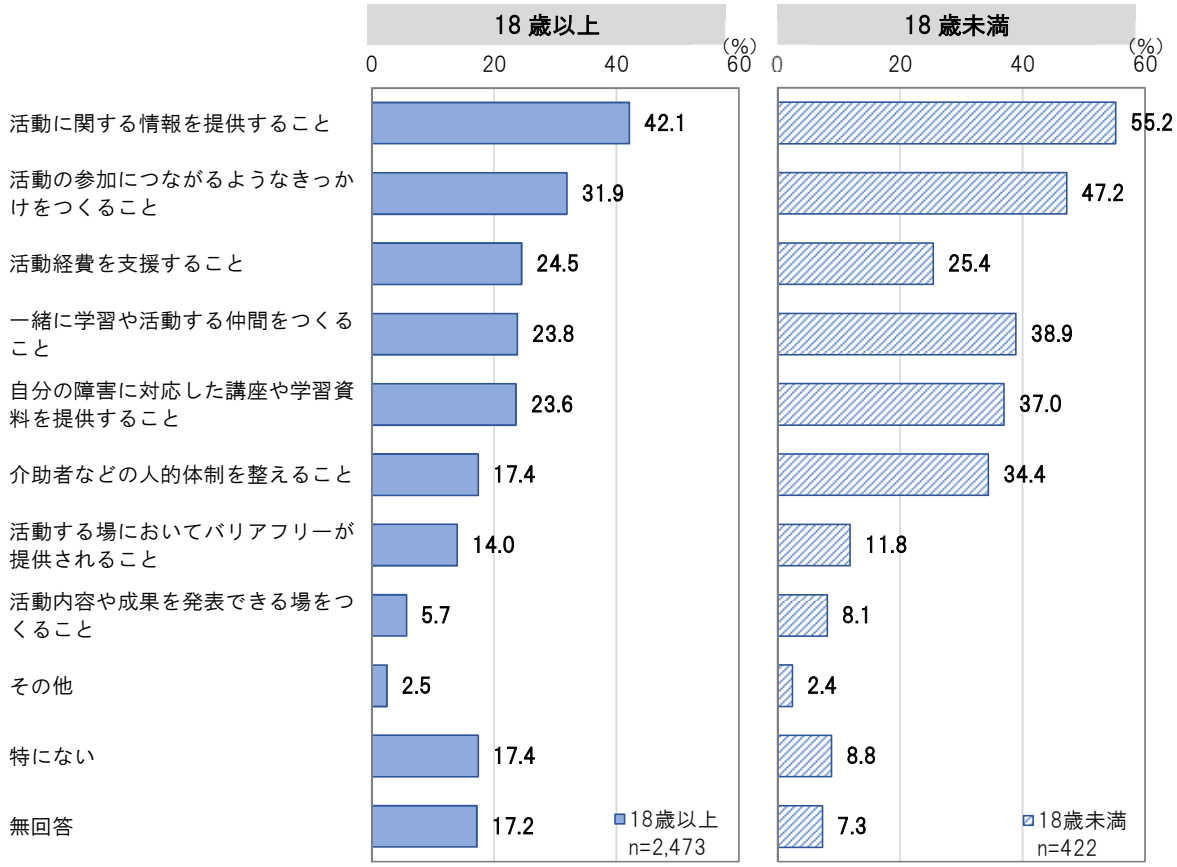
		回答者（人）	カルチャーセンターやスポーツクラブなど、民間の講座や教室、通信教育	同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動	書籍などでの学習活動	情報端末やインターネットでの学習活動	生涯学習プラザや身体障害者福祉センターなどで開催される講座や教室	テレビやラジオでの学習活動
18 歳以上	身体障害	230	**27.8**	24.3	14.3	16.5	16.5	13.9
	難病	44	**29.5**	25.0	15.9	25.0	18.2	18.2
	高次脳機能障害	13	15.4	**23.1**	15.4	－	**23.1**	**23.1**
	知的障害	108	**21.3**	18.5	4.6	7.4	13.0	10.2
	発達障害	68	**22.1**	19.1	13.2	16.2	10.3	16.2
	精神障害	98	20.4	15.3	**34.7**	22.4	11.2	18.4
18 歳未満	身体障害	13	**46.2**	15.4	7.7	7.7	15.4	7.7
	知的障害	57	**43.9**	10.5	3.5	5.3	5.3	1.8
	発達障害	71	**49.3**	7.0	4.2	5.6	7.0	1.4

		回答者（人）	図書館や博物館、美術館での学習活動	市が主催する講座や教室（みんなのあまがさき大学など）	職場の研修	学校（高等学校、大学、大学院、専門学校など）の公開講座や教室	その他	無回答
18 歳以上	身体障害	230	7.8	7.0	6.5	4.8	13.9	9.1
	難病	44	4.5	13.6	2.3	2.3	9.1	9.1
	高次脳機能障害	13	7.7	7.7	－	－	15.4	7.7
	知的障害	108	3.7	6.5	1.9	4.6	22.2	11.1
	発達障害	68	2.9	10.3	2.9	5.9	22.1	5.9
	精神障害	98	14.3	11.2	2.0	3.1	16.3	12.2
18 歳未満	身体障害	13	7.7	23.1	15.4	30.8	－	15.4
	知的障害	57	3.5	3.5	3.5	15.8	36.8	3.5
	発達障害	71	4.2	5.6	1.4	18.3	31.0	2.8

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

（４）生涯学習活動を推進するために必要な支援（複数回答）

- 生涯学習の活動場所については、18 歳以上・18 歳未満ともに「活動に関する情報を提供すること」が最も多くなっている。
- 次いで、18 歳以上では「活動の参加につながるようなきっかけをつくること」（31.9%）、「活動経費を支援すること」（24.5%）となっている。
- 18 歳未満では「活動の参加につながるようなきっかけをつくること」（47.2%）、「一緒に学習や活動する仲間をつくること」（38.9%）、「自分の障害に対応した講座や学習資料を提供すること」（37.0%）、「介助者などの人的体制を整えること」（34.4%）と、すべて３割以上となっており、18 歳未満の生涯学習活動推進への関心の高さが伺える結果となっている。



・障害種別にみると、18 歳以上の知的障害では「活動の参加につながるようなきっかけをつくること」が最も多く、その他の障害で「活動に関する情報を提供すること」が最も多くなっている。
・また、18 歳未満の身体障害では「自分の障害に対応した講座や学習資料を提供すること」や「介助者などの人的体制を整えること」、「活動する場においてバリアフリーが提供されること」などでやや多くなっている。

		回答者（人）	活動に関する情報を提供すること	活動の参加につながるようなきっかけをつくること	活動経費を支援すること	一緒に学習や活動する仲間をつくること	自分の障害に対応した講座や学習資料を提供すること	介助者などの人的体制を整えること
18 歳以上	身体障害	1,342	**42.4**	29.4	23.9	20.3	21.8	16.5
	難病	280	**44.6**	32.1	27.5	23.6	29.3	25.0
	高次脳機能障害	65	**44.6**	29.2	30.8	16.9	27.7	27.7
	知的障害	587	36.8	**37.1**	19.6	26.9	20.3	25.6
	発達障害	338	**48.2**	44.7	29.9	35.8	30.5	26.6
	精神障害	690	**45.5**	33.9	28.7	27.4	28.4	14.3
18 歳未満	身体障害	68	**57.4**	42.6	26.5	36.8	50.0	54.4
	知的障害	282	**56.7**	50.4	25.9	42.2	37.2	39.7
	発達障害	294	**56.5**	50.7	26.2	41.8	37.1	32.3

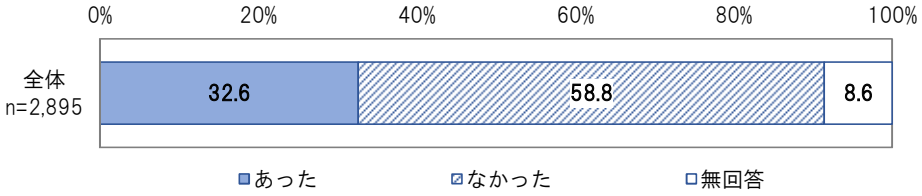
		回答者（人）	活動する場においてバリアフリーが提供されること	活動内容や成果を発表できる場をつくること	その他	特にない	無回答
18 歳以上	身体障害	1,342	19.3	4.8	1.9	17.5	17.1
	難病	280	22.9	7.1	2.1	15.0	14.6
	高次脳機能障害	65	23.1	6.2	1.5	10.8	16.9
	知的障害	587	9.2	6.3	1.7	17.5	19.8
	発達障害	338	11.2	9.5	4.7	13.9	11.2
	精神障害	690	9.0	7.1	4.3	16.7	16.4
18 歳未満	身体障害	68	33.8	5.9	1.5	7.4	1.5
	知的障害	282	10.6	9.6	2.8	8.2	5.7
	発達障害	294	8.8	8.8	3.1	9.2	5.8

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

８．安全・安心について

（１）近年の地震や台風などの災害時に困ったことの有無

・近年の地震や台風などの災害時に困ったことについては、「なかった」が６割近く（58.8%）を占めているものの、「あった」が３割以上（32.6%）となっている。



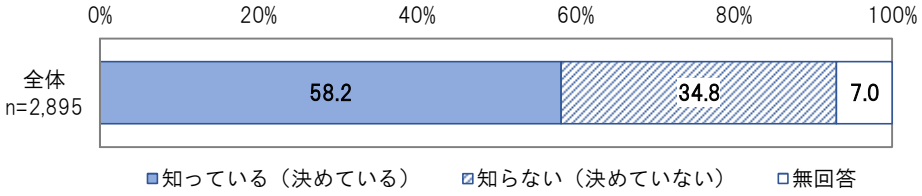
・障害種別にみると、いずれの障害においても「なかった」が半数以上を占めている。
・また、「あった」と回答した人をみると、難病・精神障害で、その他の障害に比べてやや高い割合となっている。

		回答者（人）	あった	なかった	無回答
全体	身体障害	1,410	34.3	**56.8**	8.9
	難病	280	40.7	**51.8**	7.5
	高次脳機能障害	65	35.4	**58.5**	6.2
	知的障害	869	30.5	**60.4**	9.1
	発達障害	632	31.8	**62.5**	5.7
	精神障害	690	38.3	**53.9**	7.8

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」としている。

（２）地震や台風などの災害時に避難する場所の認知度

・近年の地震や台風などの災害時に避難する場所の認知度については、「知っている（決めている）」が６割近く（58.2%）を占めているものの、「知らない（決めていない）」が３割以上（34.8%）となっている。



・障害種別にみると、高次脳機能障害では「知らない（決めていない）」が約半数（50.8%）と多くなっているものの、その他の障害においては、「知っている（決めている）」が「知らない（決めていない）」を上回っている。

・また、精神障害では「知らない（決めていない）」が約４割（40.6%）と、高次脳機能障害に次いで高い割合となっている。

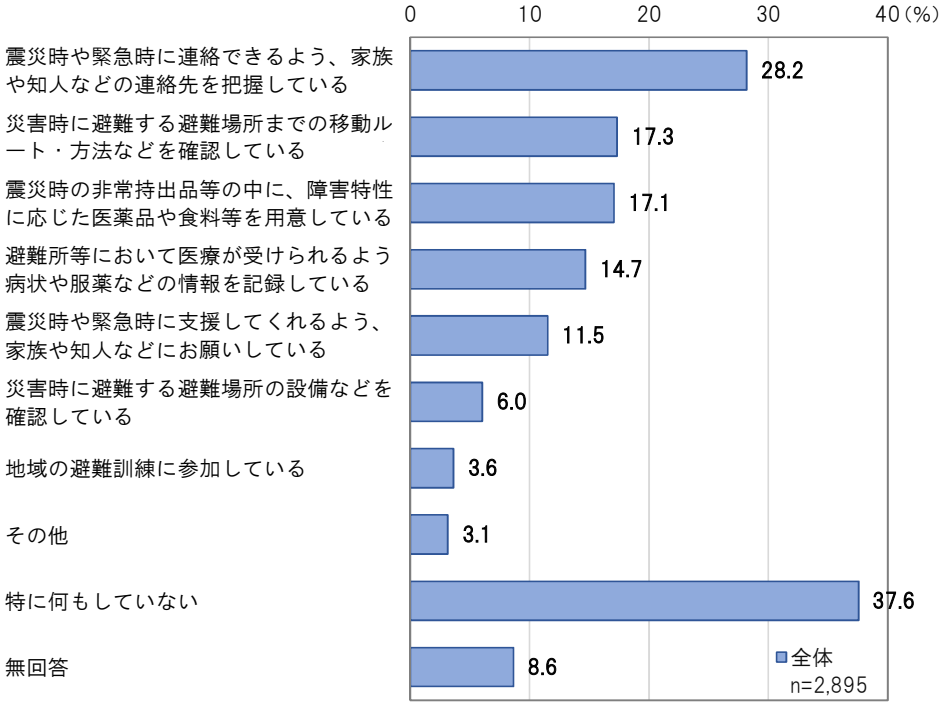
		回答者（人）	知っている（決めている）	知らない（決めていない）	無回答
全体	身体障害	1,410	**61.8**	31.8	6.3
	難病	280	**62.1**	33.6	4.3
	高次脳機能障害	65	44.6	**50.8**	4.6
	知的障害	869	**56.3**	35.8	7.9
	発達障害	632	**60.8**	34.3	4.9
	精神障害	690	**51.2**	40.6	8.3

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」としている。

（３）地震や台風などの災害時に備えて日頃から心がけている・準備していること（複数回答）

・地震や台風などの災害時に備えて日頃から心がけている・準備していることについては、「特に何もしていない」が４割近く（37.6%）と最も多くなっている。

・具体的な準備等については、「震災時や緊急時に連絡できるよう、家族や知人などの連絡先を把握している」が３割近く（28.2%）と多く、次いで「災害時に避難する避難場所までの移動ルート・方法などを確認している」（17.3%）、「震災時の非常持出品等の中に、障害特性に応じた医薬品や食料等を用意している」（17.1%）、「避難所等において医療が受けられるよう病状や服薬などの情報を記録している」（14.7%）の順となっている。



・障害種別にみると、難病では「震災時や緊急時に連絡できるよう、家族や知人などの連絡先を把握している」が最も多くなっており、その他の障害では「特に何もしていない」が最も多くなっている。

・また、身体障害・難病では「震災時の非常持出品等の中に、障害特性に応じた医薬品や食料等を用意している」や「災害時に避難する避難場所までの移動ルート・方法などを確認している」、身体障害・難病・精神障害では「避難所等において医療が受けられるよう病状や服薬などの情報を記録している」がやや多くなっている。

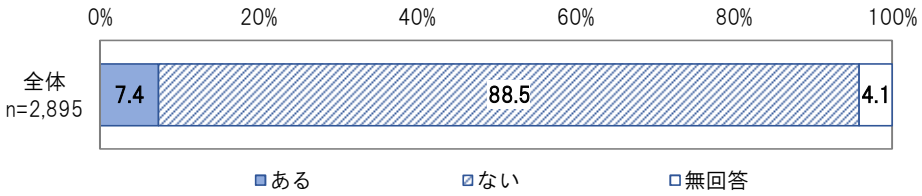
		回答者（人）	震災時や緊急時に連絡できるよう、家族や知人などの連絡先を把握している	災害時に避難する避難場所までの移動ルート・方法などを確認している	震災時の非常持出品等の中に、障害特性に応じた医薬品や食料等を用意している	避難所等において医療が受けられるよう病状や服薬などの情報を記録している	震災時や緊急時に支援してくれるよう、家族や知人などにお願いしている
全体	身体障害	1,410	31.8	18.7	20.9	18.4	12.6
	難病	280	**33.9**	19.6	26.8	22.9	16.1
	高次脳機能障害	65	21.5	12.3	10.8	13.8	12.3
	知的障害	869	22.2	15.2	14.3	8.3	12.1
	発達障害	632	23.9	17.7	16.1	8.4	13.0
	精神障害	690	29.1	14.5	13.8	18.6	9.4

		回答者（人）	災害時に避難する避難場所の設備などを確認している	地域の避難訓練に参加している	その他	特に何もしていない	無回答
全体	身体障害	1,410	6.2	2.6	2.3	**35.7**	7.5
	難病	280	5.0	0.7	5.7	30.4	6.4
	高次脳機能障害	65	6.2	1.5	4.6	**44.6**	9.2
	知的障害	869	7.5	6.0	4.9	**38.0**	10.8
	発達障害	632	7.6	6.5	5.4	**39.2**	6.0
	精神障害	690	3.6	3.0	3.3	**41.0**	7.8

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

（４）悪徳商法などの消費者トラブルに巻き込まれたことの有無

・悪徳商法などの消費者トラブルに巻き込まれたことの有無については、「ない」が８割近く（88.5%）を占めている。一方で、「ある」が１割近く（7.4%）となっている。



・障害種別にみると、高次脳機能障害・精神障害では「ある」が１割以上となっており、その他の障害に比べてやや多くなっている。

		回答者（人）	ある	ない	無回答
全体	身体障害	1,410	5.8	**90.9**	3.3
	難病	280	7.9	**89.6**	2.5
	高次脳機能障害	65	12.3	**86.2**	1.5
	知的障害	869	4.4	**90.3**	5.3
	発達障害	632	5.7	**90.7**	3.6
	精神障害	690	15.2	**79.4**	5.4

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」としている。

（4-1）消費者トラブルの内容

※（4）で「ある」と回答した方のみ

・消費者トラブルの内容では、インターネットを介したクリック詐欺などの「電子商取引」が 26 件と最も多く、次いで、訪問販売による布団や着物、宝石などの高額商品の購入や新聞勧誘などの「家庭訪販」が 25 件、「電話勧誘」や「点検商法」が 13 件、「身分詐称」が 10 件の順となっている。

項目	件数
電子商取引	26
家庭訪販	25
電話勧誘	13
点検商法	13
身分詐称	10
ネガティブオプション	8
開運商法	7
紹介販売	4
キャッチセールス	1
利殖商法	1
その他・意見・要望など	36

※消費者トラブルの名称について

電子商取引：オンラインショッピング、インターネット等のネットワーク上で行う取引

家庭訪販：販売員が消費者の家庭を訪問し、商品・サービスを販売するもの

電話勧誘：販売員が消費者の職場や家庭等へ電話で勧誘し、商品・サービスを販売するもの

点検商法：「点検に来た」といって来訪し、「布団にダニがいる」「工事をしないと危険」などと、事実と異なることを言い、商品や別の商品・サービス等を契約させる商法

身分詐称（かたり商法）：あたかも公的機関や有名企業の職員、関係者であるかのように装い売りつける商法

ネガティブオプション：商品を一方的に送りつけ、消費者が受け取った以上、支払わなければならないと勘違いして支払うことを狙った商法

開運商法：「購入しなければ不幸になる」などと不安をあおり、それを解消するために必要と、商品（つぼや珠数）や祈祷などを契約させる商法

紹介販売：商品・サービスを購入した人に、知人など他の人を紹介させて販売を拡大する販売システム

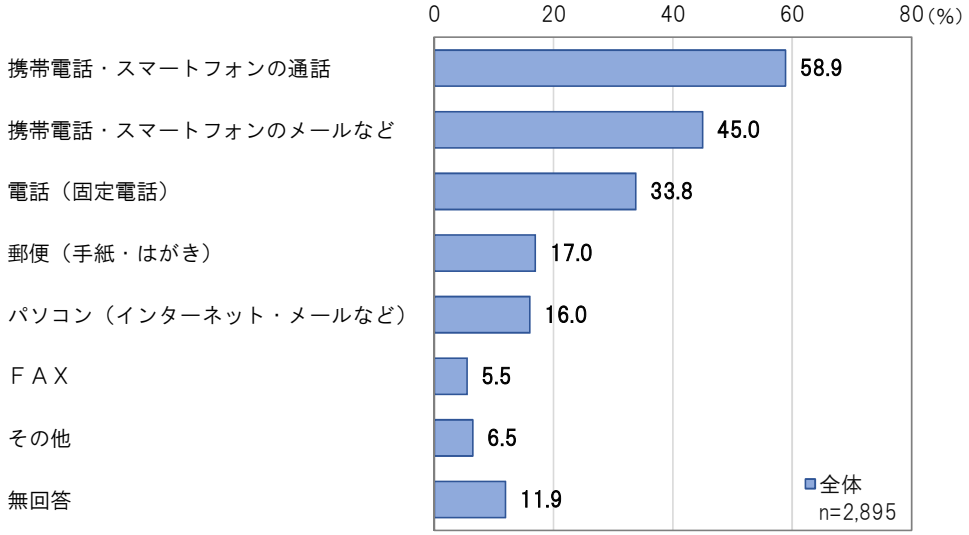
キャッチセールス：駅や繁華街の路上で呼び止めて喫茶店や営業所に連れて行き、応じるまで解放しない雰囲気で商品・サービスの契約をさせるもの

利殖商法：「高利回り」など利殖になることを強調して投資や出資を勧誘する商法

９．情報、啓発・差別の解消について

（１）ふだん使っている通信手段（複数回答）

・ふだん使っている通信手段については､｢携帯電話･スマートフォンの通話｣が６割近く（58.9%）を占めて最も多く、次いで「携帯電話・スマートフォンのメールなど」（45.0%）、「電話（固定電話）」（33.8%）の順となっている。



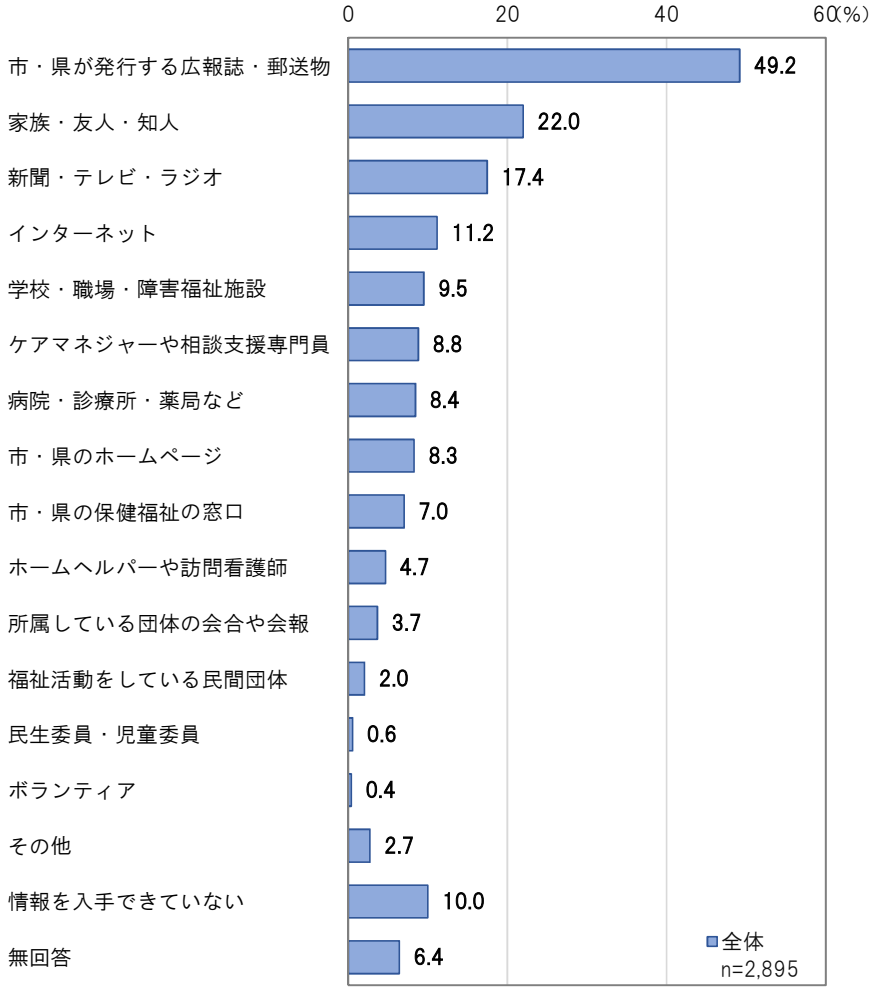
・障害種別にみると、いずれの障害においても「携帯電話・スマートフォンの通話」が最も多くなっている。

		回答者（人）	携帯電話・スマートフォンの通話	携帯電話・スマートフォンのメールなど	電話（固定電話）	郵便（手紙・はがき）	パソコン（インターネット・メールなど）	ＦＡＸ	その他	無回答
全体	身体障害	1,410	**62.9**	51.2	39.7	18.6	19.4	8.4	4.3	8.7
	難病	280	**71.4**	56.4	45.4	19.3	25.0	6.1	2.9	6.4
	高次脳機能障害	65	**56.9**	36.9	36.9	15.4	6.2	6.2	9.2	13.8
	知的障害	869	**45.3**	29.5	24.7	10.9	9.3	3.6	13.7	21.7
	発達障害	632	**54.4**	36.6	23.1	12.8	13.3	3.2	13.9	15.2
	精神障害	690	**64.2**	49.1	34.5	21.0	17.4	3.6	4.2	7.0

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

（２）市役所からのお知らせやサービス利用などの生活に関する情報の入手先（複数回答）

・市役所からのお知らせやサービス利用などの生活に関する情報の入手先については、「市・県が発行する広報誌・郵送物」が約半数（49.2%）を占めて最も多く、次いで「家族・友人・知人」（22.0%）、「新聞・テレビ・ラジオ」（17.4%）、「インターネット」（11.2%）の順となっている。



・障害種別にみると、いずれの障害においても「市・県が発行する広報誌・郵送物」が最も多くなっている。
・高次脳機能障害・知的障害・発達障害では「家族・友人・知人」、知的障害・発達障害では「学校・職場・障害福祉施設」でその他の障害に比べてやや多くなっている。
・また、身体障害・難病では「情報を入手できていない」が１割未満となっているのに対し、その他の障害では１割を超えており、特に高次脳機能障害では２割近くと多くなっている。

		回答者（人）	市・県が発行する広報誌・郵送物	家族・友人・知人	新聞・テレビ・ラジオ	インターネット	学校・職場・障害福祉施設	ケアマネジャーや相談支援専門員	病院・診療所・薬局など	市・県のホームページ	市・県の保健福祉の窓口
全体	身体障害	1,410	**59.6**	19.7	21.8	12.0	4.9	9.9	8.9	9.5	5.7
	難病	280	**61.8**	18.9	21.1	14.3	3.2	10.4	11.8	13.9	8.2
	高次脳機能障害	65	**44.6**	30.8	24.6	4.6	1.5	20.0	12.3	4.6	4.6
	知的障害	869	**33.8**	31.9	11.9	6.3	21.2	7.4	4.6	3.9	5.5
	発達障害	632	**35.6**	32.3	11.9	10.1	20.4	7.8	5.9	6.3	7.0
	精神障害	690	**47.7**	15.1	15.8	12.8	4.2	10.0	12.5	9.3	11.6

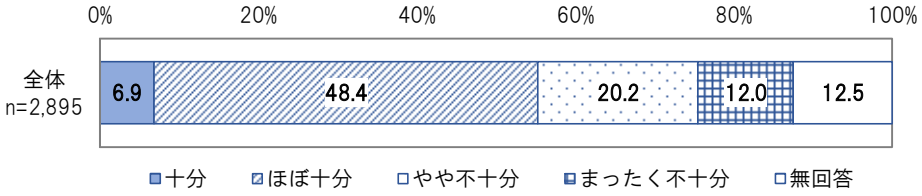
		回答者（人）	ホームヘルパーや訪問看護師	所属している団体の会合や会報	福祉活動をしている民間団体	民生委員・児童委員	ボランティア	その他	情報を入手できていない	無回答
全体	身体障害	1,410	5.2	4.3	1.8	0.8	0.4	2.3	7.9	4.5
	難病	280	5.4	3.9	2.9	－	1.8	2.1	8.9	3.6
	高次脳機能障害	65	7.7	4.6	1.5	－	－	4.6	18.5	3.1
	知的障害	869	4.0	5.4	2.9	0.5	0.7	3.6	10.9	9.8
	発達障害	632	2.8	3.5	2.8	0.5	0.5	3.6	11.7	6.3
	精神障害	690	7.2	2.5	1.9	0.6	0.3	3.6	12.9	6.2

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

（３）市役所から発信される情報の取得状況

・市役所から発信される情報の取得状況については、「ほぼ十分」が半数近く（48.4%）を占めて最も多く、「十分」（6.9%）と合わせると、情報の入手が『十分』得られている方が半数以上を占めている。

・一方で、「やや不十分」（20.2%）と「まったく不十分」（12.0%）を合わせた情報の入手が『不十分』の方が３割以上となっている。

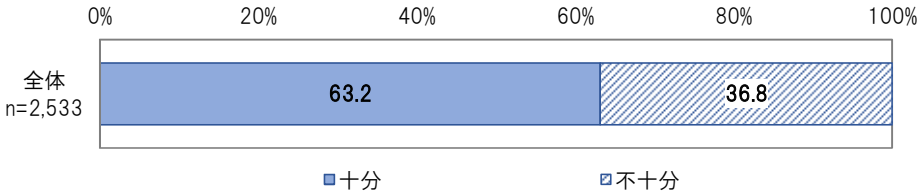


・障害種別にみると、身体障害・難病では「ほぼ十分」が半数を超えているのに対し、高次脳機能障害・知的障害では４割程度となっており、やや低くなっている。

		回答者（人）	十分	ほぼ十分	やや不十分	まったく不十分	無回答
全体	身体障害	1,410	6.6	**51.1**	21.8	9.4	11.1
	難病	280	5.0	**51.4**	25.4	8.2	10.0
	高次脳機能障害	65	7.7	**41.5**	21.5	20.0	9.2
	知的障害	869	6.9	**42.9**	20.0	13.8	16.3
	発達障害	632	5.2	**45.4**	21.8	15.5	12.0
	精神障害	690	7.5	**45.4**	19.1	15.9	12.0

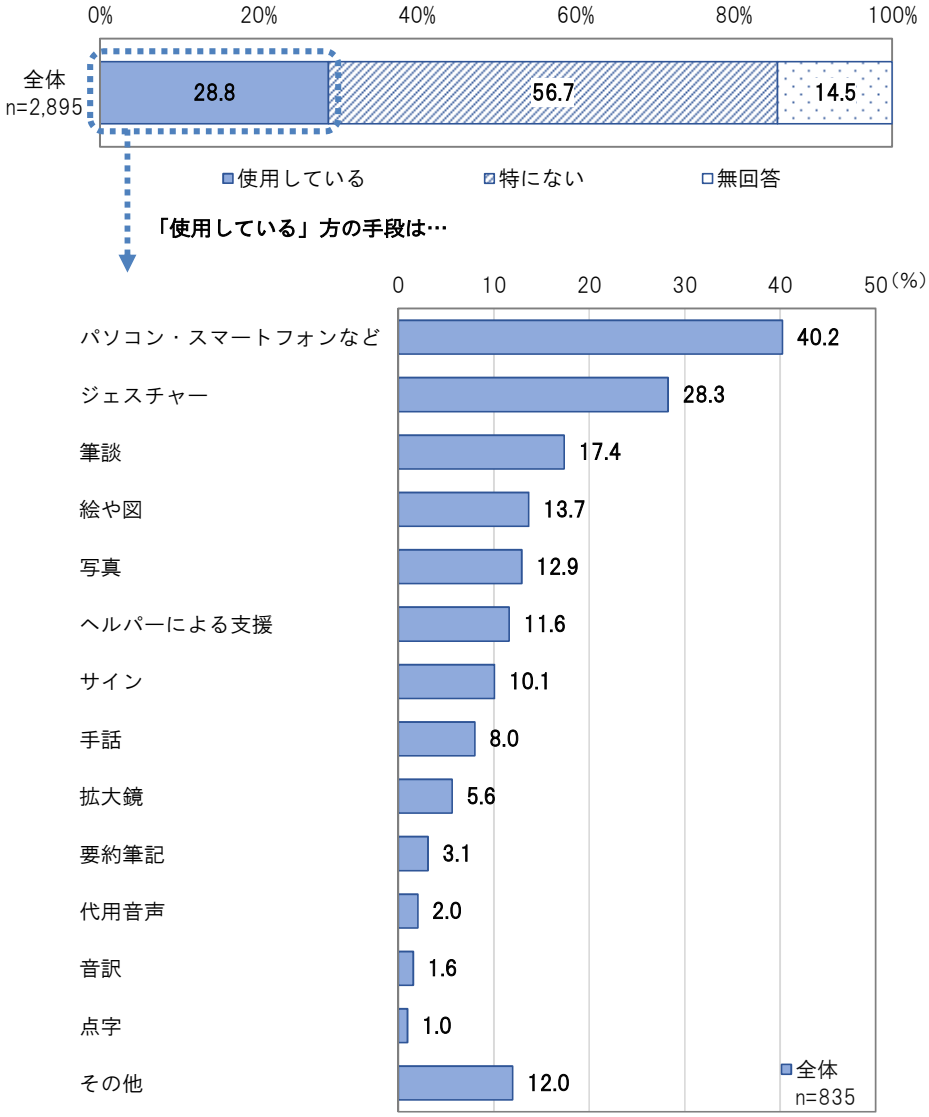
※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

・無回答の方を除いて情報の取得状況に対する評価をみると、『十分』（「十分」＋「ほぼ十分」）が６割以上（63.2%）を占めている。



（４）会話やコミュニケーションを図る際に用いる手段（手法）（複数回答）

- 会話やコミュニケーションを図る際に用いる手段（手法）については、「特にない」が半数以上（56.7%）を占めている。一方で、「使用している」が３割近く（28.8%）となっている。
- 使用している方のコミュニケーション手段については、「パソコン・スマートフォンなど」が約４割（40.2%）と最も多く、次いで「ジェスチャー」（28.3%）、「筆談」（17.4%）、「絵や図」（13.7%）の順となっている。



・障害種別にみると、身体障害・難病・精神障害では「パソコン・スマートフォンなど」、高次脳機能障害・知的障害・発達障害では「ジェスチャー」が最も多くなっている。
・また、身体障害では「手話」や「拡大鏡」、知的障害・発達障害では「写真」や「サイン」などで、その他の障害に比べてやや多くなっている。

		回答者（人）	パソコン・スマートフォンなど	ジェスチャー	筆談	絵や図	写真	ヘルパーによる支援	サイン
全体	身体障害	388	**38.4**	22.9	22.4	9.8	9.5	12.4	8.0
	難病	73	**58.9**	19.2	15.1	2.7	8.2	16.4	6.8
	高次脳機能障害	22	18.2	**45.5**	4.5	18.2	13.6	－	－
	知的障害	332	24.7	**43.7**	11.7	19.3	18.7	11.7	17.8
	発達障害	254	29.1	**41.7**	12.6	21.7	19.7	9.8	16.5
	精神障害	177	**60.5**	19.2	9.6	10.2	11.9	14.7	3.4

		回答者（人）	手話	拡大鏡	要約筆記	代用音声	音訳	点字	その他
全体	身体障害	388	14.4	10.8	3.4	2.6	2.1	1.5	11.6
	難病	73	4.1	8.2	1.4	2.7	5.5	－	17.8
	高次脳機能障害	22	4.5	4.5	－	－	－	－	13.6
	知的障害	332	3.9	0.6	1.8	2.7	0.6	－	13.9
	発達障害	254	2.8	－	1.6	2.0	0.8	－	14.2
	精神障害	177	2.3	4.5	2.8	2.3	1.1	1.7	12.4

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

・次に、身体障害の内容別にみると、視覚障害では「拡大鏡」、聴覚・平衡機能障害では「筆談」、音声・言語・そしゃく機能障害では「ジェスチャー」、肢体不自由・内部障害では「パソコン・スマートフォンなど」が、それぞれ最も多くなっている。

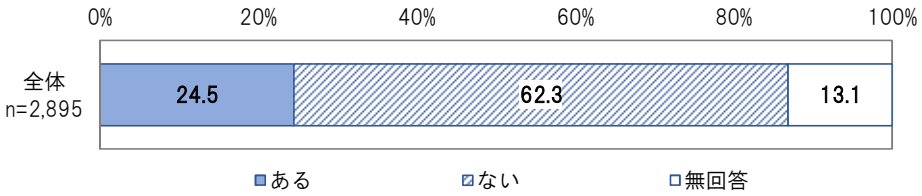
		回答者（人）	パソコン・スマートフォンなど	ジェスチャー	筆談	手話	ヘルパーによる支援	拡大鏡	絵や図
全体	視覚障害	33	33.3	9.1	3.0	－	21.2	**42.4**	3.0
	聴覚・平衡機能障害	81	23.5	30.9	**71.6**	54.3	4.9	7.4	13.6
	音声・言語・そしゃく機能障害	53	18.9	**45.3**	15.1	3.8	18.9	11.3	15.1
	肢体不自由	175	**38.3**	28.6	12.0	4.0	14.9	8.0	9.7
	内部障害	82	**51.2**	13.4	8.5	1.2	8.5	15.9	3.7

		回答者（人）	写真	サイン	要約筆記	代用音声	音訳	点字	その他
全体	視覚障害	33	－	6.1	－	－	18.2	12.1	9.1
	聴覚・平衡機能障害	81	7.4	6.2	12.3	1.2	1.2	－	17.3
	音声・言語・そしゃく機能障害	53	9.4	13.2	－	1.9	－	－	15.1
	肢体不自由	175	12.0	9.7	1.1	4.0	1.1	1.1	12.0
	内部障害	82	8.5	3.7	1.2	2.4	－	1.2	8.5

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

（５）コミュニケーションに支障を感じたことの有無

・コミュニケーションに支障を感じたことの有無については、「ない」が６割以上（62.3%）を占めている。一方で、「ある」が２割以上（24.5%）となっている。



・障害種別にみると、発達障害で「ある」（44.3%）が「ない」（43.5%）を上回る結果となっている。また、知的障害では「ある」が約４割（39.8%）と、発達障害に次いで多くなっている。

		回答者（人）	ある	ない	無回答
全体	身体障害	1,410	16.7	**71.2**	12.1
	難病	280	18.2	**70.7**	11.1
	高次脳機能障害	65	35.4	**50.8**	13.8
	知的障害	869	39.8	**44.3**	15.9
	発達障害	632	**44.3**	43.5	12.2
	精神障害	690	26.8	**60.1**	13.0

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」としている。

・次に、身体障害の内容別にみると、聴覚・平衡機能障害では「ある」が半数以上（56.8%）を占め、「ない」（34.7%）を上回る結果となっている。

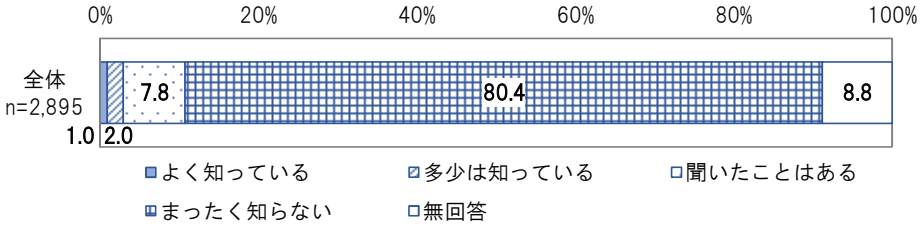
・また、音声・言語・そしゃく機能障害では「ある」が３割近く（27.6%）となっており、聴覚・平衡機能障害に次いで多くなっている。

		回答者（人）	ある	ない	無回答
全体	視覚障害	93	22.6	**67.7**	9.7
	聴覚・平衡機能障害	118	**56.8**	34.7	8.5
	音声・言語・そしゃく機能障害	123	27.6	**54.5**	17.9
	肢体不自由	683	16.8	**69.4**	13.8
	内部障害	425	6.8	**83.8**	9.4

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」としている。

（６）「尼崎市手話言語条例」の認知度

・尼崎市手話言語条例の認知度については、「まったく知らない」が約８割（80.4%）を占めて最も多くなっている。一方で、「よく知っている」（1.0%）と「多少は知っている」（2.0%）を合わせた『知っている』方の割合は、3.0%となっている。



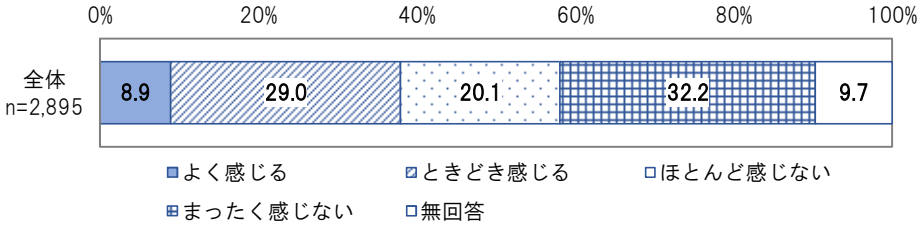
・障害種別にみると、いずれの障害においても「まったく知らない」が大半を占めており、大きな差異はみられない。

		回答者（人）	よく知っている	多少は知っている	聞いたことはある	まったく知らない	無回答
全体	身体障害	1,410	1.5	2.4	9.4	**78.4**	8.3
	難病	280	－	2.1	11.1	**82.5**	4.3
	高次脳機能障害	65	1.5	3.1	7.7	**76.9**	10.8
	知的障害	869	0.6	1.7	6.8	**80.0**	10.9
	発達障害	632	0.2	1.9	7.6	**83.9**	6.5
	精神障害	690	0.6	1.2	5.4	**84.6**	8.3

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」としている。

（７）日常生活において障害があるために差別や偏見を感じることの有無

・日常生活において障害があるために差別や偏見を感じることの有無については、「まったく感じない」が３割以上（32.2%）と最も多く、「ほとんど感じない」（20.1%）と合わせると、差別や偏見を『感じない』方が半数以上を占めている。一方で、「ときどき感じる」が約３割（29.0%）となっており、「よく感じる」（8.9%）と合わせると、差別や偏見を『感じる』方の割合は４割近くとなっている。

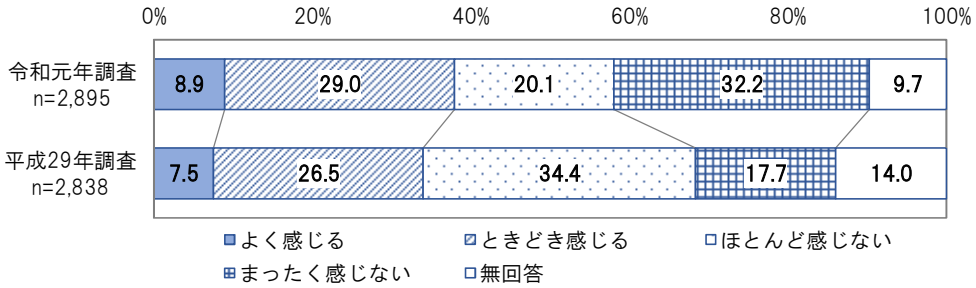


・障害種別にみると、身体障害・難病では「まったく感じない」が最も多くなっているのに対し、その他の障害では「ときどき感じる」が最も多くなっている。

		回答者（人）	よく感じる	ときどき感じる	ほとんど感じない	まったく感じない	無回答
全体	身体障害	1,410	6.5	26.1	20.6	**37.7**	9.1
	難病	280	6.8	29.3	23.9	**34.3**	5.7
	高次脳機能障害	65	10.8	**33.8**	15.4	30.8	9.2
	知的障害	869	10.7	**38.9**	17.6	22.9	9.9
	発達障害	632	13.1	**39.1**	18.0	23.1	6.6
	精神障害	690	12.3	**30.1**	20.0	27.5	10.0

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」としている。

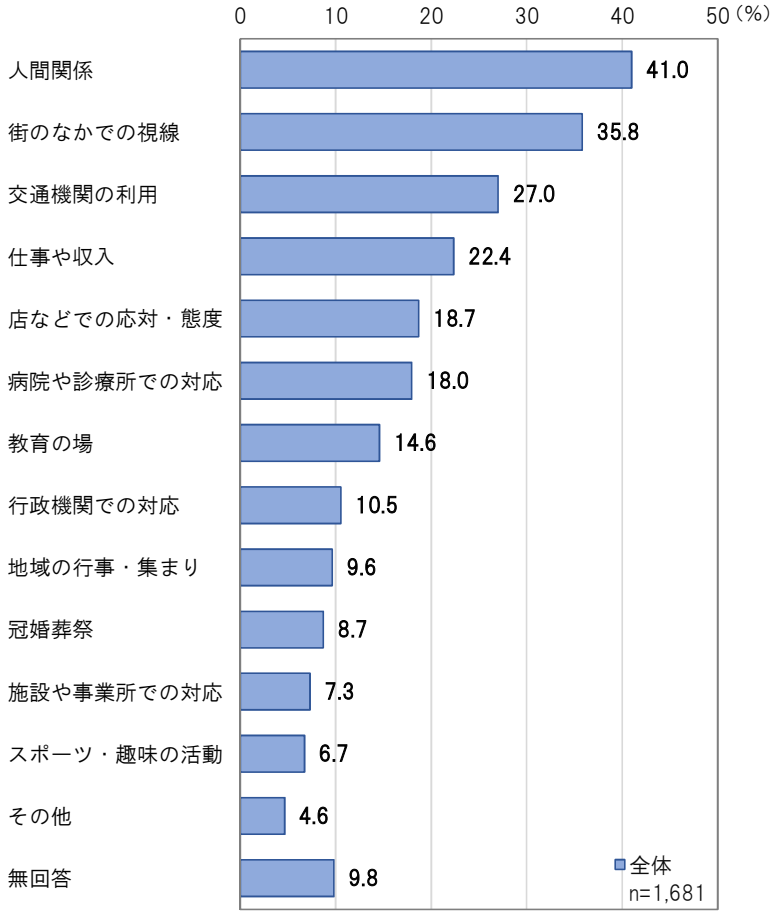
・平成 29 年調査と比較すると、「まったく感じない」が大幅に増加している一方で、「よく感じる」と「ときどき感じる」を合わせた『感じる』方の割合がやや増加している。



（８）日常生活において障害があるために差別や偏見を感じる場面（複数回答）

※（７）で「よく感じる」、「ときどき感じる」、「ほとんど感じない」のいずれかを回答した方のみ

・日常生活において障害があるために差別や偏見を感じることがある方の感じた場面については、「人間関係」が４割以上（41.0%）と最も多く、次いで「街のなかでの視線」（35.8%）、「交通機関の利用」（27.0%）、「仕事や収入」（22.4%）の順となっている。



・障害種別にみると、身体障害・知的障害では「街のなかでの視線」、難病・高次脳機能障害では「交通機関の利用」、発達障害・精神障害では「人間関係」が最も多くなっている。
・また、高次脳機能障害では「仕事や収入」や「店などでの応対・態度」、「病院や診療所での対応」、知的障害・発達障害では「教育の場」や「地域の行事・集まり」などで、それぞれその他の障害に比べてやや多くなっている。

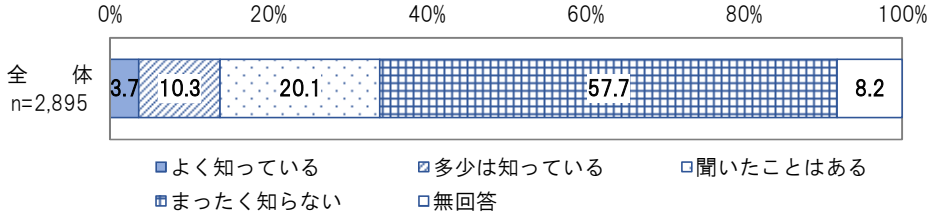
		回答者（人）	人間関係	街のなかでの視線	交通機関の利用	仕事や収入	店などでの応対・態度	病院や診療所での対応	教育の場
全体	身体障害	750	26.7	**35.6**	34.1	21.1	19.6	17.7	7.7
	難病	168	30.4	33.9	**36.3**	23.8	19.6	22.0	3.0
	高次脳機能障害	39	33.3	33.3	**43.6**	30.8	28.2	30.8	12.8
	知的障害	584	45.0	**48.8**	27.6	18.2	21.9	16.6	24.5
	発達障害	444	**54.1**	45.7	25.0	19.4	21.6	16.9	31.3
	精神障害	431	**56.4**	26.0	19.7	29.7	16.5	22.5	7.4

		回答者（人）	行政機関での対応	地域の行事・集まり	冠婚葬祭	施設や事業所での対応	スポーツ・趣味の活動	その他	無回答
全体	身体障害	750	10.8	8.8	8.5	6.4	8.3	4.1	13.3
	難病	168	11.3	6.5	11.3	10.7	7.1	5.4	11.9
	高次脳機能障害	39	12.8	2.6	7.7	10.3	7.7	12.8	10.3
	知的障害	584	8.0	12.3	10.1	6.7	6.3	3.1	6.3
	発達障害	444	10.6	12.6	11.7	6.1	6.8	3.6	4.1
	精神障害	431	14.8	8.6	7.7	10.7	4.4	7.7	9.5

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

（９）「障害者差別解消法」の認知度

・障害者差別解消法の認知度については、「まったく知らない」が６割近く（57.7%）を占めて最も多くなっている。一方で、「よく知っている」（3.7%）と「多少は知っている」（10.3%）を合わせた『知っている』方の割合は、１割程度となっている。

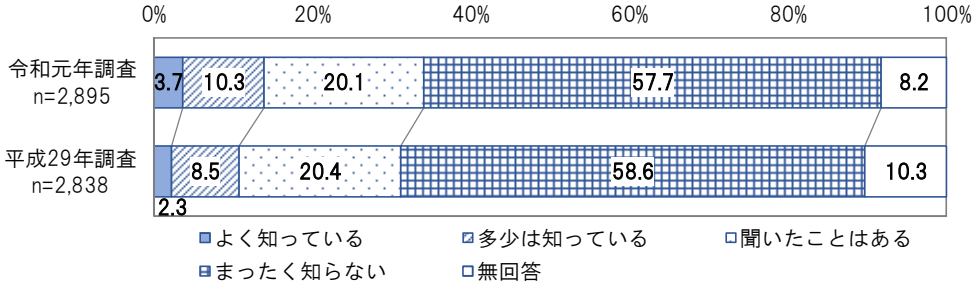


・障害種別にみると、いずれの障害においても「まったく知らない」が最も多く、特に精神障害で６割以上（63.9%）となっている。

		回答者（人）	よく知っている	多少は知っている	聞いたことはある	まったく知らない	無回答
全体	身体障害	1,410	3.9	10.5	20.1	**57.8**	7.7
	難病	280	5.0	11.1	22.9	**55.7**	5.4
	高次脳機能障害	65	1.5	4.6	24.6	**56.9**	12.3
	知的障害	869	4.4	11.9	21.4	**52.4**	10.0
	発達障害	632	4.7	13.3	23.4	**51.1**	7.4
	精神障害	690	3.2	7.5	18.3	**63.9**	7.1

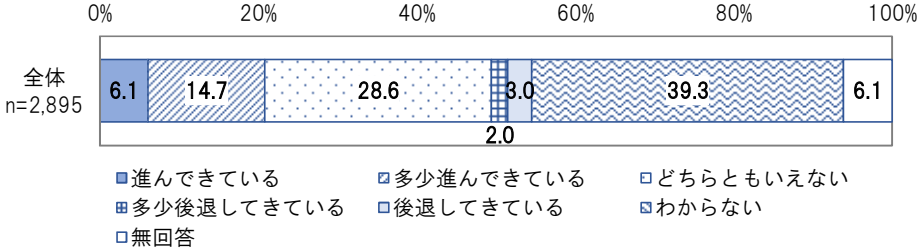
※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

・平成 29 年調査と比較すると、「よく知っている」と「多少は知っている」を合わせた『知っている』方の割合がやや増加している。



（10）障害に対する行政職員の理解の浸透

・障害に対する行政職員の理解の浸透については、「どちらともいえない」や「わからない」が多くなっているものの、「進んできている」（6.1％）と「多少進んできている」（14.7％）を合わせた『進んできている』と思う方の割合は約２割となっており、「多少後退してきている」（2.0％）と「後退してきている」（3.0％）を合わせた『後退してきている』を大幅に上回っている。

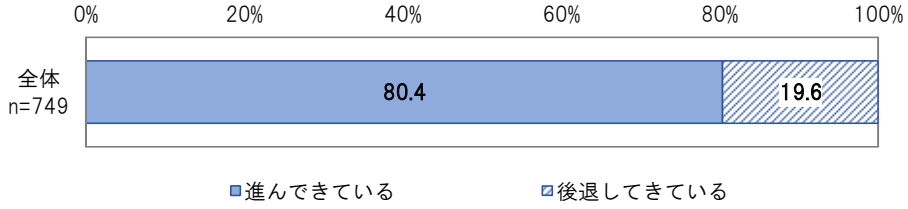


・障害種別にみると、『進んできている』の割合は、難病の 25.4％が最も高く、身体障害・高次脳機能障害・発達障害・精神障害においても２割以上となっている。

		回答者（人）	進んできている	多少進んできている	どちらともいえない	多少後退してきている	後退してきている	わからない	無回答
全体	身体障害	1,410	6.5	15.4	28.9	1.8	2.6	**39.1**	5.5
	難病	280	10.0	15.4	30.7	2.5	3.2	**36.1**	2.1
	高次脳機能障害	65	6.2	16.9	18.5	－	7.7	**41.5**	9.2
	知的障害	869	4.3	13.7	30.6	1.6	2.9	**39.2**	7.7
	発達障害	632	3.8	16.3	32.3	1.4	4.3	**36.9**	5.1
	精神障害	690	8.1	15.8	23.9	3.3	4.3	**38.4**	6.1

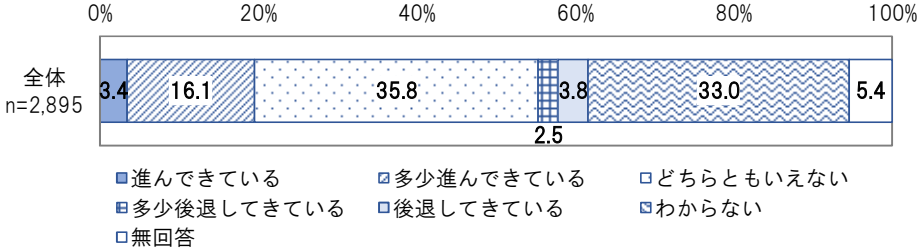
※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

・無回答や「どちらともいえない」、「わからない」の回答の方を除いて、行政職員の理解の浸透状況に対する評価をみると、『進んできている』（「進んできている」＋「多少進んできている」）が約８割（80.4％）を占めている。



（11）障害に対する市民の理解の浸透

・障害に対する市民の理解の浸透については、「どちらともいえない」や「わからない」が多くなっているものの、「進んできている」（3.4%）と「多少進んできている」（16.1%）を合わせた『進んできている』と思う方の割合は約２割となっており、「多少後退してきている」（2.5%）と「後退してきている」（3.8%）を合わせた『後退してきている』を大幅に上回っている。

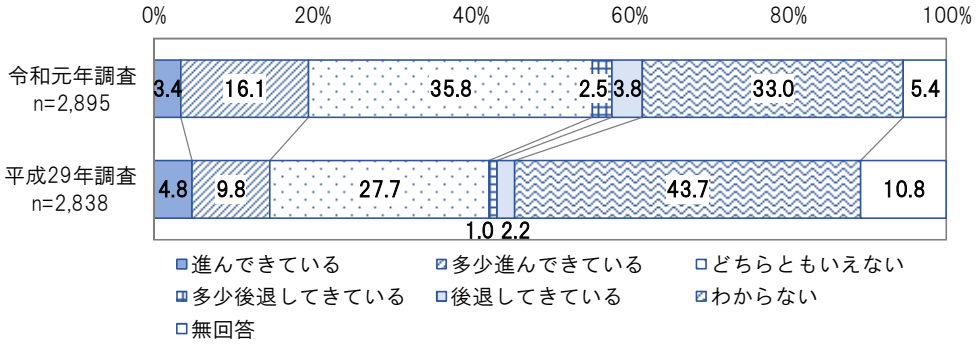


・障害種別にみると、『進んできている』の割合は身体障害・難病で２割を超えて多くなっている。一方で、高次脳機能障害・発達障害・精神障害では『後退してきている』が１割程度となっており、その他の障害に比べてやや多くなっている。

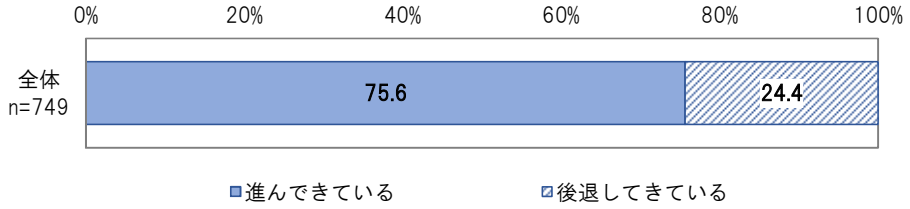
		回答者（人）	進んできている	多少進んできている	どちらともいえない	多少後退してきている	後退してきている	わからない	無回答
全体	身体障害	1,410	4.5	17.8	**37.0**	2.4	2.6	30.9	4.8
	難病	280	5.4	17.5	**39.3**	3.2	3.9	27.9	2.9
	高次脳機能障害	65	6.2	13.8	**33.8**	6.2	3.1	30.8	6.2
	知的障害	869	2.8	14.8	**35.1**	2.4	3.6	34.8	6.6
	発達障害	632	1.3	16.9	**37.2**	2.5	5.7	32.0	4.4
	精神障害	690	2.6	12.6	33.5	2.6	6.4	**36.4**	5.9

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

・平成 29 年調査と比較すると、「進んできている」と「多少進んできている」を合わせた『進んできている』と思う方の割合が、平成 29 年調査の２割未満（14.6%）から 4.9 ポイント増加している。



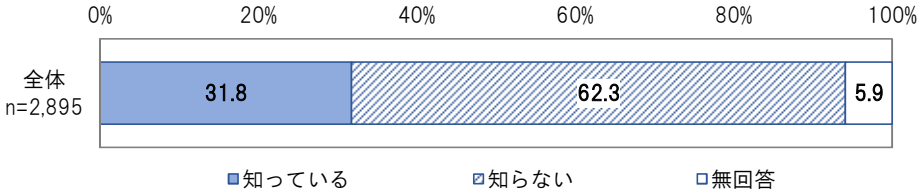
・無回答や「どちらともいえない」、「わからない」の回答の方を除いて、市民の理解の浸透状況に対する評価をみると、『進んできている』（「進んできている」＋「多少進んできている」）が７割以上（75.6%）を占めている。



10．権利擁護、行政サービス等における配慮について

（１）虐待を受けた時・発見した時の通報先の認知度

・虐待を受けた時・発見した時の通報先の認知度については、「知らない」が６割以上（62.3%）を占めており、「知っている」は３割程度（31.8%）となっている。



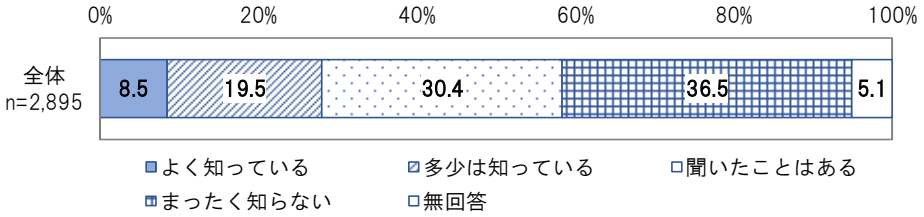
・障害種別にみると、いずれの障害においても「知らない」が最も多く、特に高次脳機能障害・精神障害では「知っている」が３割未満となっている。

		回答者（人）	知っている	知らない	無回答
全体	身体障害	1,410	31.7	**63.2**	5.1
	難病	280	31.4	**65.4**	3.2
	高次脳機能障害	65	24.6	**67.7**	7.7
	知的障害	869	33.3	**58.8**	7.9
	発達障害	632	41.3	**54.3**	4.4
	精神障害	690	28.4	**66.5**	5.1

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」としている。

（２）「成年後見制度」の認知度

・成年後見制度の認知度については、「まったく知らない」が 36.5%と最も多くなっている。一方で、「よく知っている」（8.5%）と「多少は知っている」（19.5%）を合わせた『知っている』方の割合は、３割近くとなっている。



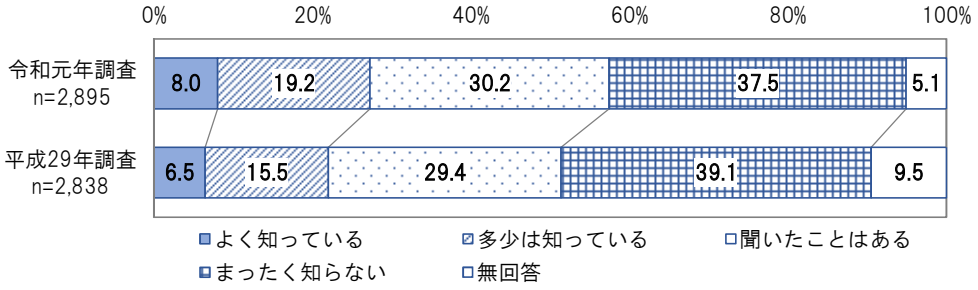
・障害種別にみると、身体障害・難病・高次脳機能障害では「聞いたことはある」が最も多くなっている。

・また、「よく知っている」と「多少は知っている」を合わせた『知っている』方の割合をみると、身体障害・高次脳機能障害で３割を超えており、その他の障害に比べてやや多くなっている。

		回答者（人）	よく知っている	多少は知っている	聞いたことはある	まったく知らない	無回答
18 歳以上	身体障害	1,410	9.4	22.1	**33.2**	31.1	4.3
	難病	280	8.2	20.0	**42.1**	27.1	2.5
	高次脳機能障害	65	15.4	16.9	**29.2**	**29.2**	9.2
	知的障害	869	8.5	18.4	24.4	**41.9**	6.8
	発達障害	632	7.4	17.2	29.4	**41.9**	4.0
	精神障害	690	8.8	17.1	30.6	**38.8**	4.6

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

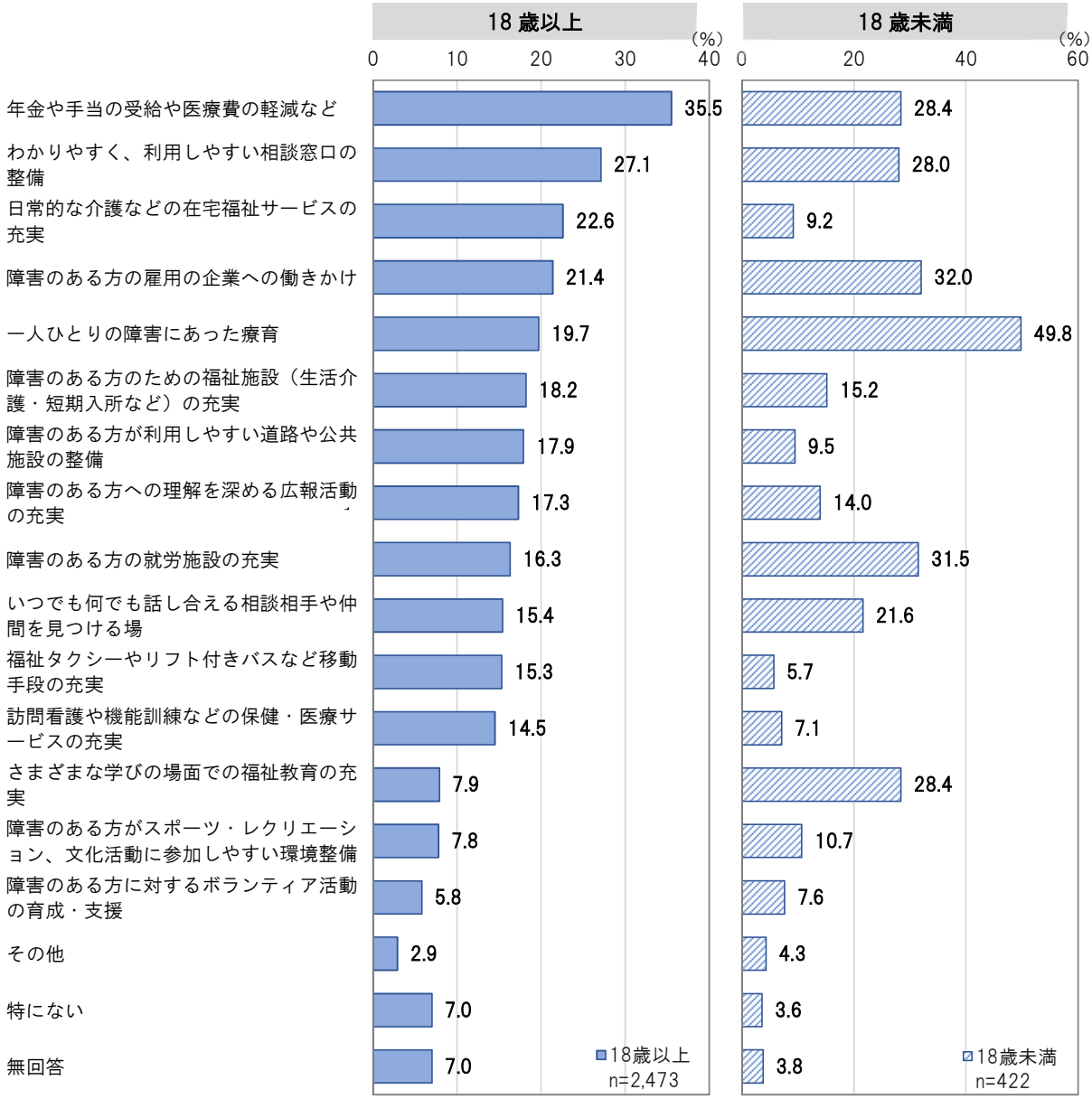
・平成 29 年調査と比較すると、「よく知っている」と「多少は知っている」を合わせた『知っている』方の割合が 5.2 ポイントの増加となっている。



11．福祉施策について

（1）今後も尼崎市で暮らしていくために充実を望むこと（複数回答：3つまで）

- 今後も尼崎市で暮らしていくために充実を望むことについては、18 歳以上では「年金や手当の受給や医療費の軽減など」が3割以上（35.5%）と最も多く、次いで「わかりやすく、利用しやすい相談窓口の整備」（27.1%）、「日常的な介護などの在宅福祉サービスの充実」（22.6%）、「障害のある方の雇用の企業への働きかけ」（21.4%）の順となっている。
- 18 歳未満では、「一人ひとりの障害にあった療育」が約半数（49.8%）を占めて最も多く、次いで「障害のある方の雇用の企業への働きかけ」（32.0%）、「障害のある方の就労施設の充実」（31.5%）、「年金や手当の受給や医療費の軽減など」と「さまざまな学びの場面での福祉教育の充実」（28.4%）の順となっている。



・障害種別にみると、18 歳未満の身体障害では「日常的な介護などの在宅福祉サービスの充実」、知的障害・発達障害では「障害のある方の雇用の企業への働きかけ」や「障害のある方の就労施設の充実」が、その他の障害に比べてやや多くなっている。

		回答者（人）	年金や手当の受給や医療費の軽減など	わかりやすく、利用しやすい相談窓口の整備	日常的な介護などの在宅福祉サービスの充実	障害のある方の雇用の企業への働きかけ	一人ひとりの障害にあった療育	障害のある方のための福祉施設（生活介護・短期入所など）の充実	障害のある方が利用しやすい道路や公共施設の整備	障害のある方への理解を深める広報活動の充実	障害のある方の就労施設の充実
18 歳以上	身体障害	1,342	**36.7**	26.3	27.0	19.3	15.6	17.3	25.8	16.9	14.1
	難病	280	**40.4**	31.1	28.9	21.4	15.4	19.3	28.2	17.9	14.6
	高次脳機能障害	65	33.8	18.5	**41.5**	26.2	20.0	16.9	20.0	18.5	16.9
	知的障害	587	26.1	23.2	20.1	19.9	29.0	**31.2**	10.1	15.3	18.6
	発達障害	338	**39.1**	29.3	16.0	28.7	36.1	25.7	8.0	21.3	24.0
	精神障害	690	**38.3**	31.9	18.0	24.9	20.3	14.9	9.3	17.8	17.8
18 歳未満	身体障害	68	33.8	19.1	30.9	23.5	**36.8**	33.8	16.2	13.2	14.7
	知的障害	282	31.6	24.5	12.4	34.4	**47.5**	20.9	8.5	12.4	36.9
	発達障害	294	29.6	29.9	7.8	37.1	**51.7**	13.3	9.2	14.6	34.4

		回答者（人）	いつでも何でも話し合える相談相手や仲間を見つける場	福祉タクシーやリフト付きバスなど移動手段の充実	訪問看護や機能訓練などの保健・医療サービスの充実	さまざまな学びの場面での福祉教育の充実	障害のある方がスポーツ・レクリエーション、文化活動に参加しやすい環境整備	障害のある方に対するボランティア活動の育成・支援	その他	特にない	無回答
18 歳以上	身体障害	1,342	10.7	20.0	17.7	7.9	8.3	5.3	2.8	6.2	6.3
	難病	280	12.9	21.8	19.6	5.0	8.6	5.4	4.3	4.6	3.2
	高次脳機能障害	65	12.3	23.1	20.0	4.6	4.6	3.1	6.2	1.5	7.7
	知的障害	587	18.9	8.0	9.9	7.2	9.0	8.3	3.9	6.6	9.2
	発達障害	338	24.6	6.2	6.2	8.9	8.0	8.3	2.7	4.7	5.9
	精神障害	690	23.3	11.7	15.4	9.1	5.9	3.8	3.3	6.7	7.0
18 歳未満	身体障害	68	13.2	19.1	23.5	22.1	10.3	13.2	4.4	4.4	1.5
	知的障害	282	22.3	6.0	9.2	23.4	12.1	8.9	5.0	3.5	3.9
	発達障害	294	23.1	3.4	7.5	29.6	11.2	7.8	4.8	3.4	3.7

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

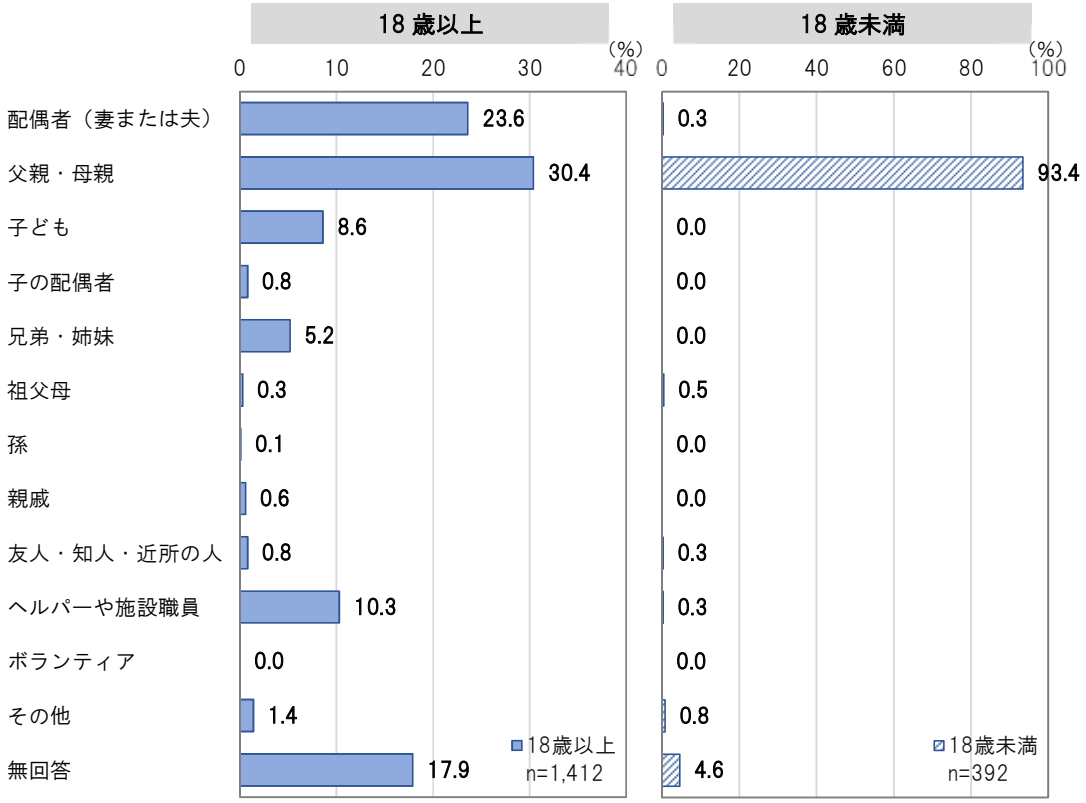
12. 介助者への質問

※（１）～（６）のすべての質問に回答のない方を除いて集計

（１）介助者の続柄

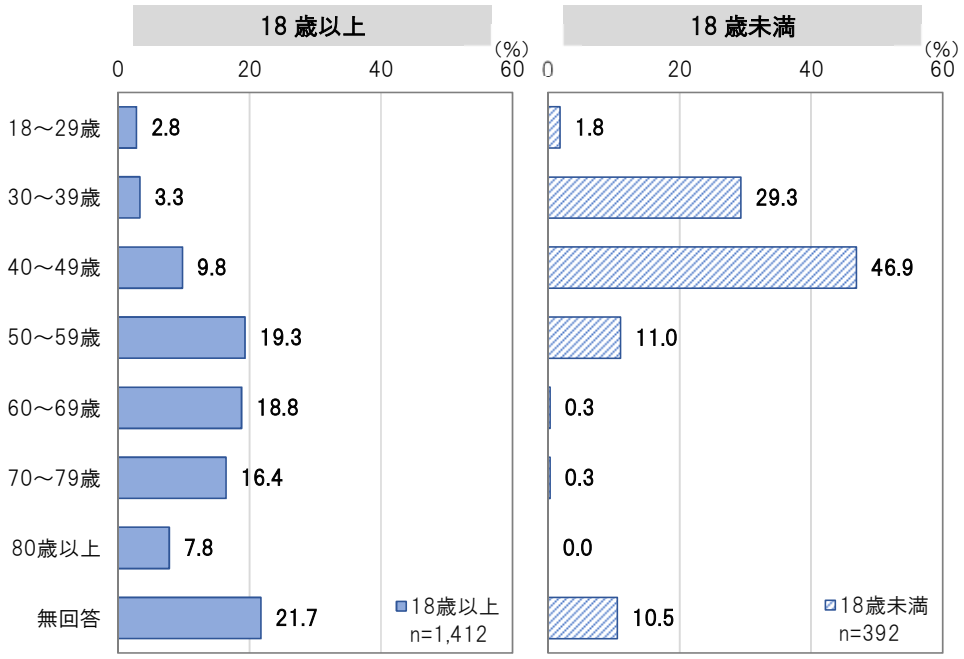
・介助者の続柄をみると、18 歳以上・18 歳未満ともに「父親・母親」が最も多く、特に 18 歳未満では９割以上（93.4%）となっている。

・18 歳以上では、次いで「配偶者（妻または夫）」（23.6%）、「ヘルパーや施設職員」（10.3%）、「子ども」（8.6%）、「兄弟・姉妹」（5.2%）の順となっている。



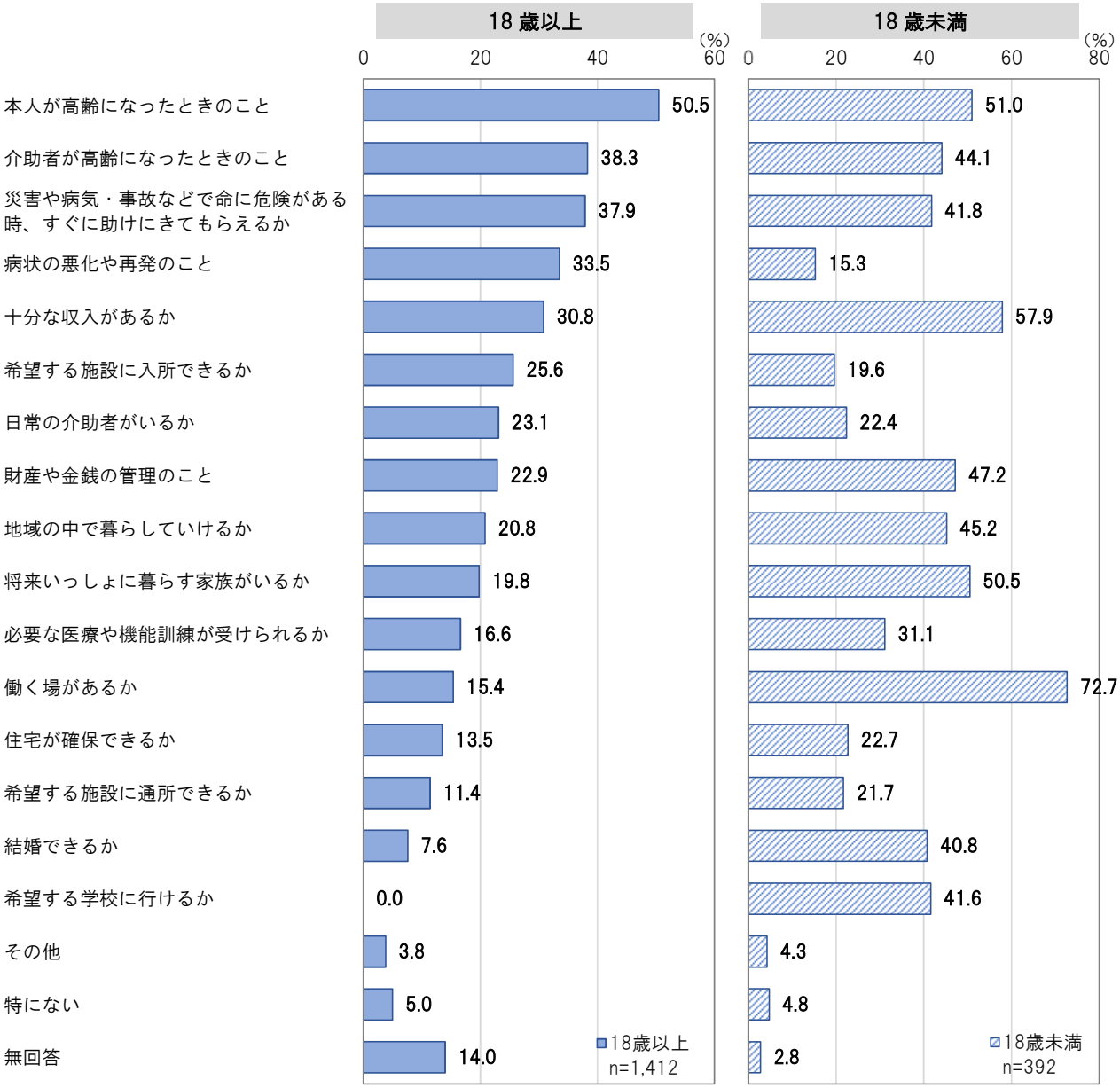
（２）介助者の年齢

・介助者の年齢をみると、18 歳以上では『60 歳以上』が４割以上（43.0%）となっているのに対し、18 歳未満では『30～49 歳』が７割以上（76.2%）を占めている。



（3）本人が生活していく上で今後不安に感じていること（複数回答）

- 本人が生活していく上で今後不安に感じていることについては、18 歳以上では「本人が高齢になったときのこと」が約半数（50.5%）を占めて最も多く、次いで「介助者が高齢になったときのこと」（38.3%）、「災害や病気・事故などで命に危険がある時、すぐに助けにきてもらえるか」（37.9%）の順となっている。
- 18 歳未満では、「働く場があるか」が７割以上（72.7%）を占めて最も多く、次いで「十分な収入があるか」（57.9%）、「本人が高齢になったときのこと」（51.0%）、「将来いっしょに暮らす家族がいるか」（50.5%）の順となっている。
- ほぼすべての項目で、18 歳未満の回答が多く、子どもの将来に不安を感じているなど保護者等の関心が高いことが伺える。



・障害種別にみると、18 歳以上の難病では「病状の悪化や再発のこと」、18 歳未満の知的障害・発達障害では「働く場があるか」や「十分な収入があるか」、「財産や金銭の管理のこと」などで、その他の障害に比べてやや多くなっている。

		回答者（人）	本人が高齢になったときのこと	介助者が高齢になったときのこと	災害や病気・事故などで命に危険がある時、すぐに助けにきてもらえるか	病状の悪化や再発のこと	十分な収入があるか	希望する施設に入所できるか	日常の介助者がいるか	財産や金銭の管理のこと	地域の中で暮らしていけるか	将来いっしょに暮らす家族がいるか
18 歳以上	身体障害	725	**44.3**	38.3	39.4	38.2	27.0	25.5	22.9	14.1	13.1	16.1
	難病	154	50.6	53.2	47.4	**54.5**	31.8	27.3	32.5	17.5	13.6	21.4
	高次脳機能障害	51	47.1	**52.9**	**52.9**	47.1	31.4	29.4	27.5	23.5	15.7	25.5
	知的障害	458	**66.2**	46.7	43.4	21.0	34.5	34.1	31.9	36.7	33.4	26.4
	発達障害	225	**70.2**	47.6	48.9	20.0	45.3	31.6	31.1	43.1	38.7	33.3
	精神障害	351	**49.0**	36.8	34.8	48.1	33.0	23.4	21.4	25.1	25.1	23.1
18 歳未満	身体障害	65	60.0	55.4	**64.6**	43.1	55.4	33.8	38.5	43.1	46.2	56.9
	知的障害	270	59.3	53.0	47.0	15.6	61.9	23.0	27.4	55.9	49.6	54.8
	発達障害	276	53.3	44.9	39.9	12.0	62.7	19.2	21.7	50.7	47.8	53.6

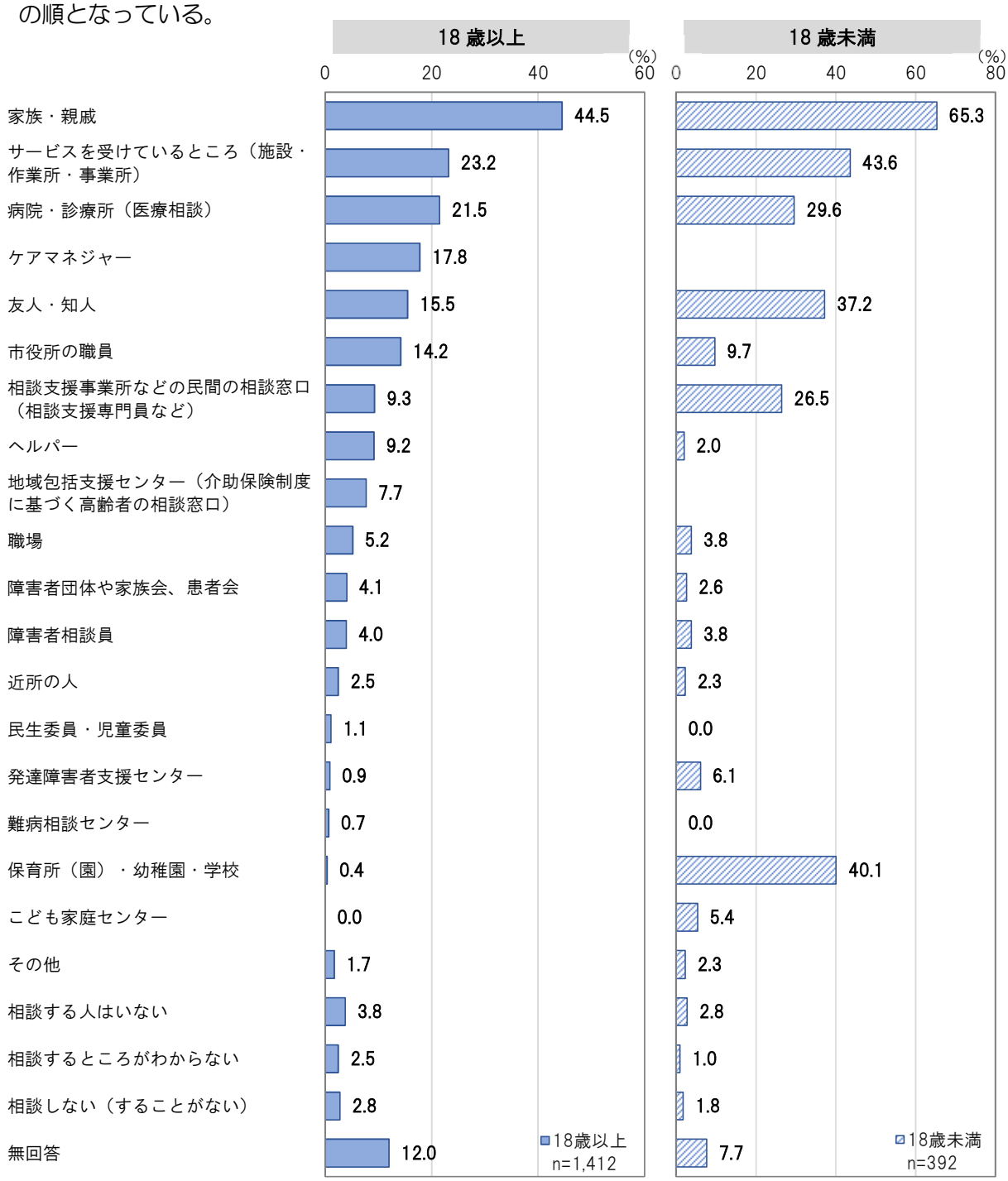
		回答者（人）	必要な医療や機能訓練が受けられるか	働く場があるか	住宅が確保できるか	希望する施設に通所できるか	結婚できるか	希望する学校に行けるか	その他	特にない	無回答	将来いっしょに暮らす家族がいるか
18 歳以上	身体障害	725	17.2	8.6	10.8	10.8	4.0	－	2.8	4.7	15.7	17.2
	難病	154	22.7	11.7	13.6	9.1	4.5	－	5.8	2.6	8.4	22.7
	高次脳機能障害	51	29.4	15.7	13.7	7.8	5.9	－	3.9	3.9	7.8	29.4
	知的障害	458	19.2	20.3	18.1	15.3	11.8	－	4.6	4.8	5.9	19.2
	発達障害	225	21.3	31.6	22.2	18.2	18.7	－	6.2	4.0	3.6	21.3
	精神障害	351	18.5	19.7	18.2	11.1	9.1	－	3.7	4.0	15.1	18.5
18 歳未満	身体障害	65	44.6	63.1	30.8	33.8	41.5	40.0	3.1	－	1.5	44.6
	知的障害	270	34.8	**77.4**	27.4	26.3	40.7	36.7	3.7	3.7	1.9	34.8
	発達障害	276	30.8	**77.2**	25.7	21.4	44.9	42.0	5.4	4.0	2.5	30.8

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

（4）介助をする上での困りごとや悩みを相談する人や場所（複数回答）

・介助をする上での困りごとや悩みを相談する人や場所については、18 歳以上・18 歳未満ともに「家族・親戚」が最も多く、次に「サービスを受けているところ（施設・作業所・事業所）」となっている。

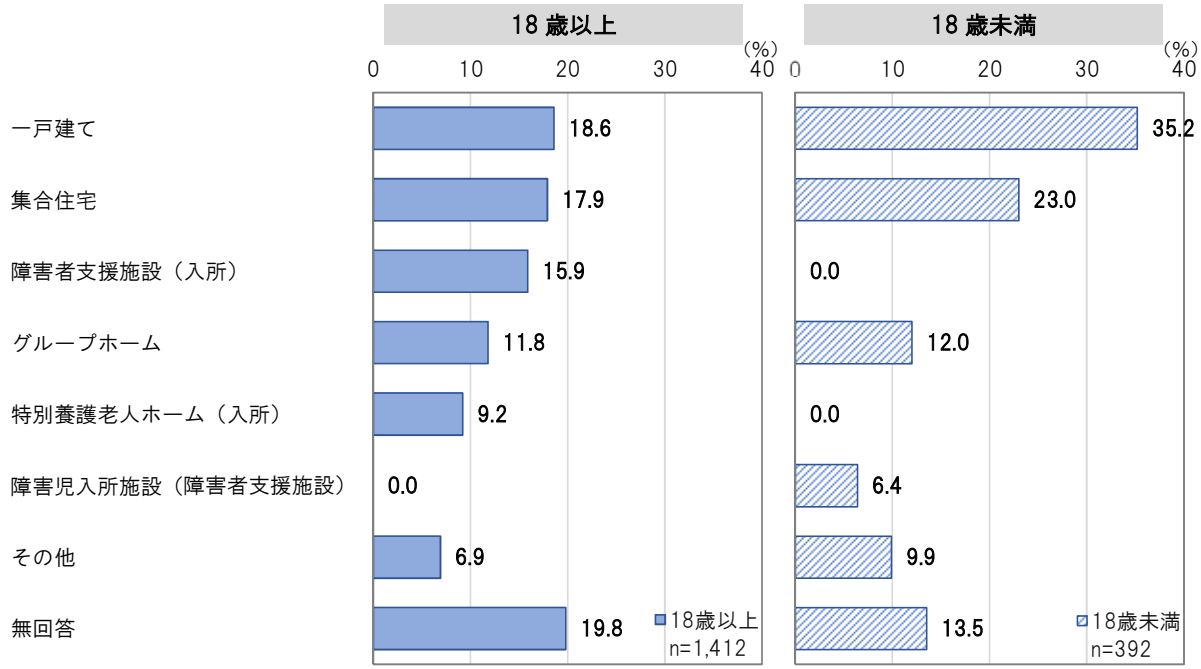
・18 歳以上では、次いで「病院・診療所（医療相談）」（21.5%）、「ケアマネジャー」（17.8%）の順となっており、18 歳未満では「保育所（園）・幼稚園・学校」（40.1%）、「友人・知人」（37.2%）の順となっている。



（５）本人にとって適している住まい

・本人にとって適している住まいについては、18 歳以上・18 歳未満ともに「一戸建て」が最も多く、次いで「集合住宅」となっている。

・また、「グループホーム」や入所施設の利用を望む介助者は、18 歳以上では３割以上（36.9%）、18 歳未満では２割程度（18.4%）となっている。



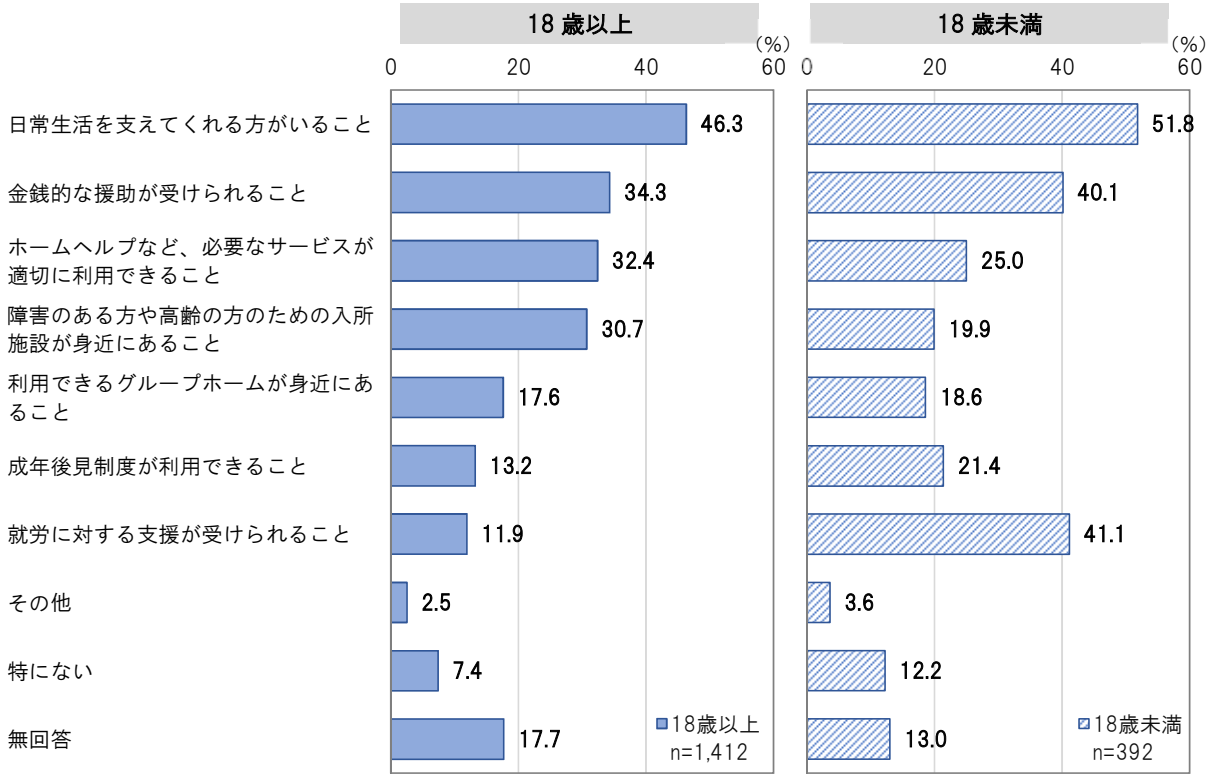
・障害種別にみると、18 歳以上の知的障害・発達障害では「障害者支援施設（入所）」が最も多く、次いで「グループホーム」となっており、施設での生活を望む介助者が多くなっている。

		回答者（人）	一戸建て	集合住宅	障害者支援施設（入所）	グループホーム	特別養護老人ホーム（入所）	障害児入所施設（障害者支援施設）	その他	無回答
18 歳以上	身体障害	725	**21.5**	18.2	13.0	7.2	11.3	－	6.8	22.1
	難病	154	**22.1**	18.2	19.5	3.2	8.4	－	9.1	19.5
	高次脳機能障害	51	17.6	**25.5**	11.8	3.9	21.6	－	5.9	13.7
	知的障害	458	11.4	11.4	**28.2**	25.1	2.8	－	3.9	17.2
	発達障害	225	13.3	16.4	**24.4**	24.0	2.7	－	5.3	13.8
	精神障害	351	18.8	**25.4**	11.4	7.1	12.0	－	8.5	16.8
18 歳未満	身体障害	65	**35.4**	21.5	－	7.7	－	10.8	10.8	13.8
	知的障害	270	**31.9**	21.1	－	14.1	－	7.8	11.1	14.1
	発達障害	276	**34.4**	22.5	－	13.0	－	6.5	9.8	13.8

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

（6）本人にとって適している住まいで暮らすために必要なこと（複数回答）

- 本人にとって適している住まいで暮らすために必要なことについては、18 歳以上・18 歳未満ともに「日常生活を支えてくれる方がいること」が最も多く、18 歳以上では 46.3%、18 歳未満では半数以上（51.8%）を占めている。
- 18 歳以上では、次いで「金銭的な援助が受けられること」（34.3%）、「ホームヘルプなど、必要なサービスが適切に利用できること」（32.4%）、「障害のある方や高齢の方のための入所施設が身近にあること」（30.7%）の順となっている。
- 18 歳未満では、次いで「就労に対する支援が受けられること」（41.1%）、「金銭的な援助が受けられること」（40.1%）、「ホームヘルプなど、必要なサービスが適切に利用できること」（25.0%）の順となっている。



・障害種別にみると、施設での生活を望む介助者が多い 18 歳以上の知的障害・発達障害では「利用できるグループホームが身近にあること」や「成年後見制度が利用できること」が、その他の障害に比べてやや多くなっている。

		回答者（人）	日常生活を支えてくれる方がいること	金銭的な援助が受けられること	ホームヘルプなど、必要なサービスが適切に利用できること	障害のある方や高齢の方のための入所施設が身近にあること	利用できるグループホームが身近にあること
18 歳以上	身体障害	725	**41.2**	31.4	35.0	30.1	13.8
	難病	154	**50.6**	33.8	40.9	30.5	10.4
	高次脳機能障害	51	**56.9**	35.3	45.1	39.2	15.7
	知的障害	458	**59.0**	36.7	34.7	35.4	27.5
	発達障害	225	**59.6**	42.7	36.4	32.9	30.7
	精神障害	351	**46.7**	40.2	29.1	31.1	13.1
18 歳未満	身体障害	65	**69.2**	44.6	43.1	26.2	27.7
	知的障害	270	**56.7**	46.7	30.7	24.1	21.9
	発達障害	276	**52.2**	39.9	24.3	21.4	18.8

		回答者（人）	成年後見制度が利用できること	就労に対する支援が受けられること	その他	特にない	無回答
18 歳以上	身体障害	725	8.1	6.5	2.5	8.6	20.4
	難病	154	9.1	7.8	4.5	3.9	18.8
	高次脳機能障害	51	11.8	13.7	－	5.9	5.9
	知的障害	458	22.7	16.4	2.2	4.6	15.1
	発達障害	225	24.4	24.9	1.3	4.0	11.6
	精神障害	351	12.3	14.5	2.0	6.8	14.5
18 歳未満	身体障害	65	13.8	27.7	6.2	3.1	13.8
	知的障害	270	25.9	44.1	3.3	8.5	11.9
	発達障害	276	22.5	44.6	4.0	10.5	13.4

※１番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、２番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

13. 自由回答

（1）障害者施策を進めていく上で必要と考えること

・障害者施策を進めていく上で必要と考えることでは、「障害や障害のある人への理解、差別の解消」についてが59件、次いで「年金、各種手当、生活保護」（56件）、「情報提供の充実」（48件）と多くなっている。

項目		件数
保健・医療	医療費助成	19
	医療サービス（医療機関等）	17
	リハビリテーション体制	8
	難病患者への支援	1
	デイケア	1
	その他・意見・要望など	2
福祉サービス・相談支援	年金、各種手当、生活保護	56
	親、介助者なき後の支援	32
	相談支援	25
	移動支援	22
	人材の育成・確保	20
	介護の現状など	18
	入所施設	17
	グループホーム	13
	サービスの利用手続き	13
	経済的自立の支援、移動時の補助	10
	日中活動系サービス	8
	訪問系サービス	7
	身近な地域における支援	3
	介護保険サービス	3
	介助者への支援	2
	福祉施設の整備・充実	1
	短期入所	1
	その他・意見・要望など	3
教育・療育	教育環境	28
	教育の内容、質の向上	24
	療育	14
	保育所、幼稚園	7
	放課後等の支援	5
	卒業後の進路	2
	その他・意見・要望など	4

項目		件数
雇用・就労	障害者雇用の促進	29
	就労の支援	20
	その他・意見・要望など	5
生活環境・移動・交通	道路、歩道等のバリアフリー化	21
	公共交通機関	19
	公共機関のバリアフリー化	18
	障害者に配慮したまちづくり	14
	住宅の確保	13
	障害者専用駐車場	7
	その他・意見・要望など	5
スポーツ・文化、社会参加活動	スポーツ	40
	社会参加	25
	文化芸術活動	8
	障害のある人同士の交流の場	4
	その他・意見・要望など	4
安全・安心	防災対策（避難支援、安否確認など）	27
	防災対策（避難所、福祉避難所など）	14
	その他・意見・要望など	4
情報・啓発、差別の解消	障害や障害のある人への理解、差別の解消	59
	情報提供の充実	48
	精神障害に対する理解	10
	コミュニケーション支援	8
	発達障害に対する理解	4
	その他・意見・要望など	4
権利擁護等	行政機関等における配慮及び障害者理解の促進	27
その他	行政への要望など	44
	アンケートについて	17
	その他・意見・要望など	44

■ **主な意見**

（寄せられたご意見の趣旨等が変わらないよう、基本的にアンケートに記入された内容のまま掲載しています。）

≪保健・医療に関すること≫

- 身体障害がある場合、様々な病歴があり複数の医療機関を毎月受診しなければならないケースも多いと思う。一つの医療機関で総合的にみてもらうことはできないでしょうか。
- 往診の先生がいないのでいてほしい。通院もしんどいし、てんかん発作が起こると自転車も危ない。
- インターネットなどでオンライン診療の充実化。
- 医療費の軽減、充実をしてほしい。医療費で生活の負担が大きい。生活がとても大変。
- 近くにバリアフリーの病院がない。歯科や眼科、内科など障害の状態にあった適切な治療が受けられる病院がない。

≪福祉サービス、相談支援に関すること≫

- 親が高齢になり、後見人がいなくなるとどうなるのかが不安。もっと気軽に相談できる場所があれば良いと思う。
- 障害がある方の意見をよく聞く機関があると良いと思う。
- 一人暮らしをするにあたって、洗濯や料理等ができるようになる生活訓練を実施できるサービスを増やしてほしい。
- 尼崎市に聴覚障害児のデイサービスがあれば良いと思う。
- 知的障害（重度）の人が家族から自立して暮らしていけるケアホーム、グループホームが増えていけば良いと思う。
- 看護師やヘルパー不足といった理由で断られることが多い。人材確保、育成をお願いしたい。家族等の介助者の休養について対策を増やしてほしい。
- 同行のヘルパーさん達が定年になって激減している。市でヘルパーの養成教育を早急にしてほしい。将来的に不安を感じる。
- 福祉タクシーなど移動手段を利用しやすくなるよう補助金が出るようにしてほしい。
- 生活するだけで精一杯なのに情報を集めて精査してサービス利用を申請する力は残っていない。また、申し込みの書類も難しく煩雑であるので簡略化を希望する。

≪療養・教育に関すること≫

- 通っている学校では普通学級にいても支援してもらえる体制が整っているが、先生も忙しいのでもう少し手伝ってくれる他の先生を増やしてもらえると嬉しい。
- 教育と障害の連携は差別をなくすために必要と考える。異なった環境や立場の者が互いに助け合い、譲り合う教育がもっと普通にあると良い。学校職員も少ないが、障害のある職員がいても良いと思う。
- 学校での理解、主に教職員に対する意識改革をしてほしい。
- 意思疎通ができる程度の教育を平等に受けさせてほしい。

・療育園を出て幼稚園に行くことを考えたが、受け皿が少なすぎると感じた。公立幼稚園は特設クラスがあるとはいえ、あくまでも軽度の子どものためのようで、先生の人数も少なく入園させるにはとても厳しいと思う。
・本人の場所見知りが激しく放課後等デイサービスで預かってもらえるのか不安。例えば、就学前１年間を、場慣れとして放課後等デイサービスに週１日（数時間）でも通えると、その場に慣れて４月からの過ごし方がスムーズになるのではないかと思う。

≪雇用・就労に関すること≫
・一般企業での障害者枠の求人がもっと増えれば良いと思う。
・仕事の相談に行ったことがあるが、希望する仕事内容の働き先がなかった。障害を隠して普通に働くわけにいかないので、もっと仕事の種類を増やしてほしい。意外とできないようでできることも多いのにと思う。
・障害のある方でも持っている資格等を生かせるようになると良いと思う。
・障害者枠で入ったのに、健常者と同じ内容の仕事をしていて行き詰まりを感じることがしばしばある。
・職業訓練のできる施設を多く作ってほしい。
・資格などが必要であれば資格の勉強ができるような場があれば良いと思う。仕事につながるような何かがあればと思う。

≪生活環境、移動・交通に関すること≫
・駅周辺の道路、設備、自転車の整理、歩きやすい歩道にしてほしい。
・自転車が歩道を使用するため危険と感じることがあるので、歩行者と自転車の道が分かれてくれるとありがたい。障害者用の交通 IC カードがあれば乗りやすいと感じる。
・盲導犬や介助犬が理解され同伴でも入れる施設を増やしてほしい。
・多目的トイレが公共施設に少ないので、市役所などに行きづらい。
・障害者が一人で外出できる環境をもっともっと整えてほしい。
・障害者１人暮らしでも市営住宅にでも入居できるようにしてほしい。

≪スポーツ・文化、社会参加活動に関すること≫
・障害者スポーツ大会などに参加して、障害のある方と交流ができるようにしたい。そして障害者への理解をしてもらえるようにしたい。
・スポーツ活動がたくさんできる場や機会を増やしてほしい。理解のある先生が教えてくれると、なお良いと思う。
・障害者と健常者が一緒に楽しめる場所があれば良いと思う。障害児（者）を理解してもらえる機会の場を作ってほしい。
・地域との交流を深める意味でも障害者の方が進んでボランティア活動に参加できるような場を作ってみたらどうか。

≪安全・安心に関すること≫

- 地震などの災害で避難生活になった場合、障害者に配慮してもらえるのか。例えばスロープ、トイレに手すりなど、入浴可能になった場合など。スマホ、パソコンのない人にも情報が分かるようにしてほしい。
- 早めの災害時のコンタクトは必要だと思う。
- 地震情報が勝手にメール配信されるように、非常時には必要・不必要関係なしに情報配信されると安心だと思う。

≪情報、啓発・差別の解消に関すること≫

- 外見からでは分からない内部障害という障害もあるということが分からない人が多い。障害者用のスペースを利用するといつも変な目で見られるので内部障害について理解を深めてほしい。
- 健常者と同じ生活ができなくても、お互いに理解し合えてコミュニケーションをとれる場にしていきたい。
- まだまだ障害に対して良いイメージを持っている人が少ないので、学生の時から障害について理解できるようにしてほしい。
- 自分で調べて初めて分かることが多いので、もっと行政からの情報伝達を充実させてほしい。
- スマホで情報を流してほしい。アプリのようなものに登録して、障害者でもできるバイト情報、教育、趣味などの教室の情報をもらえれば嬉しい。
- 市民に尼崎市手話言語条例を広めてほしい。知らない人が多いので。
- 精神障害を理解している場が少ないと思うので、人とのふれあいに対してもコミュニケーションに対してももっと話しやすい場所を作ってほしい。
- 暮らしやすい尼崎市を作るために情報保障を聞こえる人と同じようにしてほしい。

≪権利擁護、行政サービス等における配慮に関すること≫

- 成年後見制度をよく知りたい。
- 一人ひとりの人権と尊厳が守られ安心で安全な暮らしができる町づくりを頑張ってほしい。
- 何でもその人の（当事者）立場に立って考えてほしい。当事者の声をきちんと聞いてほしい。
- 役所の方の電話での対応も丁寧に聞いていただいて助かっている。

尼崎市障害者計画等の改定に係るアンケート調査結果報告書

【発行】尼崎市役所 障害福祉政策担当
〒660-8501　尼崎市東七松町１丁目23番１号
TEL：06-6489-6577
FAX：06-6489-6351